

・景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)	良くなる	－	－
	やや良くなる	商店街（代表者）	・株価の上昇が続くことで、消費意欲が高まる。
		商店街（代表者）	・今年の春のトレンドは、パンツスタイルが中心という傾向にあることから、今までスカート層だった人が、新しいスタイルを目指してパンツを買う機会が増えてくることになり、今よりも少し購買が増える。
		商店街（代表者）	・雪の影響が少なくなり、道央圏からの旅行者及び道外からの観光客が増加する時期であるため、観光業のみならず、付随したホテルや交通、飲食、お土産等で売上アップが期待できる。
		商店街（代表者）	・各団体の新年会が行われているが、出席率が高く、経営者の顔もとでも明るい。新政権の経済政策の影響とみられるが、経営者の気持ちが高揚しており、そのことが景気に刺激を与えそうな状況である。実際の消費にはまだ影響していないが、今後に向けて期待が持てる。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・新政権による景気回復策と首相自身の持ち味で、今後への期待感が高まっており、客との会話でも景気が良い方向に向かうととらえている客が多い。
		スーパー（店長）	・政権が変わったことで、良くなることを期待している。
		スーパー（企画担当）	・新政権の経済政策により、心理面での浮かれ消費が誘導されることになる。
		コンビニ（エリア担当）	・公共事業が増えてくれば、現場作業員が増加し、食品の購入が増える。
		家電量販店（経営者）	・進学や就職の需要期に入るため、やや良くなる。
		家電量販店（地区統括部長）	・前年に比べて、景気上昇の機運がみられる中、テレビの販売が月を追うごとに回復してきており、今後に期待できる。また、一人暮らし家電の需要も、最悪であった前年と比べて、回復傾向にあるため、やや良くなる。
		乗用車販売店（従業員）	・税金のからみで変わる。
		乗用車販売店（従業員）	・暖かくなるにつれて、販売量、来客数の動きが確実に良くなるため、春先の需要が見込める。
		乗用車販売店（営業担当）	・政権が変わり、年も明けたことで、少々明るさが見えてきており、売り手も買い手も動きが活発になってくる。
		自動車備品販売店（店長）	・車検も含めて、来客数の増加が見込める。ただ、ガソリン、灯油価格の高騰により、必要最低限のメンテナンスにとどまるとみられる。
		スナック（経営者）	・現状を踏まえた希望的観測である。
		スナック（経営者）	・政権が変わって明るいニュースが増えており、経済面では効果が上がっている。売上、来客数が増えているわけではないが、期待感が高くなっている。
		観光型ホテル（経営者）	・現時点では、国内客の動向は予想できないが、このまま円安傾向が続けば、外国人客が確実に増える。一方で、円安により、輸入材が値上がりしてきており、少しずつ経営を圧迫している。
		観光型ホテル（スタッフ）	・雪まつり期間の集客状況が好調である。国内外からの団体観光旅行の予約も前年を上回るペースで推移している。
		旅行代理店（従業員）	・市長の交代や自民党の復権などにより、景気回復への期待感が高まっており、消費マインドも上昇する。
	タクシー運転手	・雪のある間は、タクシーの需要が見込めるため、4月の雪解けまでは、前年より少しは良くなって推移する。	
	タクシー運転手	・若干ではあるが、タクシーの売上が良くなってきている。これから歓送迎会などの季節を迎えるため、やや良くなる。	
	観光名所（従業員）	・今年は、春節が2月になっていることから、2月に入ってから外国人観光客の動きが出てくる。実際に、ここ数年、年を越してからの冬の観光入込は、春節を経過してから伸びてくる傾向がある。特に、台湾からの観光客は、定期便に加えて、2月以降、臨時便も運航されることから、期待できる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		美容室（経営者）	・今までの閉そく感から脱却して、少しは生活を豊かにしたいという雰囲気が出てきている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・例年、春を迎えるとともに工事関係の車両輸送が増加するほか、若干ではあるが観光客も利用するようになる。
		住宅販売会社（経営者）	・株高円安の状況がどこまで続くのか、また、実体経済にどの程度反映してくるのかを注目している。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税前の駆け込み需要が増える。
		住宅販売会社（従業員）	・これから、消費税増税に向けての駆け込み需要が本格化する。また、住宅購入に関する税制措置も明らかになってくるため、マンション購入を先延ばしにしていた客が購入に動き出す。
	変わらない	一般小売店〔酒〕（経営者）	・前年の秋以降、約半年間にわたり良くない状況が続いているため、今後も同様の状況が続く、あまり期待を持っていない。
		百貨店（売場主任）	・9月、10月と買上客数が前年実績に近づいていたが、11月以降、再び落ち始めている。
		百貨店（販売促進担当）	・2月についても、雪害による交通機関のまひなどが予想される。また、灯油の高騰により、暖房費の上昇がますます生活を圧迫することになり、生活防衛に走らざるを得ない状況になる。
		百貨店（販売促進担当）	・客単価の低下は一過性のものであり、今後の回復が見込めるものの、来客数の漸減を上回るほどの伸びは期待できない。また、継続的な来客数の減少を食い止める施策にも乏しい。
		スーパー（店長）	・この先の消費税増税もあり、政府がどのような政策を打ち出しても、個人の可処分所得が増えなければ、心理的にも客の財布のひもは固いままである。
		スーパー（役員）	・政権交代で良くなっている業態も数多くあるのかもしれないが、商品を主体としたスーパーマーケットでは、少子高齢化、ホームセンターやドラッグストアの食品部門への参入、コンビニエンスストアの店舗数の増加などにより、厳しい状況が続く。
		コンビニ（エリア担当）	・夜間の売上減少は一時的なものと思われるが、早朝の時間帯でたばこを購入する男性客の減少が続いている。東日本大震災以降、公共投資が減少しているせいも、この傾向が顕著である。
		コンビニ（エリア担当）	・工事現場従業員の来店や車で来る客の動きについて、具体的に増加を示す指数が出てこない限り、現在の状況が継続する。経済政策による景気回復も時間がかかるため、2～3か月での改善は見込めない。
		衣料品専門店（店長）	・良くなるような材料が全くない。
		衣料品専門店（店員）	・北海道の暖房は灯油や重油によるものが多いため、原油価格の値上がり、家庭での暖房費にすぐ響くことになる。どこかで出費を削らなければならないため、衣料の購買意欲について節約傾向が出てくることになる。当店の店舗ビルも、暖房に重油を使っているが、前年に1か月当たり30万円の費用だったところ、今年はすでに1か月当たり50万円近くかかっている。
		家電量販店（店員）	・2月は春商戦まで間があるため、期待感が薄い。LED照明器具は、いまだによく売れているが、テレビの売上回復がみられないため、厳しさは続く。
		乗用車販売店（経営者）	・軽乗用車を除いた1月の市場は前年を下回ったが、予想の範囲内であった。一方、自社扱いの新型高級車の受注が好調であるため、景気の先行きは変わらない。
		乗用車販売店（従業員）	・景気が多少上向きになるような期待はあるが、販売量の増加に結び付くのは、まだまだ先になる。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・健康への意欲が湧くくらい、明るい話題が先行するようではなくては医薬品小売業は厳しい。
		高級レストラン（経営者）	・新政権の経済政策で景気が上がってくるのは、まだ先のこととなる。消費税等の税金が上がることへの不安材料もあり、まだ当面は景気が上がってくるとは思えない。
高級レストラン（スタッフ）	・2～3か月先では、まだデフレから脱却できていない。		
旅行代理店（従業員）	・12月～3月は月による変動が大きく、国内旅行、海外旅行とも前年比がまちまちである。ゴールデンウィークの先行受注状況もまだそれほど伸びがみられない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		タクシー運転手	・政権交代による発信力の強さから、経済再生に向けての動きが活発になってくるが、それが日常の消費動向につながるかについては、まだ不透明な状況であり、今後も予断を許さない状況が続く。	
		タクシー運転手	・景気が良くなる要素が思い当たらない。	
		通信会社（企画担当）	・春の新品や新サービスに対する店舗での客の反応が低いままである。	
		美容室（経営者）	・灯油、ガソリン、野菜の高騰により、消費を控える傾向になる。	
	やや悪くなる	百貨店（売場主任）	・長期予報が出たが、例年よりも寒い日が続くということから、春物のスーツ、コートなどの動きが悪くなることが懸念される。	
		スーパー（企画担当）	・雇用環境や所得環境が好転していない中、円安によるガソリン、灯油等の値上がりが始まっており、家計へのマイナスの影響が懸念される。	
		スーパー（役員）	・円安の影響が、真っ先に灯油代、ガソリン代の上昇に反映されているため、客の購買意欲が高まるとは考えられない。さらに節約思考が強まることになる。	
		高級レストラン（スタッフ）	・春に向けて来客数が増え、売上が上がることになるが、季節要因である。せつかくの景気対策も、大きな事業ばかりが目につき、家計動向には関係しそうにない。	
	悪くなる	旅行代理店（従業員）	・先行受注をみると、国内旅行は2月が前年比78.7%、3月が前年比93.4%、海外旅行は2月が前年比79.7%、3月が前年比124.9%となっており、3月の海外旅行に期待は持てるが、トータルすると今月より悪くなる。	
		タクシー運転手	・12月の乗客数、売上とも前年を上回ったが、大雪による利用数の増加であり、景気が高揚しているわけではない。	
企業動向関連 (北海道)	良くなる	建設業（従業員）	・新政権の大型補正予算により、公共事業枠が拡大したことで、コンクリート等の建設単価が値上がりし始めている。	
	やや良くなる	食料品製造業（団体役員）	・観光分野においては、冬のイベント開催、海外からの入込客の増加、円安等の好影響により、ホテルでの宿泊も含めて、先行きの見通しに期待できる。	
		金属製品製造業（役員）	・消費税増税の影響で購買意欲が出てくる。	
		建設業（経営者）	・緊急経済対策として、公共工事の予備費、補正予算、ゼロ国債による発注が2～3月に予定されている。本予算と合わせると15か月で約1.5倍の工事量が見込まれるため、久々の追い風となる。ただし、近年の各社のスリム化により、技術職員、作業員、機械が大幅に減っており、そのことが工事の進捗に大きな影響を与える。同時に、単価アップで採算性もかなり悪化する。いわゆる豊作貧乏になる懸念が大いにある。	
		輸送業（支店長）	・補正予算も決まり、復興関連、公共投資関連の工事がいよいよ本格稼働することが期待される。株価も上向いており、民間企業の新たな投資案件も動き出すことになる。	
		通信業（営業担当）	・具体的な効果を実感するのはまだ先の話になるが、新政権の景気刺激策が消費者のマインド面を刺激することで、この先の景況感は今よりもやや良くなる。	
		金融業（企画担当）	・大型補正予算による公共工事の増加で、基幹産業である建設業の業況が上向き、地域経済にも波及してくる。円安は、ガソリン価格や灯油価格の上昇を招くが、外国人観光客の増加も見込める。	
		司法書士	・新政権の発足で景気対策を重点的に行うことが決定したので、その効果が少しは現れるのではないかと期待している。	
		コピーサービス業（従業員）	・現状の受注量の増加傾向はまだ加速するとみられる。新規事務所、社屋の新築等の話も出てきていることを踏まえると、良くなる。	
		その他サービス業【建設機械リース】（営業担当）	・社会インフラに対する補修、整備への機運が高まっている。	
		その他非製造業【鋼材卸売】（役員）	・これから3月にかけて、官庁関連の予算拡大にともなう期末購入や、取引先の駆け込み需要が見込まれる。	
		変わらない	食料品製造業（役員）	・受注量の減少が当面続くとみられる。
			家具製造業（経営者）	・円安による輸入材料等の値上がりなどが、景況改善の足かせになりかねない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（営業担当）	・自民党政権に変わり、円安、株高となっているが、実態面での動きはこれからになる。また、政権が公共投資の増加を掲げているが、実際に期待できるのは、工事が開始してからになる。
		司法書士	・国の経済政策により明るさが見えているが、今はまだ結論を出す時期ではなく、若干の時間が必要とみられる。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・建設業における人手不足、特に技術者の不足は深刻であり、政策的に公共工事が増えるとしても対応しきれない、マイナス要因があることから、2～3か月程度で急激な回復に至ることはない。
	やや悪くなる	出版・印刷・同関連産業（従業員）	・良くなる要素がない。
			司法書士
	悪くなる	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・来年度中には景気が良くなるのではないかという声を聞くが、年度始め早々に仕事が立ち上がる、又は受注量が増える気配がない。
雇用 関連 (北海道)	良くなる	—	—
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・企業の求人意欲が感じられ、特に農産物の製造加工業の人手不足感が顕在化してきている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・公共事業予算や雇用促進対策費など、デフレ脱却の報道が先行きを明るくしている。企業の採用ニーズが今より高まるのは必然である。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・求人や求職が増えても、企業の利益が労働者に還元されなければ景気は回復しない。企業の利益が増えたからといって、2～3か月で給与が急に上がるとは考えにくい。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・求人数が前年を下回る業種が目立ってきたが、前年の伸びの反動の可能性もある。新政権の政策に期待する声もあるが、2～3か月で悪化又は好転するような動きにはならない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・元々、公共投資依存型の体質がある地域のため、政権が変わったことに対する期待感は大い。一時的に良くなる気配はあるが、本質的な産業構造等が変わらなければ、長期的には厳しい傾向となる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新政権になって、公共事業が厚みを増すことが想定されるため、その効果が前倒しで出てくることを期待している。
		職業安定所（職員）	・12月の管内の有効求人倍率が31か月連続して前年を上回っており、新規求職者も減少傾向が続いている。
		職業安定所（職員）	・今まで若年層の採用を控えていた地域の中小企業で、社員の年齢構成や技術継承が問題となってきたことから、採用意欲が相当高まってきている。ただし、4月からの高年齢者雇用安定法の改定にともない、65歳までの雇用を確保する必要があるため、実際には求人票提出にまでは至っていない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・変動要素が感じられない。
やや悪くなる	—	—	
悪くなる	—	—	

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (東北)	良くなる	百貨店（経営者）	・県内企業は輸出企業の部品を製造している所が多い。円安により企業業績が上向くことが期待できる。また、株高により高所得層の購買力が上向くことも期待できる。
		コンビニ（店長）	・新政権への期待度や円安傾向により多少の好景気は起こる。また、雪解けの時期になると人の動きも気持ちは活発になるので期待できる。客も多少なりとも近隣の新店から戻って来るとみている。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	・新年度を迎えるにあたり、人や物の動きはあるが、就労人口の減少などにより今までのような大量の発注というのはなくなるだろう。しかも値段の安い方へ移行しているので、金額自体上がらないのではないかと予想している。異業種への参入などを検討せねばならないとも考えている。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・具体的な数字の予測ではないが、しばらくしたら消費マインドの上昇が期待できるのではないか。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・前年と比較しての状況判断は難しいが、徐々に生活必需品的商品の動きが活発になってきたようである。
		商店街（代表者）	・今月下旬から2月後半まで、当市の中心市街地で冬季イベントが矢継ぎ早に開催される。鉄道会社の旅行商品とも抱き合わせをして、県外及び地域外からの来客数も多くなると期待している。
		商店街（代表者）	・新政権の経済対策に期待する声は高い。3、4月の新入学、就職へのスプリングセールを盛り上げたい。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・来客数の動き、販売量の動きは前年の後半から徐々に良くなってきている。今月は天気が悪いのでやや悪くはなっているが、本来客は普通に買物をしているといった状態なので、今後、天気が回復次第、良くなる方向に向かう。
		百貨店（企画担当）	・消費税増税前の政府の消費刺激策は、春以降効果が多少出てくるとみる。ただし、一部店頭でも輸入品の一部値上げなどを実施してくるブランドもあり、短期的な駆け込み需要はあるが、その後は一時的に消費マインドが停滞することも懸念される。
		百貨店（営業担当）	・政府の景気対策の具体案が明確になるにつれ景気は良くなる。また、来年の増税前の駆け込みにより、高額品などは少しずつ動きが出てくるとみられる。
		百貨店（買付担当）	・政権交代により、株価上昇並びに消費税増税による駆け込みなどが期待できる。
		百貨店（売場担当）	・2月は引き続き天候が厳しいが、百貨店の強みであるオケージョンニーズを最大の強みにして前年に挑む。
		百貨店（経営者）	・政権が変わり円安、株価の上昇で含み益が出ているせいも、一部で今まで以上の高額品に動きが出てきている。全体に波及するのは今後も現状が続けばだが、やや良くなる兆しがみえてきた。
		スーパー（店長）	・春先になれば購買指数も上昇し、業績回復傾向になるとみているが、商圏内の競合状況は変わらないため、やや良くなる程度にとどまると予想している。
		スーパー（総務担当）	・今月は前年よりも降雪量が多く、来客数は前年比94%と低下している。2、3か月後も円安・株高傾向は維持されるとみているので、景気は引き続き上向くと予想している。
		コンビニ（経営者）	・今月は来客数及び客単価は前年比2、3%の増加にとどまっているものの、買上点数が6%増加している。これほどの上昇は今までなかったと思われ、今後の明るい材料である。これまでは来客数の増加で売上が伸びる傾向にあったが、これに買上点数のアップが加われば、景気は更に良くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・政権交代後の経済政策への期待がある。付加価値があるものを中心に、比較的高単価の商品の販売が継続して良い。
		コンビニ（エリア担当）	・気温の上昇に伴って人々の動きも活発化するとともに、間もなく震災から2年が経過し、復興作業がさらに本格化する。
		衣料品専門店（経営者）	・気候が落ち着き暖かくなれば、客足も伸びて少しは消費に繋がるであろう。
		衣料品専門店（店長）	・景気の先行き不安から消費を控えていた消費者が動き出している。また、高単価の商品が動き出している。そういった点から、全体的に消費マインドは上がってきているように見受けられる。
		衣料品専門店（店長）	・春物の本番の時期になるので、今より活気が出る。
		衣料品専門店（店長）	・高校生、大学生の就職率の改善により、フレッシューズでの需要が増えると予想される。
		衣料品専門店（総務担当）	・新年度、新学期等節目になるので、学需による商品購入に期待したい。
		乗用車販売店（経営者）	・3月が年間最大の需要期であり、若干下降気味にはなるものの、5、6月ごろまでは続くと予想される。
		乗用車販売店（従業員）	・政権が変わったことにより、皆が期待している。
		住関連専門店（経営者）	・消費税増税前の駆け込み需要が今から伸びてくるとみている。また、就職や進学等で移動があるので、動きやすくなって売上にも寄与し、現状よりはやや伸びると予想している。
		住関連専門店（経営者）	・今月がどん底の状態なので、2、3か月後はそれよりは多少良くなる。ただ、店の周りにも同業者が出店しているので、苦戦を強いられるとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・雪解けが進み、春の足音が聞こえてくる季節になれば、気分的にも消費をしようという気持ちが出てきて、上向きの傾向になる。
		高級レストラン（経営者）	・ある程度お金も持っている方が何となく使う雰囲気になってきているようであり、あと半年くらいは上向きの形が続くのではないかとみている。
		高級レストラン（支配人）	・新年以降は浪費を引き締めてきたが、新年度のスタートに伴い上半期の見通しが立ち、春シーズンの人や物の動きが活発になる。
		一般レストラン（経営者）	・政府は参院選までに経済問題をクリアしようとてこ入れをしてくる。また、お金のばらまきも始まると予想されるので、そのお金が回って良くなるのではないかと。
		スナック（経営者）	・今月、来月を何とか乗り切ると3、4月と歓送迎会のシーズンに入るので、多少団体客も動いてくれるのではないかと期待している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・全体的な少子高齢化の波は変わらず、全体的に見れば衰退していつている。現在の寒さは11月半ばから続いているので、これから暖かくなるにつれ、みんな行動的になるし、色々な所に出かけるようになり、消費も伸びていくという状況が見えてくる。
		旅行代理店（店長）	・政権交代以降の景況ムードが良く、消費マインドが上向いていく可能性が高い。
		タクシー運転手	・まだまだ仕事が無い。特に継続している仕事が無いという話を聞く。仕事が安定しないと景気は良くはならず、具体的にははっきりと良くなる要因はいえないが、良くなるのではないかと。
		通信会社（営業担当）	・確定申告の時期でもあり、2～3月ごろに消費動向が若干上向きになるのではないかと。政権交代により予算が実行されれば景気が上向きになる。
		観光名所（職員）	・イベントの告知、実施で来客数増を図る。
		遊園地（経営者）	・新政権が経済政策に重点を置いており、好転のきっかけになってくれるのではとの期待がある。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・売上、販売単価共に前年以上であり、しばらくは好調が続くとみられる。
		住宅販売会社（経営者）	・個人の消費税増税を見越した駆け込み需要と、公共事業発注量増が確実にある。
変わらない		商店街（代表者）	・消費という観点からは、今後も厳しいという見通しを持っている。企業の業績が上がり、給料に反映されるまでは消費意欲が急に好転することなど期待薄である。基本的には良くなっているけれども、このままの状態が少なくともしばらくは続くとみている。
		商店街（代表者）	・町に力がない。復興支援のお金は回ってこない。
		一般小売店〔書籍〕（経営者）	・客の消費に対しての選択が一時よりは厳しくなっているため、消費マインドがプラスになる材料が整わないと難しい。
		一般小売店〔スポーツ用品〕（経営者）	・春先の需要を考えると、このまま行く。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・インフレターゲットと円安、そして輸出競争力の回復から株高に波及する等、企業の経営環境などは良くなるとみている。一方で、エネルギーや食料の輸入コストは上昇するわけで、消費者の生活については、長期的に楽観が許されない。しかし、今しばらくは、物価も落ち着いている上に景況感が改善してくるといふ安定状態が見られるのではないかと。
		百貨店（総務担当）	・政府の景気対策だとか日銀が物価上昇率の目標数値2%を打ち出したりしているが、実際に客の所得が増えるかというところ、今のところ連動するという確実性はなく、引き続き消費者の財布のひもは固いまま推移するとみている。
		百貨店（経営者）	・公務員給与削減等も控えており、上がる要素に乏しい。
		スーパー（経営者）	・前年は大雪に加え2月は閏年でプラス1日であったため、マイナスは避けられないが、どの程度で止まるかといったところである。
		スーパー（経営者）	・経済数値は良い傾向に動いてきているが、消費環境改善までには至っていない。政府の政策への期待が大きくなってきているようだが、執行はまだなので実質的にはまだまだ時間を要する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・年末にはきだした分、年が明けてから特に客の財布のひもが固くなっている。価格競争はますます激しさを増し、企業の規模による体力の差が顕著になっている。
		スーパー（店長）	・競合店との価格競争、販促など競合状況が変わらなければ、客の流れ、購買行動は変わらない。
		スーパー（営業担当）	・ここ数か月の営業数値の推移から、客の購買行動がすぐに変わることは考えられない。
		スーパー（物流担当）	・新政権の経済対策の効果が現れるには時間が掛かる。また、より庶民生活に密着する光熱費等の値上がり、まともに冬場の家計を直撃しているため、景気状況は変わらない。
		コンビニ（経営者）	・現在、放射能の影響で人口が減っている。そういう面では何とか現状維持を保てるかが問題である。自民党政権になり、これから公共事業がどんどん出てくれば、人口減少で下向きになっている景気が横ばいになる可能性がある。
		コンビニ（経営者）	・競合出店の影響はまだわからないが、悪くなることは変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・景気が上向く予想だが、コンビニエンスストアの景気回復は遅れる。
		コンビニ（店長）	・アベノミクスにより、株価が上がり円安が進んでいるが、逆に原油価格が上がり、ガソリン代や電気代の値上げが見込まれるため、庶民感覚では今後すぐに景気が良くなるという考え方はされないようで、消費行動は慎重な状況が続いている。今後しばらく、下がりはないが変わらないのではないかと予測している。
		衣料品専門店（経営者）	・新政権の景気対策に対する期待感はあるが、一般世帯への消費を向上させるまでには至らない。
		衣料品専門店（経営者）	・新政権には、早急に具体的な景気浮揚対策と地方が元気になる方策を示してもらいたい。
		衣料品専門店（店長）	・これからの3か月先というのは、いわゆるフレッシュマンという、春から仕事や進学される方が増えてくるが、今年は東北地方の就職に関しては比較的順調だと聞いているし、一時期のデフレ状況ではなくて、単価に関してもそんなに安いもの安いものという流れがあまりないので、単価、来客数共に順調に確保できるのではないかと予測している。
		衣料品専門店（店長）	・特定建築物に対する耐震診断の義務化が検討されるとの報道がある。耐震診断に1千万円単位の費用、また億単位の耐震化工事費用の捻出等、将来の費用負担増が懸念される。特に工事費用の公的な費用補助がないと営業が非常に難しくなってくる。
		家電量販店（店長）	・景気対策の実施にまだ時間が掛かる。
		家電量販店（店長）	・家電の先食いをしたテレビのぼん回は今後もできない状況が続くので、目立った新製品の発表がない限り、世の中全体が回復基調にあっても、業界にとっては回復は難しい。
		家電量販店（店長）	・当県は復興需要等はあるようだが、それが家電製品の購買には繋がっていない。家電製品の購買につながっていた時期は終了したようである。今後は通常の買換え需要等を見越した商売になってくる。引越しシーズンやシングルライフといわれる1人立ち向けの春の需要は例年並みではないかとみている。タブレットや新しい商品の人気は高いので、こちらで多少期待が持てる。
		乗用車販売店（経営者）	・個人消費は底堅い動きとなっているとのことだが、車販売に関していえば、現状、新型車は好調な滑り出しであるが、その新型効果も短期間で終了しており、やはり、需要の主体は低価格で低燃費の車である。客の様子や話からも需要回復のきっかけは見当たらず、当面現状の低迷状態が続くものとみられる。
		乗用車販売店（経営者）	・3月までは今の流れで新車販売が推移するとみられるが、4月以降は自賠責保険の値上げもあり、新車需要にブレーキがかかる懸念もある。
		乗用車販売店（店長）	・業界は期末商戦に差し掛かっているが、目立った新型車発表も無く、しばらくは我慢が必要である。
		自動車備品販売店（経営者）	・自動車補修業界ではマイナスばかりでプラスの要因が全く見つからない。通年は新社会人が増える3月あたりから繁忙期に入るが、エコカー減税導入による影響でその動きも全く変わって、ピークがどこにあるのか判らない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔酒〕 (経営者)	・政権交代で景気対策などのニュースも聞かれるが、実際その影響が一般消費者まで届くのはまだ先である。消費者は簡単に動かなくなってきた。不透明な状況は変わらない。
		その他専門店〔靴〕 (従業員)	・今春の新中学生、新高校生の生徒数は前年とほぼ同数である。大きく減少しないと見込んでいる。
		その他専門店〔酒〕 (営業担当)	・今のところ異動シーズンは前年同様、期待できない。対応策を練って、前年並みの売上に繋げたいと考えている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕 (営業担当)	・冬場の暖房需要が3月で落ち着くため、それ以降の需要落ち込みがカバー仕切れない状況が続く模様である。また、為替の円安傾向が続くと原油の仕入価格が上がり、収益が上がらない状況が長引きそうである。また、ガソリンスタンドの地下タンクの規制強化により、廃業するところが出てくるのが予想されるため、一層厳しい経営状況が予想される。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕 (営業担当)	・日本全体では円安・株価上昇で良くなるが、福島県は原発事故の影響で人口流出等が続いており、先行きは暗い。
		その他小売〔ショッピングセンター〕(統括)	・今冬は、早い時期から気温が低下し始めたこともあり、冬物も早い段階から動き始めた。今後、春が早く訪れれば春物が動き、売上高は確保できるが、冬型の気候が長引けば春物の動きが停滞し、売上高の低下が見込まれる。
		高級レストラン(支配人)	・給与が増えないなか、物価の上昇が始まれば逆効果になる。
		一般レストラン(経営者)	・景気に左右されるという点はあるが、それ以前にもレストランというファンクションが生活のなかから離れてしまっているということ、2、3か月後に客が帰ってくるような印象は持たない。長きにわたって景気が拡大していくことが期待される。
		観光型ホテル(経営者)	・客の入込は例年並みに戻りつつあるが、まだ落ち着かない様子である。
		観光型ホテル(スタッフ)	・県内、近隣からの客についてはほぼ回復している。しかしながら、県外等については、デフレの状況が続いており、本当に個人消費が上向き、明るさが戻るのかどうか多少危惧している。企業努力がますます重要度を増しており、地域並びに個別での企業努力を強気にしないと、しばらくは厳しい状況が続くとみている。
		都市型ホテル(スタッフ)	・消費低迷が如実になっている今、いかに購買意欲のわく商品を作り出していけるか、いかにリピートいただける仕掛けや仕組みを構築するかである。自ら仕掛けた商品づくりを心掛けていく必要があり、売上を作る仕組みをスピードを上げて作っていかねば生き残っていけないと考える。
		都市型ホテル(スタッフ)	・各部門とも売上を伸ばすこともさることながら、経費削減も重要となり、特に不採算部門のレストランは、閉鎖及び営業時間帯の見直しも視野に入れている。
		タクシー運転手	・我々末端の業種ではなかなか現在の動向には付いていけない。
		タクシー運転手	・建設会社の客を乗せた時、現在は震災景気も無くなり大変だ。今よりも悪くなることはないだろうが良くなることもない、という話を聞いた。
		通信会社(営業担当)	・前年よりは徐々に上回っているが、被災地ということで当地についてはそれほど大きな需要は見込めない。ただ、建設業界が少しずつ上向きつつあるということなので、多少そういった動き、流れに変わっているようである。
		通信会社(営業担当)	・政権交代で期待しているが、実感するに至るには時間を要するのではないかと。
		通信会社(営業担当)	・自民党が政権を握り株価が上昇するなど見込みはあるようだが、すぐには効果は現れない。
		通信会社(営業担当)	・好転する材料に乏しく、変わらない状況が予想される。
		通信会社(営業担当)	・大型の公共工事が執行されるのに伴い、一時的に評価指数等は上振れするであろうが、本来の内需拡大につながるのか否か、予断は許されない。
		通信会社(営業担当)	・最も期待できる年末の新規加入者の伸びが、例年に比べて大幅に減少した。この先も大きく回復するための材料が見当たらないため、景気回復は期待できない。しかし、新たな出費を抑え現状のサービスを継続している顧客が多いため、解約者は減ってきている。このため、この先も景気はあまり変わらないとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		競艇場（職員）	・ 娯楽商品の販売なので世間全体の景気が大幅によくなると売上に影響が出ない。
		美容室（経営者）	・ 客のリターン率や客単価はここ半年ばかり横ばいできている。差し当たっての流れではないかとみている。
		設計事務所（経営者）	・ 資材不足等の影響もあるようで、仕事量が増えていく状況ではない。
	やや悪くなる	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・ 4月の春闘では給料値上げの見込みがないということや、電気料金が値上げされることなど、消費者にとっては非常に暗いニュースばかりなので、1月の悪い状態は改善されず、消費行動はやや落ち込み、悪くなるのではないかと考えている。
		百貨店（売場主任）	・ 寒波のなか暖房光熱費の高騰で、生活防衛に入っている。今後の見通しが不透明ななかでは良くなる要因は見つけれない。
		スーパー（店長）	・ 買上点数が伸びない状況になっているので、やや悪くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・ 競合他社の新規出店が加速されるので、客の取り合いも加速し、厳しくなると予測する。
		コンビニ（エリア担当）	・ 競争環境は激化が続く。来期以降の出店計画は過去最高となり、県内も同様の予測となっている。1店当たりの売上は更なる苦戦が予測される。
		乗用車販売店（エリア担当）	・ 初売りは良かったものの、それ以降の好転要因が見当たらない。
		乗用車販売店（店長）	・ 今月は初売り効果などがあり販売量が増加したが、2月は毎年販売量が落ち込むこともあって、全体的には減少傾向になると考えられる。
		住関連専門店（経営者）	・ アベノミクスによる株価などへの好影響が地方経済まで浸透するには相当の時間を要する。また、副作用が無いことを祈る。
		その他専門店〔パソコン〕（経営者）	・ 先が期待できる客は何件か確保しているが、一般客の要望や動きがない限り厳しい状況は続く。
		一般レストラン（経営者）	・ 世間的に見れば良くなっていくであろうが、外食までくるのは時間が掛かる。当社はやや悪くなっていくとみている。
		一般レストラン（経営者）	・ 2月と8月は商売が振るわない月なので、1月より若干悪くなるのではないかとすることは、市場関係、業者関係、同業者も口をそろえて言っている。客の動きを見ていても、そうなることが予想される。
		一般レストラン（経営者）	・ 景気回復の政策が早い段階で運用されれば、景気は少なからず上向きになるのだろうが、現状では政策が決まったとしても、運用されるまでに期待感の方が高まり過ぎてしまいがちである。時間がかかってから政策が開始されたとしても、それまでに経済状況が更に悪化する傾向にあるため、結局は追い付いてこない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・ 被災地ということで前年来復興特需が続いていたが、個人、団体共に来客数が前年を割り始めており、来月以降の予約状況も前年同時期と比較して少なくなってきた。
		都市型ホテル（スタッフ）	・ 一般宴会部門は前年並みに推移するとみられるが、婚礼部門の予約状況は前年の半分程度である。前年は震災で婚礼を遅らせた方々の利用が多々あった。
		旅行代理店（経営者）	・ 前年は団体旅行よりも個人旅行の販売が大分好調であったが、現在、その個人旅行の販売が落ち込む形で推移している。元に戻ったと考えれば例年とは変わらないが、前年との比較ではやや悪くなるのではないかとみている。
		旅行代理店（従業員）	・ 12月以降、受注状況が2010年度比で下回る月が出てきている。
		テーマパーク（職員）	・ 政権交代はしたものの、一般の人までには波及効果は及んでいないようである。
		観光名所（職員）	・ 予約状況も芳しくなく、この先何かイベント等の大きな動きも無く、良くなるような材料が無い。このまま若干沈んでいくような状況が続くのではないかと。
		美容室（経営者）	・ 最近1,000円カットなどの利用客が増えてきている。安くできること安くしようとする様子がうかがえ、カット料金もなるべく節約する方が増えてきているようである。
	悪くなる	一般小売店〔寝具〕（経営者）	・ 2、3月は商品の販売量も動きが少ないので、今年もまだ見通しがついていない状況である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（経営者）	・新政権が財政出動やら金融緩和、さらには成長戦略の3本の矢を立て続けに放ち、マインド的には明るくなる要素もある。しかし、それでも地方においてそれが企業業績や所得、雇用等に反映されるのはまだまだ先であるという認識が広まっている。
		観光型旅館（スタッフ）	・第1四半期は団体型の先行予約の獲得に完全に失敗した。第2四半期は多少予約を獲得できそうだが不透明である。個人型については仕掛けがこれからであり、あまりに遅い。有効な手段もなく、第1四半期は捨て、更に第2四半期まで影響が残りそうである。
企業動向 関連	良くなる	輸送用機械器具製造業（経営者）	・政権交代による期待感から円安傾向になっていることが追い風となる。為替の上昇も起因するはずである。
		建設業（従業員）	・2013年度予算案が閣議決定されたことにより、公共工事の大規模発注に対する期待感が高まっている。
(東北)	やや良くなる	食料品製造業（総務担当）	・政府の経済政策に期待する。
		繊維工業（経営者）	・円安に向かっていることやデフレからの脱却、思い切った政策を実行すること等、積極的な公共事業投資等、期待が持てそうである。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・年度末ということで、本来は仕事の量が増える時期であるが、現在、予算取り等の引き合いが例年に比べて少ない。
		出版・印刷・同関連産業（経理担当）	・政府の景気対策が動き始め、全業種において景気は上がっていく。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・円安傾向による輸出事業業績の大幅な改善が見込まれる。当社の事業分野における製品需要と供給のバランスが改善し、製品価格が上がりつつある。これらの影響で大きく事業業績が改善する見通しである。
		輸送業（従業員）	・震災復興による企業活動の再生が期待される。
		通信業（営業担当）	・政治次第である。
		広告業協会（役員）	・例年季節的要因により3、4月は広告活動が活発になるが、今年は早い段階で発注が増えている。
		広告代理店（経営者）	・円安・株高の影響で企業の上方修正があれば、年度内予算消化が進むかもしれない、という期待が高い。
		広告代理店（経営者）	・様々な引き合いが来ている。
		経営コンサルタント	・円安に株高が加わり、新政権の経済政策の効果が持続的に拡大すると期待している。
		司法書士	・住宅購入希望者の消費税増税前の駆け込み需要が多くなることが見込まれている。
		公認会計士	・新年度に向けて、復興需要の話が徐々に出てきている。春以降は少しずつであるが景気の上向きが期待できる。
		コピーサービス業（経営者）	・営業マンの行動が活発になり、市場が動き始めている。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・会社員は収入が良くなってきたようで、購買意欲が増してきているようである。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・4月から始まるデスティネーションキャンペーンに向け、観光業を中心にイベントの影響が出始めている。観光ホテル、飲食店向けの酒類供給が少しずつ増えていく見込みである。
		その他企業〔工場施設管理〕（従業員）	・「八重の桜」や白虎隊のドラマの影響で、観光客も増え、それにあやかったグッズやお菓子などの販売も今後もますます増えていき、景気も良くなっていくのではないかと。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	・4月からはJRのデスティネーションキャンペーンが始まるので観光客も増えるだろうが、それまでは厳しい。
		木材木製品製造業（経営者）	・住宅部材の需要が強含みであるが、急激な円安で、輸入材の価格転嫁が追い付かず、収益の改善が進まない。
		土石製品製造販売（従業員）	・年度末までは今年度の予算内での工事が多く、景気に影響する新規発注工事は望めない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・まとまった受注が見込めるところがほとんどない。新規開発や新規の分野開拓に時間とお金を差し向けているが確率は低いのが現状のため、大きく変わることはない。
		建設業（経営者）	・今後、景気が良くなるだろうという期待感があり、工事量も増えると予想される。消費税増税に関連しての工事は今のところ出てきていないようである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		建設業（企画担当）	・国家予算の増額等から年度末には量的に上向きに向かうとみられるが、技術者不足、労務者不足やコストアップによる入札不調等、業界や発注者側の対応能力の限界が心配される。	
		通信業（営業担当）	・顧客の冷ややかな反応からも予断を許さない状況ではあるが、受注量増加の傾向はもうしばらく続く。	
		通信業（営業担当）	・自民党の景気刺激策に期待するが、まだ実感は無い。	
		金融業（営業担当）	・特に大きな変化要因は無い。	
		金融業（広報担当）	・円高・株安の是正による効果が期待されるものの、目先2、3か月で投資活動や消費行動に動きが出るかは見極めが必要である。	
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・住宅建築に関し1,000億円の震災復興予算が付く見通しだが、すぐには住宅の供給力に結び付かず、当面業界の状況は変わらない。ただし、不況とは性質が異なる。	
		金属工業協同組合（職員）	・依然として、これといった良い材料は見受けられない。超短納期、低価格であり、半月先の受注確保は見えない。	
やや悪くなる		農林水産業（従業者）	・燃料価格の上昇が春先の農作業に影響を与える。	
		一般機械器具製造業（経営者）	・自動車部品については、輸出環境はやや良くなりつつあるものの、一部ASEAN地域の需要の減少並びに国内需要の減少傾向があり、現状よりも悪くなるとみている。	
		輸送業（経営者）	・現状も非常に厳しい状況ではあるが、さらに燃油、軽油の高騰もあり、業界は更に厳しくなっていくのが確実視されている。	
悪くなる		農林水産業（従業者）	・もも、なし、りんごなど果物全般において価格が例年の7割程度であった。多くの農家がお金を生産資材の購入へは回すことができない状況である。安かった原因は風評被害によるものだと言っていた。	
雇用 関連 (東北)	良くなる やや良くなる	—	—	
		人材派遣会社（社員）	・企業採用担当者から攻めの言葉を聞くことが多くなった。特に即戦力営業についてのリクエストが多いのも特徴的である。販売面など売上増加への強い意欲がうかがえる。	
			人材派遣会社（社員）	・新政権の経済対策により企業側の期待感が膨らんでいる。
			人材派遣会社（社員）	・政権交代の影響で良くなってほしいという期待がある。
			アウトソーシング企業（社員）	・復興関連が今年度いっぱいはずと考えられる。
			新聞社〔求人広告〕（担当者）	・復興絡みの求人も一段落し、停滞している。今後、政府の景気浮揚策が被災地でも有効に発揮される期待感があり、それが求人に反映されれば少しは上向き傾向になる。
			新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求人広告の本数自体は増えてきた実感はないが、業種が広がってきているように見える。
			新聞社〔求人広告〕（担当者）	・取引先からは、2月、3月には前実績以外での広告出稿があるとの話もあり、実績の広告主に対しても期待している。
	変わらない		人材派遣会社（社員）	・求人の意欲は今も活発化しており、その傾向がしばらく続くのではないかとみている。
			新聞社〔求人広告〕（担当者）	・政権が変わりムード的には明るい、観光やエネルギーの先行き不透明で、上昇の動きはまだ見えない。
			職業安定所（職員）	・政権が変わり、公共事業主導での景気対策を打ち出しているものの、庶民の懐までお金が回ってくるのか懸念がある。
			職業安定所（職員）	・特に状況的には変化の兆しはない。基幹産業である製造業の回復がないと、厳しい状況は続くのではないかと。
			職業安定所（職員）	・介護施設や小売店などの新規開業予定もあり、求人数は依然として高水準で推移するものとみられるが、製造業からの雇用調整助成金の問い合わせや、企業整備予定などもあり、状況がさらに良くなることは考えにくい。
			職業安定所（職員）	・求人倍率の改善が、一方で復興にかかる労働力不足を懸念させる。
職業安定所（職員）			・求職者数が一層の減少に向かうまでには、更に時間が掛かりそうである。	
職業安定所（職員）			・製造業は円安になれば少し持ち直すと考えられるが、今月以降も周辺の企業では人員整理の予定もあり、今現在の状況では景気が上向くとは考えられない。	
民間職業紹介機関（職員）			・周辺状況は変わらない。	
やや悪くなる		人材派遣会社（社員）	・年度末に向けた好材料に乏しいことと、業務委託の年度終了をトータルに捉えると2、3か月先はやや悪くなるとみられる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・ 来年度からの受注量の減少が見込まれるとのことで、従業員の休業等の相談を行う企業が増加している。
		職業安定所（職員）	・ 1月末で36名が派遣打ち止めとなる事業所がある。また、製造業において、2月末で56名が3か月ごとの契約更新が打ち止めになる事業所や3月20日付で12名のリストラが決まっている事業所もある。
	悪くなる	—	—

3. 北関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北関東)	良くなる	自動車備品販売店（経営者）	・ 株価なども上がり、客のムードも若干変わってきている。車などの購入にも、意外とお金を出す傾向にある。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・ 4月からの新入生の販売が2月から始まるが、毎年2、3、4月とだんだん良くなっていくため、良くなると思う。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・ 新内閣の経済対策に期待したい。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・ 新政権になり、株やそのほか明るいニュースが出てきたことによって、企業業績も良くなり、給料も増え、少しでも物が売れてくるように期待を込めてやや良くなる。
		百貨店（店長）	・ 景気浮揚の期待感に合わせ、購買意欲が出て、新しい物を探している様子が見られるため、マッチした商品を投入することで、売上につながっていくと考えている。
		スーパー（店長）	・ 春先に店舗前の道路工事が終わる予定のため、客数増加が見込め、今以上に成績は上がると思う。
		コンビニ（経営者）	・ 少しずつ春めいて暖かくなってきた。バレンタインや節分、ホワイトデーといったイベントも目白押しである。早め早めの品ぞろえ、きめ細かい品ぞろえで対応していけば、何とかかなるのではないかと。
		コンビニ（経営者）	・ 春の訪れとともに、人も出る。また購買意欲も上がるかもしれないという期待を込めて、やや良くなる。
		コンビニ（経営者）	・ 幼稚園、小学校等の近くに店舗があるため、4月から年度が替わり、客数は増えると思う。
		衣料品専門店（統括）	・ 本来、この時期はほどほどに客が買物に来るが、ここ数年は来客数が減少傾向にあり、今年は特にひどい状況である。この先どうなっていくのか、本当に心配である。
		家電量販店（店長）	・ 地上デジタル放送化による特需の直接的な影響は3月で終わると見込んでいるので、テレビの販売台数が4月から前年を上回ると予測しているが、テレビの販売量が元に戻るのには2年ないし3年はかかる。
		一般レストラン（経営者）	・ 年度末で各種会合が増えてくることと、観光シーズンになり、来客数が増える。
		スナック（経営者）	・ 客と景気が良くなりそうだと話をすることが多くなった。少し前までは考えられなかったことであり、期待感があるというのは間違いない。
		観光型ホテル（経営者）	・ やや良くなるであろうとの期待である。
		都市型ホテル（支配人）	・ 当地域の梅祭りが2月中旬から始まり、3月まで続く。例年より県及び観光協会が力を入れて宣伝活動、誘致活動をしているため、期待している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・ 政権交代により、少しは良くなるのではないかとと思うが、非常に微妙なところである。これから徐々に景気は回復していくと思うが、一時的なことかもしれないため、何ともいえない。
		都市型ホテル（営業担当）	・ 1月は例年に比べて稼働の数字が悪く、非常に厳しい状況である。しかし今が底であるため、2、3か月後は上がっていくと思う。景気が少し上向きという雰囲気があるため、それが後押しすれば良くなるのではないかと。
		旅行代理店（経営者）	・ アベノミクスの効果に期待している。
		旅行代理店（所長）	・ これからの世界情勢等にもよると思うが、景気上昇への期待感が持てる。それにしなっていて消費力にも弾みが出ることを期待したい。
		旅行代理店（営業担当）	・ 春になれば旅行シーズンとなり、国内、海外共に販売量が増加する見込みである。
	通信会社（経営者）	・ 年度末に向けての大口案件の見積依頼や、入札が増えている。2、3か月後は、少しは安定する兆しがある。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（局長）	・アベノミクスの政策実行後の実態を見ないと分からないが、景気に対する期待感は確実に高まっている。
		通信会社（販売担当）	・政権交代し、景気が回復するのではないかと期待している。実質的な景気対策が進み、長期的に改善してくれることを望んでいる。
		ゴルフ練習場（経営者）	・株価の上昇や、建築の受注の様子などから、やや良くなる。
		ゴルフ場（業務担当）	・当地区では雪の被害が結構あったが、当地においてはあまり影響がなく、来場客数は前年比を大きく上回っている。客のニーズは高く、顧客の取り込みは前年よりも上手くいっているが、単価が下落している。総体の売上は、入場者でカバーして、何とか前年比の実績を上回ることができている。春の取り込みも今のところ、順調である。
		設計事務所（経営者）	・消費税増税前の駆け込み需要による依頼などもあり、仕事量は増えると思う。
		住宅販売会社（従業員）	・株高などから若干ではあるが、高額品の消費が増加するのではないかと期待している。
		住宅販売会社（経営者）	・消費税増税導入の予定時期が1年後となり、焦って物件を探し始める顧客もおり、販売数量の増加が見込まれる。需要の先食いにはなるが、景気全体にとっては良くなる要因である。
		住宅販売会社（従業員）	・税制面からの効果もあり、販売は堅調に推移すると思う。しかし、施工管理者の不足が深刻な問題となりつつあり、一部の部門では、要求される工期に応えられない状況にある。
	変わらない	商店街（代表者）	・政府のうたい文句のとおりに行っても、地方が良くなるのは何年先だろうか。当店の学生靴等は、お下がりが多くなっており、良くなるのは随分先のことである。
		商店街（代表者）	・新聞記事を眺めながら景気回復に期待を膨らませているが、現実に戻ると上向きの気配が感じ取れない。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	・近隣の中型スーパーも撤退という話が出ている。まだ寒い日が続くと思うため、人出はあまりない。新政権の政策の効果は、当分先のことと考えているため、変わらない。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・燃料費が高騰していくなかで給料は上がらず、生活費が掛かっている分、品物の購入は控えられている傾向が見られる。生活に精一杯で物への購入意欲は見えてこない。
		百貨店（営業担当）	・政権交代により、株価は上がり調子になっているため、景気回復の期待感はあるが、実際に消費が上向いてくるのは、まだまだ先になるかと思う。
		百貨店（販売促進担当）	・今後数か月は気候頼みの感が強く、長引く寒さにより春物への関心が低くなりがちで、年々春物商戦は難しくなっている。また、実用第一で、価格にもシビアで相変わらず財布のひもは固く、この傾向は大きく変わらない。
		百貨店（販売促進担当）	・春物商戦が始まるが、依然として慎重な消費行動は継続する。
		百貨店（販売担当）	・今春、特別大きな改装を予定していないため、大きく入店客数が増えることはない。日々の提案をしっかりと行うことで前年並みを予想している。
		百貨店（店長）	・新政権への期待はあるが、期待どおりになるか未知数である。
スーパー（経営者）		・生活必需品関連は、デフレ脱却とはほど遠い感がある。軽減税率が絶対に必要である。	
スーパー（店長）	・曜日ごとの客数の変化はない。		
スーパー（総務担当）	・景気上昇の雰囲気はあるが、実際に各世帯の収入が増えないと購買意欲は高まらない。また、多少所得が増えても年金を含めた社会保障の先が見えないと、貯蓄への傾向は続くと思う。		
スーパー（統括）	・マスコミの景気報道や株価、為替の変動によって、消費マインドは一喜一憂し、その振れ幅も大きく、安定した景気回復を実感するにはまだ時間が掛かりそうである。		
スーパー（商品部担当）	・良くなる理由がなく、今後、消費税増税などもあり、消費者の購買意欲が上がる要素が見えない。		
コンビニ（経営者）	・店前の道路の4車線工事が、長期間かかるためである。		
コンビニ（経営者）	・政権交代や円安と好材料は多いと思うが、これを受けての景気の好転には、まだ至らないと感じる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（店長）	・今月に関しては原因が今一つ把握できていないが、客数が減っている。客単価は下がっていないため、今後、あまり変わっていくとは思わないが、原因がはっきりするまでは分からない。
		衣料品専門店（店長）	・為替相場が円安に振れているうえに、株価も上昇傾向の状態が続けば、一般消費者の収入も増え、景気が上向きに動いていくだろうが、政府や自治体の借金に頼っている予算編成体質は変わらず、日本経済の将来を考えると、不安要素が多いため、現金は使わずにおこうという心理になるため、安易に景気は上向かないと思う。
		衣料品専門店（販売担当）	・2、3か月前から、今までの悪い横ばい状態ではなく、幾分波が出てきたという話をしているが、それが今月は全く感じられない。景気浮揚策がどんどん打ち出されているが、現場に影響するのは相当先である。現実的に客が安心できない環境なのか、やはりまだ先行きが不透明ということがあるのか、消費には全く向かっていない。
		乗用車販売店（統括）	・現状がそこそこ良いため、このままの状態を維持できるのではないかと。
		乗用車販売店（販売担当）	・先月から来客数が大分増えている。活発に客が動いているため、ずっと続くと思う。
		乗用車販売店（営業担当）	・ガソリン価格の高騰を含め、より燃費の良い車を求めるユーザーが目立つが、慎重な態度に変わりなく、販売台数は現状維持がやっとである。
		乗用車販売店（販売担当）	・特別景気が良くなる、または冷え込む等、この時点ではさほど変わらないと思う。2、3か月後でも新車の伸びは望めないが、中古車はそこそこ売れていくため、前年と同じような状態がずっと続くのではないかと。
		住関連専門店（経営者）	・企業の給与水準、あるいはベースアップすることが確定する4月以降にならないと、実際の消費には結びつかないと思う。したがって、ここ2～3か月では消費に関する大きな変化は起こりづらい。
		住関連専門店（仕入担当）	・為替相場が急激に円安に振れ、今後商品の仕入価格に影響を与える水準となっている。価格に転嫁せざるを得ない商品も出てくるのが予測され、厳しい環境が続く。価格が上がり、物が売れない状況になる。
		一般レストラン（経営者）	・政権交代により、デフレ脱却を通じた景気浮揚策を講じようとしているが、末端の中小零細企業にまで影響を及ぼすのは、まだまだ時間が掛かると思う。
		一般レストラン（経営者）	・予約客は多少増えたものの、個人客の動きはこの先も変わらない。
		一般レストラン（経営者）	・強い経済を掲げ、政策が進められようとしているが、国民がどう受け止めているのか疑問が多い。特に地方、中小企業への好転は見られるのか不安で消費を差し控えているのではないかと。
		スナック（経営者）	・悪いまま変わらない。新政権になったが、末端の景気回復はいつのことになるのか。少しは期待したいが、何か良い策があったら教えてほしい。
		観光型ホテル（営業担当）	・新総裁に期待はしているものの、観光事業、宿泊業への影響は数年後となり、直ちに感じることはない。
		観光型旅館（経営者）	・依然として集客の動向は鈍いため、今後も極端に改善はしないと思う。
		タクシー運転手	・現在最悪の状態のため、これ以上悪くなると生活ができない。
		タクシー運転手	・大きく変化する様子はない。
		通信会社（総務担当）	・政府の景気対策に期待したいが、消費者に反映されるには、まだ時間が掛かりそうである。
		テーマパーク（職員）	・少しずつ回復しているように思えるが、余暇に対する消費には依然として結びついていない。
		遊園地（職員）	・回復基調を期待したいが、先行き不透明な状況が続いている。
		ゴルフ場（支配人）	・2月は厳冬期で来場が年間で1番少ない月のため、3月からの春の営業に向け、社員全員で訪問営業を行っている。
		競輪場（職員）	・他場や、他種競技の売上等もほとんど変化が見られない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他レジャー施設 [アミューズメント] (職員)	・当店はアミューズメントのなかで大きく分けるとネットカフェになるが、スマートフォン、タブレットなどが普及しているため、わざわざネットカフェまで来てインターネットをする人が少なくなっている。マンガ喫茶の利用はあるが、ネットカフェはあまり振るわない。ゲーム関係では、オンラインゲームを大画面でやりたいということで伸びている。しかし、プラスマイナスしてもプラスへいくのはなかなか現状では難しい。
		美容室(経営者)	・2月の下旬から卒業式や入学式等のイベントが多くなり、少しずつ来客数が増えることを期待している。
		その他サービス[立体 駐車場](従業員)	・春休みである3、4月は客数が増えていくが、これは例年どおりの動向である。また、まとめ買い等も含めて例年どおり売上は伸びると思うため、変わらない。
		設計事務所(所長)	・2月は稼働率が低いため、効率よく動けるようにしないと今月より良くはならない。来期に大きく左右される時期のため、頑張っ努力しないといけない。
		住宅販売会社(経営者)	・消費税増税と同時に、不動産に対する優遇税制措置を検討してもらいたい。例えば、自動車取得税が廃止されるように、不動産取得税等も廃止してもらいたい。そういった優遇措置がなければ不動産は動かないと思う。
	やや悪くなる	スーパー(経営企画担当)	・昨年出店した競合2店舗の影響から、回復するのが困難である。
		乗用車販売店(経営者)	・例年3月以降は販売量が減るためである。
		乗用車販売店(従業員)	・軽自動車の需要が伸びているが、1台当たりの収益は減少している。
		高級レストラン(店長)	・お金を使わないことが当たり前になってきており、将来への不安感や、現実の収入アップなど、具体的に実感できるまでは、客の財布のひもは固いままである。
		スナック(経営者)	・前年に比べ、年末年始の来客数が落ち、単価も落ちている。これからまた2月に向かって先行きが不安である。
		旅行代理店(副支店長)	・前年と比較しても2、3月の受注が少なく、前年の60%くらいである。中小企業も週休3日が出てきており、海外出張も減少している。税制改革や消費税増税の駆け込み需要、併せて為替の安定を期待しているが、現状そのような形は見えていない。
		タクシー(経営者)	・昼も夜も動きが悪いため、この先も悪いと思う。
		通信会社(経営者)	・家庭用LPガス販売業部門では、現在でさえガス価格が高騰しているところに、この円安でダブルパンチである。さらには同業者間の顧客争奪が激しくなっており、保安そっちのけという業者も増えているのではないかと考えてもらわないと、それこそデフレを招き、保安の維持を困難にしていると思う。
		その他サービス[清掃] (所長)	・賞与等の減額もあり、この先厳しい状況が続いて消費は伸びない。
		設計事務所(所長)	・消費税増税が確実視されるなか、通常ならばもう少し動きがあっても良いと思うが、それだけ状況は悪いということだろうか。
	悪くなる	商店街(代表者)	・最近、商店では販売する品物の種類が少なくなっていることを特に感じる。
		一般小売店[衣料] (経営者)	・政権が交代し様々な施策を打ち出しているが、即効性のあるものがなかなか出てこないため、私たちのところまでは、すぐに良い話がこないのではないかと感じている。あまり良くならないのではないかとこの意見が大勢である。
		一般小売店[乳業] (経営者)	・まだ消費意欲が後退する雰囲気しかない。はっきりとした景気回復の兆候は、もう少し先になりそうである。
		コンビニ(経営者)	・近隣2キロメートル以内の大手スーパーでは、大売出しばかりで毎回非常な安売りをしている。そこにコンビニがまた出店しており、それが大きな原因である。
		コンビニ(店長)	・1月上旬、中旬は、何とか良かったが、当店の近隣に同じチェーンの新店がオープンして、かなりの影響が現在出つつある。この影響はかなり深刻で、地域的に商業力がかかなり低下していくと思う。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業 動向 関連 (北関東)	良くなる	その他製造業〔環境機器〕（経営者）	・環境機器装置、主に行政納入のスプレー缶、ライター処理装置は、3～10月が製作納入時期である。また今現在、半メガソーラー太陽光発電3か所設置工事の電力会社への申請中であり、来月くらいから設置等で忙しくなる。電気工事等地域活性化により、地元企業に貢献していく。
	やや良くなる	食料品製造業（営業統括）	・3月の観光シーズンに入るころには、高速道路のトンネル事故の状況も回復し、また、経済状況も回復してくるため、業界の出荷増、売上増が期待できる。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	・良くなることを期待している。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・円安傾向のため、輸出が増えると思う。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・総理の発言により、円も大分安くなり、株価も上がってきたため、これから2、3か月先は徐々にやや良くなるのではないかと。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・大手自動車メーカーからの生産の3か月見通しでは、1月と比べると、2、3月が大幅に伸びて3月がピークとなり、量的には非常に回復基調に入る。しかし、4月になると、また20%の大幅な落ち込みがあるため、非常に先行きが不透明になってきた感じがする。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・政府の景気対策への期待度、また株価の上昇は宝飾品の販売にも良い効果をもたらしている。ただし、円安で金、プラチナ、ダイヤ等の材料物が高騰しており、その影響で商品価格の上昇が避けられないことから、今後の見通しは必ずしも楽観視はできない。
		通信業（経営者）	・新政権になり、久しぶりに景気対策が打ち出されたような気がする。失敗が許されない状況だが期待している。
		金融業（経営企画担当）	・担当地域の観光業が、シーズンに向かうためである。
		広告代理店（営業担当）	・一番慎重だった販売促進予算が動いてきており、好転することが見込まれる。
		司法書士	・正月で人と会う機会が多かったが、皆一様に明るい顔をしており、少し希望が持てるような雰囲気である。期待も含めて、少なくとも一度は必ず上向くのではないかと。
	その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・引き合いが増加傾向にあり、今後は受注量も回復すると思う。	
	変わらない	窯業・土石製品製造業（経営者）	・自家季節商材の動きはややあるものの、取引先の受注状況は見込みが立たない状況である。
金属製品製造業（経営者）		・金属加工の仕事は大変少なくなっており、困っている。先のことは、どうなるか分からない。物品販売は、入札の問い合わせは多くあるが、単価面で落札はとて難しくなっている。努力しているが、難しいところである。	
一般機械器具製造業（経営者）		・客先の期末、期首に合わせて動くような案件の情報が非常に少ない。油圧ショベルの分野においては市場の在庫数が過剰な状況にあり、春節の時期を越えないと回復の時期が全く見えてこない状況にある。	
電気機械器具製造業（経営者）		・客先のモデルチェンジが計画より遅延しているとともに、ユーザーの評価が遅れ、生産計画が遅れるようである。	
電気機械器具製造業（営業担当）		・政権が交代し、円高、デフレからの脱却を図り、景気回復をとのことだが、私たちが実感するのは、かなり先になりそうである。	
輸送業（営業担当）		・新年度に向かって新生活関連の白物家電や、生活インテリア雑貨の物量が、例年並みになりそうである。しかし今後は、円安傾向で原油の値上がり等により、業界的には燃料コストも上がって、利益が減りそうである。	
金融業（役員）		・新政権になり、金融政策や財政政策、また成長戦略も出てくると思うが、これらは実際に予算執行が行われて初めて需要が出るものであり、2、3か月で果たして実行されるのか非常に疑問である。予算執行、成長戦略、あるいは税制までもう少し先を見ないと分からないため、変わらない。	
新聞販売店〔広告〕（総務担当）		・円安、株高に動き始めたが、小売業関係者はそろって、消費者には縁遠いと話しており、回復するにはまだ先行きが不透明であるとしている。	
経営コンサルタント		・個人向け商業、サービス業関係での消費や、企業向けサービス業での設備投資、教育投資などに期待感があるが、まだ実際の動きは見られない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	社会保険労務士	・今のところ人員増や売上増へ見直すなど、計画の変更を考えている事業所はない。
		化学工業（経営者）	・当社の製品を欲しいとの話は結構あるが、実際の注文は全くない。必要なので買いたいが、お金がなくて買えないとの話ばかりである。
		一般機械器具製造業（経営者）	・長い間受注減の一途をたどってきたが、どうやら底に達した模様である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・受注が少なく、単価も安いので、先が見通せない。円安、株高の影響が全くない。
		金融業（調査担当）	・新政権による経済対策が期待されるものの、実態経済の動きに波及してくるのは、春先以降という見方が多い。
		不動産業（管理担当）	・新年度から新規の仕事をやらないかとの話はあるものの、提示額が低く、とても利益の出る仕事ではないため、断らざるを得ないことが多い。当社がギリギリの額で提示しても、それを下回る金額で提示してくる業者がいるようである。売上高を求めて赤字の仕事を取るよりは、利益が出る仕事をやるようにしていきたいが、そのような仕事の話がなかなかこないのが現状である。
	悪くなる	食料品製造業（製造担当）	・円安に振れ、原料単価の急激な上昇を招き、デフレ脱却の糸口は見えない。相当の赤字になるのではないかと、不安の毎日である。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・売上が伸びず、なかなか利益が出ない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・年度内は、各メーカーが余分に作らず、在庫を持たないようにするため、特急品は出ると思うが、全体的に抑えると思う。政権交代により、景気浮揚の策が打って出るのは半年後ぐらいになるため、それまではかなりきつい状況が続くと思う。
		建設業（開発担当）	・数年間、設備投資が前年を下回っていたが、今後は政府の経済政策が大きく切替わるため、大変期待している。特に公共投資に力を入れているため、末端まで少し時間はかかるが、大いに期待している。
雇用 関連 (北関東)	良くなる	—	—
	やや良くなる	人材派遣会社（経営者）	・住宅関連の製造業、建設業者の動きが年度末に向けて動きが少しずつ出てくると思う。製造業でも自動車、携帯電話関係の電子の動きが出始めているようである。これは実数ではなく、周辺企業の様子から把握したものである。販売も、春物、新学期に向けて物の流れが幾分出てくるのではないかと期待している。
		人材派遣会社（経営者）	・長く取引のある会社で突如仕事の量が増えたため、2～3か月先は仕事が多いことを把握している。
		人材派遣会社（営業担当）	・政権交代による経済対策に、期待している。
	変わらない	人材派遣会社（管理担当）	・派遣社員の採用と契約終了の件数がほぼ変わらない。厳しい状況だが、問い合わせ等採用の動きはある。
		職業安定所（職員）	・建設業の専門技術職の求人は増えているが、土木作業を希望している求職者とのミスマッチがある。また、今月大量離職した求職者の製造業における求人が、回復の見込みが立っていないため、職種転換しない求職者は、滞留してしまうと思う。
		職業安定所（職員）	・大きな人員整理の発生は以前に比べて鎮静化してきているが、事業所側の雇用への動きは鈍いままである。春までに大きな変動はなさそうである。
		民間職業紹介機関（経営者）	・製造業において、IT系は全く振るわないが、自動車関係は堅調な動きが続いている。土木、建築に活発な動きが見え始め、おう盛な求人となりつつあるが、一般製造から土木、建築への人員シフトが困難なため、比較的シフトが容易なサービス業の活性化が期待される。
		学校〔専門学校〕（副校長）	・求人はあるが、実際に受験してみると合格基準が高く、採用者ゼロで再度求人が出されている状況が続いている。企業側もできるだけスキルの高い職員を募集している。景気回復による採用は、まだしばらく掛かりそうである。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・企業からの情報等から考えると、まだ中国尖閣諸島問題が大きく影響している。また、雇用保険受給者の増大、滞留も見込まれるため、悪い状況が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・12月の新規求人数は、前年同月比5.3%の増加となっているが、先月の新規求人数と比較すると、29.6%減少となっている。管内企業を訪問して現況について数社確認したところ、仕事量は変わらないものの、コスト面での価格競争が厳しい状況である。また、現時点で仕事量は3月ぐらいまではあるものの、その後についてははっきりしない面があるとのことである。特に管内企業において合併や事業統合などがあり、その影響から仕事量的にも厳しいと考えている企業が多い。
	悪くなる	—	—

4. 南関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (南関東)	良くなる	百貨店（販売促進担当）	・株価が11,000円を超える等、先行きに関してはかなり良い材料があると思っている。
		スーパー（店長）	・昨年、競合店が2店舗できてから約1年になる。今年は巳年ということもあり、復活再生の年となる意味では、当然、昨年の最低値から、3か月後は何としても目標、粗利、全て達成となるのではないかとと思っている。
		コンビニ（経営者）	・12月は非常に来客数が多い月である。1月は非常に落ち込むが、また2月も若干良くなり、3月は良くなるだろう。
		乗用車販売店（販売担当）	・政権が交代し、設備投資をすると前向きな話が出ているため、業界全体が景気が良くなり、相当売上が上がるのではないかと判断している。当然、当社としても一連の様々な会議や懇親会のなかで、そういった情報が出てきたため、今後については大きく伸びると期待感を持っている。
		その他小売〔雑貨卸〕（経営者）	・ムードが非常に良くなっている。
		一般レストラン（経営者）	・今月は正月休みで約5日間休んだことと、ケータリングがなかったため、売上は最低である。今が一番悪いため、2、3か月先は、今よりは絶対に良くなると思う。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・政治がどのような動きをするかによるが、大きな変更がなく、このまま進めば、更に良くなると思う。
		商店街（代表者）	・政府の景気浮揚策が功を奏して、一般家庭や企業が固く締めてきた財布のひもを幾ばくか緩めてくるのを期待するばかりである。
		商店街（代表者）	・最近、金などの相場が多少良くなっているため、当商店街では貴金属を扱う店に、わずかだが客が来ているようである。そういう点からみても、景気が少しずつ良くなっていくのではないかと。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・新政権になり、消費ムードが良くなっているような気がする。期待をしている。
		百貨店（広報担当）	・しばらくは新政権による金融緩和策に対する期待感から、円安、株高傾向が続くものと考えられる。その効果で短期的には顧客心理も上向くと思う。ただし、その先を見ると夏の参議院選挙や来年に控えている消費税増税など景気への不確定要因も多く、抜本的な景気回復、デフレ脱却となるかはまだまだ不透明である。
		百貨店（営業担当）	・新政権が矢継ぎ早に施策を出してきており、消費者心理も上向くと思う。
		百貨店（管理担当）	・新政権による経済再生とデフレ脱却への期待感で、やや良くなる。
		百貨店（営業企画担当）	・政権交代に伴う経済効果で良くなると予測できることと、当店の40周年の施策を盛り込んで計画しているためである。
百貨店（店長）	・政治への期待感が強いのではないかと。		
スーパー（店長）	・年度も替わり、今後に対しての期待感もあるのか、消費者の意識も後押しされて、良い方向に向いていくと思う。		
スーパー（営業担当）	・このまま円安株高基調が固定化すれば、国内の景気も若干活性化してくると思うし、またそう期待したい。		
スーパー（ネット宅配担当）	・景気の上向き傾向が続くことが予想され、消費マインドの高まりも期待される。		
コンビニ（経営者）	・季節的な要因だが、これから暖かくなり、また暑くなると、今よりは良くなるだろう。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当）	・円安、株価上昇により少しずつ景気は好転するのではないが、一方でたばこを購入する客はダウントレンドであり、一概に良くなるというよりは、やや良くなる程度と判断している。
		コンビニ（店長）	・長く低迷をしていたが、ここにきて消費動向が少し上がっていく傾向が、日々の客の様子から期待できる。
		コンビニ（商品開発担当）	・あくまでもアベノミクス効果による期待である。
		衣料品専門店（店長）	・市場で客数が動けば、あとは単価だけの問題である。客数が上がって市場が活発化されることを期待している。
		家電量販店（統括）	・春商戦に向けて、シングル向け家電の需要増加で若干の伸びを期待する。また、金融政策、財政政策に期待するが、実感は下期以降ではないだろうか。
		家電量販店（営業統括）	・新社会人、新入学などの新生活ニーズによって購入点数、単価共に上昇していく。花見シーズンになり、中国や東南アジアからの外国人観光客が昨年より増加すると予想しているため、更に客単価を引き上げる効果がある。
		乗用車販売店（経営者）	・政権交代以降は円高に歯止めが掛かり株価も上昇して、明るい兆しが見える。販売量や来客数も増えてきている。
		乗用車販売店（店長）	・政権が交代し、円安、株高が進み、周りも今年度は景気が良くなるという形で動いている。我々営業部隊もその気持ちで今動いている。良くなると思う。
		乗用車販売店（販売担当）	・年が明けてから客の動きが活発になってきており、商談件数も増えている。特に、今まで同様、低燃費の車両を中心に、エコカー減税があるうちに購入しようというユーザーが多い。また今後、消費税の動向を見据えて伸びると思うため、やや良くなる。
		乗用車販売店（営業担当）	・消費税と取得税の絡みからなのか商談が増えている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・新政権の経済政策により、今のところ経済の上昇期待が世間に渦巻いていると思う。最終消費者の実際の懐具合、収入が増えるのかということが非常に気になるが、この政策に期待したい。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・政権交代と世論の後押しが景気回復感のマインド向上を促し、財布のひもが緩くなっているような気がする。
		その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	・政府の政策がうまく機能したら少しは良くなるのではないが。
		高級レストラン（店長）	・客との会話のなかで、今後の景気に対する高揚感、期待感が感じられる。
		一般レストラン（経営者）	・同業の新規参入は20～30代の経営者が多く、周りにやや活気が戻っている。
		一般レストラン（経営者）	・アベノミクスの影響かもしれないが、建築や土木関係を中心に景気が良くなるのではないかと期待感が高まっている。当社の店舗別でも、住宅街より繁華街のほうが、むしろ売上が伸びている傾向があり、今後少し期待できる状況になってきている。
		旅行代理店（従業員）	・年明けから国内団体旅行の問い合わせや申込が増えてきている。見積り依頼も1～2割増しになってきている。
		旅行代理店（支店長）	・2、3か月後は年度末並びに4月の新年度に入る。旅行業界としては、春休みなど良い材料もあり、今よりは良くなると思う。その理由としては、やはり気候が良くなり、政権交代で徐々に景気が上向き感じが少し見えるため、旅行への熱も回復すると思う。また、卒業旅行なども例年に比べ、出足が早い。
		タクシー運転手	・まだまだ寒い日が続く、短い距離でも手荷物があれば家の前、駅までとタクシーを利用する人も多く、この先、雪や路面凍結の恐れもあり、利用を見込める。
		タクシー運転手	・政府がデフレ克服に向けて動き出したが、末端であるタクシー業界に実感として伝わってくるのは先の話である。しかし、良くなっていく空気は流れている。
		通信会社（経営者）	・政権交代への期待感のため、やや良くなる。
		通信会社（経営者）	・円安により株価が上がってきたため、実質的には体感できないが、今までのような沈鬱な状況からやや明るい兆しが見えてきている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（営業担当）	・政府の景気対策の話題がマスコミで報じられ、数か月後には景気が上向くという期待感を持っている人が多いように感じる。
		通信会社（営業担当）	・各社キャンペーンにて需要喚起を行っており、契約数もそれに応えて上がる傾向が続くと思う。
		通信会社（局長）	・内需型産業のため、人の生活環境が変わる3～5月は改善すると期待している。人が動くことで生じる消費活動の増加が見込める。
		通信会社（局長）	・2月後半から不動産関連が繁忙期に入る。転居のついでにタブレットを購入してインターネットへの加入意欲が増すことが考えられるため、一定の購買増加が見込める。
		通信会社（管理担当）	・政権交代による景気回復策が実現し、公約どおり進めば、旧政権時代より良くなると思う。
		ゴルフ場（支配人）	・2、3か月先に、前年同時期を超えた来場予約が入っている。
		パチンコ店（経営者）	・消費税が先々増税されるが、同時に今株価も大分上がってきており、景気が良くなってきている流れは感じる。プラス面マイナス面いろいろあるが、期待も込めて景気はやや良くなるのではないかと。
		その他レジャー施設 [スポーツ施設]（支配人）	・ファミリー向けの施策を行ったところ、反応が非常に良く、来場人数が前年実績を上回った。付帯施設での消費単価も上がっており、景気が上向いているように感じる。
		その他レジャー施設 [アミューズメント]（店長）	・客単価の安定に伴い、集客増の望める春先に掛けて売上増が望める。
		その他レジャー施設 （経営企画担当）	・催事の予約状況や前売券の販売状況が堅調に推移している。
		美容室（経営者）	・政権が交代して良くなるのではないかとということで、皆の財布のひもが緩くなってきたのではないかと。
		その他サービス [保険代理店]（経営者）	・余程のマイナス要因がない限り、売上は増加しそうである。顧客の様子から新たな商品を購入する意欲が感じ取れ、実際に今月末から2月初めに掛けて予約のある商品もある。差し当たり3月末までは前年比増で推移すると考えている。
		その他サービス [立体駐車場]（経営者）	・良いムードになっているような報道をテレビなどで始めたため、やや良くなる。
		設計事務所（経営者）	・民間のビルの耐震化について、現在、一生懸命PRしており、耐震化について質問が大変多くなっている。これから耐震診断や補強などといった仕事が多少なりとも出てきそうである。行政の仕事も4月度から新しい指名が入ってくるため、これから徐々に良くなっていく感じがする。民間の仕事にも積極的にチャレンジしていくつもりである。
		設計事務所（所長）	・今のところ良くなる要素は見当たらないが、政権交代に期待し良くなることを信じて、やや良くなる。
		住宅販売会社（従業員）	・いろいろな税制や制度が、はっきりし始めてきているためである。
		住宅販売会社（従業員）	・1月は稼働日が少ないが、客も動いており今後3か月の販売量は増えてくると思う。それに伴って在庫をしっかり仕入ないと売れ時期を逃してしまう可能性があるため、それが課題である。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅の建て替えは一時取得とは違い底堅い需要があるのだが、大手ハウスメーカーでは価格が高いということで、当社のような地元建築会社に依頼が増えている。消費税増税前の駆け込み需要も少しあると思うが、当社のような地域密着型で実績のある建築会社への依頼が増えてくると思う。
		住宅販売会社（従業員）	・来場数は、継続的に前年同月より増えている。
		変わらない	商店街（代表者）
商店街（代表者）	・今年のように天候が不順で、寒く、雪や雨が降ったりすると、高齢者の出足が非常に悪くなる。今の当商店街では、高齢者が動かなければ売上が落ち込んでしまい、大変な問題になる。少し暖かくなってもらわないと困る。		
商店街（代表者）	・半年後くらいには良くなっていくとの希望を持っている。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔和菓子〕 (経営者)	・政権が交代して株価などが上がり、景気は上向きのように感じるが、原材料などの値上がりもあり、単価の見直しなども考えていかなければならない。そのため、今後、客数の減少に歯止めが掛からないのではないかと。
		一般小売店〔家電〕 (経理担当)	・以前よりは良くなってきているようだが、急には変わらないのではないかと。ただし、新年度で異動の時期でもあるため、ある程度は期待している。
		一般小売店〔家電〕 (経理担当)	・商店街全体の客数も減少傾向にあり、主力の販売商品もないためである。
		一般小売店〔祭用品〕 (経営者)	・暖かくなり、活発化することを期待する。
		一般小売店〔家具〕 (経営者)	・総理大臣が変わり、世の中のムードは非常に良くなってきていると思うが、実際、これから客が増えるかという、やはり今までとあまり変わらないのではないかと。
		一般小売店〔文房具〕 (経営者)	・業種が業種なため、これといって爆発的に売れるようなものではなく、入学時期の4月頃までは淡々とした売上ではないかと考えている。
		一般小売店〔印章〕 (経営者)	・政権が交代して、プラス思考で考えたいが、即、我々がその恩恵を受けるのは非常に難しい感じがする。当分耐えて、動きを見守りたい。
		一般小売店〔文具〕 (販売企画担当)	・当社は大きな企業から個人客まで文房具を売っている。企業関係は徐々に景気が良くなってきている感じはあるが、個人客はまだそういった感はなく、むしろ財布のひもは相当固くなってきている。この矛盾が解消されない限り、なかなか景気は良くならないのではないかと。
		百貨店(売場主任)	・円安、株高の動きが今後続くのであれば、多少消費が上向きになりそうだが、それ以外の景気上昇の話題がない。
		百貨店(総務担当)	・厳しい状況は変わらない。ただし、少しでも消費が増える気配があれば、美術、宝石など高額商品についても機会を逸することがないように準備しなければならないと考えている。しかし、基本は生活必需品である食料品をおろそかにしないようにし、デイリーの売上確保に努める。
		百貨店(総務担当)	・金利上昇を危惧する声が多い。
		百貨店(総務担当)	・政権が交代して、一般的にはかなり景気が上向いていくのではないかとこの予想もされてはいるが、一般消費者の購買意欲が実際に高まるのは、3か月ではまだ顕著な動きにはならず、早くても1年後くらい先になるのではないかと。そのため、今の変わらない状況はこの1年間続き、実際に数字に表れてくるのはまだ先ではないかと思う。
		百貨店(営業担当)	・婦人服、紳士服、子ども服の衣料品については、気温が例年より低い割には動きが悪い。食品及び家庭用品、寝具等も同様である。政権交代による円安、株高の個人消費への好影響はまだ先のようなのである。
		百貨店(営業担当)	・政権交代により、期待値から株価も上昇し、景況感の良い方向であるとされているが、家計の実態として現われるのはこれからといった感がある。確かに高額品については動きが出てきているが、全体のシェアとしては低く、インパクトは少ない。今後、平均賃金の上昇により、これからの増税感が少しでも薄まれば期待が持てるが、2～3か月先の景気については、まだ先は見えない。
		百貨店(経営企画担当)	・円安、株高など環境は良くなりつつあるが、小売業で個人消費が動き出すのは当分先である。
		百貨店(副店長)	・円安、株高を背景とした景気上昇に期待はあるものの、賃金の上昇実現の不透明さ、選択消費の日常化のなかで、身の回り品に回すにはタイムラグがある。
		百貨店(販売管理担当)	・株価の上昇などポジティブな要因はあるものの、一部の高所得者層が恩恵を受けるだけで、多くの中間所得者層は実感がなく、現在の消費環境と比べて大きな変化はない。
		スーパー(経営者)	・12月に新政権になってから少し上向き加減であったが、その勢いがこれからも続くのだろうかと思っていたところ、1月は元に戻った感じである。世間的には景気は結構上向いている感じがしているが、実際の売上はそれほど上がっていない。競合店の影響が大きく、そのため、2、3か月はまた同様に良くない状態が続く。
		スーパー(店長)	・節約疲れや、回復基調ということもあり、また現政権への期待もあって、景気が更に良くなると考えられるが、現在の税制改革等の不安要素もあり、現状と大きく変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店員）	・現在、株価上昇や円安傾向が続いており、雰囲氣的、気分的には景気上昇の兆しが見られるが、実際の小売のレベルでは、まだ低単価、価値のある物、買い得感のある物が支持されるのが現状である。景気が上向きになっても小売業界では利益や売上の確保は、現在と変わらず厳しい状況が続く。
		スーパー（総務担当）	・総合小売業である当店のような頻度性の高い販売については、円安が進んだ、株価が上がったといっても、最終的には消費の力が上がってこないと、なかなか数字には反映されない。可処分所得が増大することがまだ考えられないため、今の厳しい底をついた横ばいの状況が続くと考える。
		スーパー（仕入担当）	・顧客は当社のようなスーパーマーケットで食品を購入する以外に、コンビニやドラッグストア等買い回りをしている。そのため、来店頻度が減り、客数減少は続く。
		コンビニ（経営者）	・セール頼りの傾向が今後も続き、単価の下落も止まらず、売上、利益共に改善の兆しがない。
		コンビニ（経営者）	・全体的には、前年を下回る98%程度である。不安な要素もあるため、変わらない。
		コンビニ（経営者）	・店の周りの状況が変わらないためである。
		コンビニ（商品開発担当）	・客が必要以上来店しなくなっており、乗客数の改善に期待ができない。
		衣料品専門店（経営者）	・新政権になり景気対策に力を入れているが、その反面、消費税増税などの不安材料が多く、国民は信頼に乏しく様子見の状態、積極的に買物をする客が少ない。しばらくこの状態が続くと思う。
		衣料品専門店（経営者）	・円安、株価上昇で雰囲気は良くなってきているが、2、3か月で消費が上昇するものでもなく、その先に消費税増税が控えているため、現状と大きく変わらない。
		衣料品専門店（経営者）	・例年2～4月は入学関連の売上が非常に大きい。年々、この世代の親、40才前後の財布のひもが固くなり、制服、体操着などリサイクルで血眼になって情報交換をして探している。生徒数も減少しており、年を追うごとに学校関連は落ちている。学校関連の売上は大きいだけに年々厳しくなっている。
		衣料品専門店（経営者）	・実際は、変わらないというより、分からないといったほうが適当である。今、アベノミクス等で言われているとおり、円は安くなり株価は上がっているが、実態経済の様子がまだよく分からない。また、円安になったため、燃料費等が上がってくる。その影響で顧客にどのような反応があるかがまだ分からない。
		衣料品専門店（経営者）	・このままの寒さが続くと、梅春物や春物の動きが前年同様に悪くなりそうである。当店をはじめ、商店街全体でも売るための仕掛けやきっかけ作りがなかなか難しい。
		衣料品専門店（営業担当）	・政権が変わり景気浮揚策も出ているが、なかなか定まっていないようである。
		家電量販店（店員）	・現時点では政権交代など市場の動向において客の様子は変わりなく、景気は横一線の状態である。現状のままだと変わらないまま右肩下がり傾向になり、今の状態と変わらない。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車の整備と販売をやっている。整備は順調に入っているが、販売はあまり芳しくない。来年から消費税増税になるため、今年の7月以降は駆け込み需要があるのではないかと。
		乗用車販売店（経営者）	・年初より客の動きが良いが、これ以上は難しいと思う。何がきっかけになっているの分からない。
		乗用車販売店（総務担当）	・デフレ脱却感は何となく感じるが、まだまだ景気回復感が押し寄せてこない。全体的な消費の拡大がないと、自動車購入への消費にはつながっていかない。政府として、思い切った景気回復拡大策を打ってほしい。
		住関連専門店（店長）	・政府の景気対策も、すぐには効果がでないと思う。
		その他小売〔ゲーム〕（開発戦略担当）	・厳しい状況が続くと考える。
		一般レストラン（経営者）	・新政権になり1か月余りが経ち、円安になり株価も上がり期待をしているが、今月も前年を大きく下回っている。天候のせいもあるが、まだまだ実感としては景気は良くない。
		一般レストラン（経営者）	・政権交代によりインフレになりそうな気配があり、少しは良くなりそうな空気は感じるが、我々のサービス等に影響してくるのはまだ先だと思う。2、3か月先もあまり変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（店長）	・当店の周り是一部上場企業ばかりなのだが、皆、口々に変わらないだろうと言っている。恐らくこの先も変わらないと思う。
		都市型ホテル（スタッフ）	・政府の経済政策が、そんなに早く実体経済に反映してくるとは思えない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・先々の予約の動きが鈍く、傾向としては直近になり動き出すパターンがここ何か月も続いているが、大幅な動きは見られない。当月内の動きは極端に落ち込んでいる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宴会関係は前年とほぼ同様の予約人数を抱えており、婚礼も前年を若干オーバーする人数の予約を受けている。宿泊は周辺での大型イベントが前年並みに予定されており、現在の予約は前年より少ないが、今後個人客の予約が伸びてくると予想している。レストランは夜の接待利用がどれだけ回復するかであるが、平日の昼利用の女性客向けのメニューに更に工夫を重ね、土日、祝日の個人利用を取り込めば、前年と大きく変わらない。
		旅行代理店（経営者）	・今の状況から脱出するのは、なかなか難しいような気がする。新政権に関しても、皆、それほど期待していない感じがする。何となく情緒不安定な世の中であるような気がする。
		旅行代理店（従業員）	・景気上向きのプラス材料はあるものの、円安傾向により海外旅行が控えられることが予想される。
		タクシー運転手	・確かに円安、株高ということで、一見景気が良いように見えるが、なかなか軌道に乗らないというのが現状ではないかと思う。難しい局面にきているのではないかと。
		タクシー運転手	・今は経済の動向があまり読めないこともあり、また、3月の年度末に向けて、様子見をしている状態だと思う。
		タクシー（団体役員）	・政権交代後、初の通常国会が開催され、補正予算や年度予算の審議も活発に行われると思うが、2、3か月後すぐに景気が良くなるわけではなく、厳しい現状のまま変わらない。
		通信会社（経営者）	・景気は良くなるムードだが、受注環境は当面厳しさが続くと思う。
		通信会社（社員）	・例年、年度末は加入増が見込め、今年も見込みどおりだと思う。現状から大きく増減する理由もなく、変化はない。
		通信会社（営業担当）	・消費税増税が現実として近づいてくることによる先行きの不透明感ばかりが感じられ、消費の増加を想像することが難しい。
		通信会社（営業担当）	・競合他社の低価格戦略の影響が顕著で、回復の兆しが見えていない。
		ゴルフ場（従業員）	・長い間、悪くなると回答してきたが、前回から期待を込めて変わらないとした。良くなると回答できる日を待ち望んでいる。
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・2、3か月前と比べて生徒数の増減はなく、年度替わりではあるが、今後も増える傾向にはない。広告を出しているが、あまり反響もないため、景気は変わらない。
		その他サービス〔福祉輸送〕（経営者）	・財政出動を行うという新政権の話によって、一般的には将来の景気について上向きに推移するのではないかと考えるが、現実を見ると、車の売行きはハイブリッドなど燃料節約型の車しか売れず、全体の売行きが伸びているということではない。そのため、景気はそれほど大きく上にも下にもいかないのではないかと。
		設計事務所（所長）	・単なるコンサルタント業務のみで、新しい物件の情報が見当たらず、現状のままが続くのではないかと。
		設計事務所（職員）	・消費税増税前の今年8月末までの工事契約に向けた動きがある一方で、建設単価の上昇による影響が顕著に現れたケースも多く、建築案件数など全体としては横ばい傾向になるのではないかと。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税による駆け込み需要は増えると思うが、売上にはまだまだ反映されないため、景気状況は横ばいである。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税の負担を軽減するため、住宅ローン減税の拡充が議論されているが、その効果はまだ分からない。
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・政権交代後、建材関係の客を中心に今後の景気に期待する声が聞かれるが、今のところ具体的なものが見えていない。
	やや悪くなる	一般小売店〔茶〕（経営者）	・年々、お茶のギフト関連の需要が少なくなってきた。今月後半は大雪と寒波で来客数が減少しており、売上も低迷している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	・保守メンテナンスの有料が常識だった時代から、徐々に無償化が進んできてしまうと、業者のサービスの有無も問われ、ひいては共倒れの時代が押し寄せてくるのではないかと。
		百貨店（営業担当）	・小売業にとって、円安と原油高は大きな要因であるが、どちらも消費においては良い方向には向かっていない。寒さによる野菜の高騰やガソリンや灯油などの急激な高騰が家計を圧迫していくのは明らかであろう。円安によって洋服の物価も2割程度上がる予測もあり、景気が良くなるとはいえない。
		コンビニ（経営者）	・当店の個別の要因もあるが、全体的にあまり良い材料が見当たらない。
		コンビニ（経営者）	・気象庁の予測によると、今年はスギ花粉が大変多いということで心配している。スギ花粉が多いと、やはり客が外出する機会も減り、そのため来客数も減る。そういった点から、来客数の増加はなかなか見込めないため、やや悪くなる。
		コンビニ（経営者）	・不安である。
		衣料品専門店（店長）	・インフレ誘導政策が現実味を帯びてきており、給与が上がらないうちに物価が上がると思われていることや、まだ体力が回復していないうちは買い控えが続く。
		衣料品専門店（営業担当）	・今年の寒さが長引くと、いくら暦の上では春でも春物の実売期間は短くなり、すぐにバーゲン価格になってしまう。年々、春と秋がなくなってきており、メーカーも春物、秋物というのは薄く作っている。夏物と冬物だけをしっかりと売れるような形でメーカーが作り込みをしているため、大変厳しい状況になると思う。
		乗用車販売店（渉外担当）	・エコカー補助金終了の影響もあり前年比10%落ちている。2015年10月より取得税撤廃が税制大綱に組み込まれ、消費者にとっては喜ばしいニュースであると業界として捉えたい。ただし、現在も環境対応車の取得税、重量税免税や減税の車種が多数あり、細部の調整等課題は残されていると感じている。
		住関連専門店（統括）	・景気対策はまだ先になりそうなので、買い控えはもう少し続くのではないだろうか。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・医薬品のインターネット販売開始により競争が激化するため、第1類医薬品の売上に影響する。
		その他専門店〔雑貨〕（従業員）	・新店ができてあまり売上が伸びていない。
		一般レストラン（スタッフ）	・客には景気は気だから良くなると言っているが、実際はさっぱりである。税金や原油価格など様々なものが上がり、回る前に負担ばかりが多くなりそうで不安である。
		旅行代理店（従業員）	・業界自体先細っていくような印象を受けるが、特に団体旅行を新規ではじめる会社や事業所は、ほぼないのではないかと。
		その他レジャー施設〔ボウリング場〕（支配人）	・消費税増税が決定したことを受け、今から消費が控えられている。今後1年はなかなか期待できない。
		設計事務所（所長）	・いずれにしても仕事が増えなければなかなか厳しい。国の施策もさることながら、これからは新築物件よりも耐震補強工事等がますます増えると思う。そのため民間にもどんどん補助を出してもらわないと仕事が増えない。
悪くなる	一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	・大型店出店の規制がないため、近隣での出店計画が絶えず、オーバーストアが進むためである。	
	一般小売店〔靴・履物〕（店長）	・車の減税などが言われているが、我々庶民の生活にはそれほどプラスにはならない。やはり消費税増税と、給料も春闘などを見ても上がらないということで、ますます悪くなるのではないだろうか。	
	観光名所（職員）	・1月は年間でも2番目3番目に良い月である。2、3か月先は、観光地では真冬の時期を迎え、旅客がかなり減るため、悪くなる。	
	住宅販売会社（経営者）	・景気対策を重点に置いた政権が政策を実行して、早くデフレから脱却し景気を良くすれば、自然と税収も増えるため、すべてうまくいくと思う。今のままでは景気が回復する見通しは立っていないが、新政権の政策には期待している。半年後ぐらいには状況が良いほうに変わってくるかもしれない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業 動向 関連 (南関東)	良くなる	金属製品製造業（経営者）	・製造業にとっては、円安が続くことで仕事が海外に流出せず、国内生産の可能性が高まるため、円安傾向が続けば量の確保ができる。また、政府の緩和策や景気刺激策が良い方向に行くことで国内景気に活気が出る。
		その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・アベノミクスの影響で、良くなる。
	やや良くなる	食料品製造業（経営者）	・春は行事が多くあり、商品が動く時期のため良くなる。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・これという理由はないが、良くなるムードを感じ始めている。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・印鑑やゴム印、名刺印刷の仕事をしている。法人関係はやや良くなっているが、それ以上に店頭と通信販売の部門で、個人の需要が伸びてきている。季節に関係ない需要として、印鑑のリフォームや未彫刻の材料に彫ってほしいという、あまり差し迫って必要はないが作ってみようという客が増え出している。
		金属製品製造業（経営者）	・材料費の値上がりや当地域の生産工場が開発部門に変わるなどの要因もあるが、経済対策の継続的な実効性が期待できるため、やや良くなる。
		金属製品製造業（経営者）	・政権が変わって、得意先は年度末までの予算の消化をするため、注文が出てきた。2か月先くらいまでは忙しくなりそうである。
		電気機械器具製造業（経営者）	・円安と株価上昇により資金が回り始めるのではないかと。国の予算も施行されれば中小企業にも助成金や補助金が回り始め、今よりは良くなる。
		精密機械器具製造業（経営者）	・新政権下での期待感と、また、3月には回復してほしいという望みもある。賀詞交換会等で大手メーカーの話としても、春先からの話が出ている。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・トラックが生産調整ということで、もっと悪くなるかと思ったが、この2、3か月、平均してそれほど悪くならず、そろそろ通常の生産に戻らと思う。また、やはり景気は気分であるため、内閣が変わったというだけで、また、円安などいろいろな要素が加わり、例年そうだが桜の咲くころには今より良くなっていると思う。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・新内閣に期待している。
		建設業（経営者）	・景気対策の早い実行を期待したい。
		建設業（経営者）	・消費税増税前の駆け込み需要のため、やや良くなる。
		建設業（営業担当）	・消費税増税に伴い、増税時期前の年内発注へ向け年始より新規案件が増えてきている。また企業への減税措置も出ているため客が今後の動向に興味を示している。
		建設業（経理担当）	・予算は相変わらず厳しそうであるが、民間の工事案件が数件見えてきた。また、消費税増税前の駆け込み需要もあるだろう。多少は景気が良くなる。
		輸送業（経営者）	・2、3か月先は年度末決算になるため、その時点では景気の動向が少しは上がってくると思い、期待を込めてやや良くなる。
		輸送業（経営者）	・昨年未よりコンビニの出店増が目立ってきており、取扱量の増加が期待できる。また、併せて新学期に向けての業量増が見込まれるため、やや良くなる。
		輸送業（経営者）	・荷主からの良くなるという話を信じて、また、そうなってもらいたいという願いで、やや良くなる。
		輸送業（総務担当）	・出荷は年度末に掛け増加の傾向にあるが、東北方面への配送は車両が足りない状態である。今までの運送費では、東北方面の帰り車が集まらない状態である。自車で配送すると当地域を含めて、車両の絶対数不足が続く。
		通信業（広報担当）	・経済対策や円高の修正により、IT投資も増えると考えられる。
		金融業（統括）	・期末の季節的要因と、円安、株高による貿易関係、産業関係の発注が増える。
		金融業（役員）	・新政権の経済政策に対する期待感から、経営者の気持ちが前向きになってきている。参議院選挙がある7月までは、この傾向が続くだろう。
金融業（支店長）	・相場の動きに行き過ぎ感はあるものの、新政権がやろうとしていることへの期待感はある。この上り調子がしばらく続くのではないかと。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		不動産業（従業員）	・企業からの工場、事務所用地等の受注が増えている。しかし、土地そのものの供給はやや不足している。
		不動産業（総務担当）	・テナントからの引き合いが多くなっていることと、賃料の低下傾向にやや歯止めが掛かっていることも実感としてある。期待含みだが、この先、景気はやや回復する。
		広告代理店（営業担当）	・円安、株価の動き、新政権の本格的な経済改革始動による期待感が、各クライアントから聞かれるためである。
		税理士	・急激なインフレや賃金アップにはつながらないが、景気の上向き感がある。
		経営コンサルタント	・新政権への期待の声があるため、やや良くなる。
		税理士	・日本としては、北米での自動車など日本製品の売上、また、中国を始めとする新興国への日本製品の輸出がある。北米があまり良くないとしても、中国や新興国でどんどん売っており、そのことで日本は持っていることもある。もうひとつは国内から起こってくる。旧政権の時も最悪だったが、今、新政権になってばらまきかもしれず、その反動があるかもしれないが、いろいろなことを宣言してやっているため、政治から景気が良くなっていくという芽が出てきているのではないかと思う。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	・まず中央が景気回復で動き、それから現場にくると思う。2、3か月後はまだ変わらない。
			繊維工業（従業員）
		出版・印刷・同関連産業（所長）	・年度明けの引き合いで、若干のプラス要素もある。何とか1～2月前半の穴埋めをと考えている。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・見積依頼の件数増加は、一時的または一過性なところもあるため、2～3か月様子を見ないと何ともいえない。
		化学工業（従業員）	・景気回復の期待感はあるが、具体的な需要や計画がなく、良くなるのか悪くなるのか判断できない。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・景気の底入れ感はあるが、新企画の話があっても実現性は薄く、本格的な回復にはまだまだ時間が掛かりそうである。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・3か月程度では新しい予算の執行等、動きはまだ出てこないと思う。そのため、景気は良くならない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・現状では見積を頼みたいという話も少なく、見積依頼があっても小ロットのものしかない。それが取れても状況が非常に良くなるというようなものはない。大ロットは皆外国へ行ってしまい、少しぐらい円が安くなっても状況は変わらない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・売上がこのところ全く伸びず、横ばいの状態が続いているため、変わらない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・経済対策をいろいろ打っているが、現実に実行され零細企業まで及ぶには、まだまだ時間が掛かると思う。すぐ良くなるとは考えられない。
その他製造業〔靴〕（経営者）	・大きくは変わらないと思うが、当社は技術の会社であるため、良いものは残ると考えている。現に中国産などで品質が落ちるという状況のなかで、メイドインジャパンの格が上がってきているような気がする。		
金融業（従業員）	・今年の景気見通しについては、多くの業種で悪いと回答している。消費税率引上げ等の懸念材料も多いが、まずは足元の円安、株高によって、中小企業の景況感が改善されることを期待したい。		
金融業（渉外・預金担当）	・政治改革による期待度は高いが、短期での効果は見込めず、現状でも動きはみられない。		
不動産業（経営者）	・マンション19戸のうち11戸が契約になったが、残り8戸の契約にどのくらい掛かるだろうか。好転を念ずるのみである。		
広告代理店（従業員）	・新政権になり景気回復がささやかれているが、すぐには反映してこないと思う。		
広告代理店（従業員）	・売上、受注予定など、特に変化はみられない。		
社会保険労務士	・良くなる要素が見当たらない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		経営コンサルタント	・4月から新年度に入る中小企業各社の来年度計画の策定が始まった。政権交代により期待が高まっていることは、売上の予想数値からもうかがえる。ただし、それは半年程先のことであり、2～3か月では変わらないと読んでいる経営者が多い。
		経営コンサルタント	・円安が輸入に影響している。輸入原材料の価格騰貴が先行しつつあり、中小企業にとって、支出高が先にくることとなる。
		その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	・気分的な景気回復はみられるが、映像や広告の業界では期待のみで、具体的に何か新しい動きがあるような見通しは今のところない。
		その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	・スマートフォンの利用者数増加に伴い、インターネットはスマートフォンで用が足りるというユーザーが増えてきており、自宅への光回線開通数が低迷してきている。この傾向はしばらく継続する。
	やや悪くなる	出版・印刷・同関連産業（総務担当）	・景気対策に期待が持てない。
		輸送業（営業担当）	・大幅な売上減をカバーする新規取引先を見い出せない。
		金融業（支店長）	・中小企業の今年の売上予想を聞くと、先行きの受注が入ってきておらず、景気的にはまだまだ戻ってきていないようである。また、電力料金の値上げや消費税増税ということを踏まえると、陰りがまだまだ続くと思う。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	・今月末で撤退する仕事の代わりに受注したいが、すぐには売上が上がる仕事は獲得できない。
	悪くなる	建設業（経営者）	・景気対策が実施されなければ、景気は良くならないと思う。
		広告代理店（経営者）	・下方修正されたクライアントの予算が実施され始めるため、3か月後は今より悪くなっているのはほぼ確実である。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	・年度末に元請会社の内製化により、大幅な解約物件が生じる。新規物件の話もあるが、こちらは成約できたとしても時間が掛かるため、数字の見込みは立たない。
	雇用関連	良くなる	民間職業紹介機関（経営者）
(南関東)	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・政府の景気対策の影響か、取引企業の雰囲気も以前に比べれば明るくなってきており、緩やかにではあるが景気回復するのではないかと。
		人材派遣会社（社員）	・昨今の金融緩和と政策による円安が製造などの輸出系企業の業績を後押ししている。依然、先行き不透明感が残るが、一部で回復の兆しが見え始めているため、今後に期待している。
		人材派遣会社（支店長）	・企業の求人数もやや良い状況を維持しており、また、消費税増税前に大きな買物の駆け込み需要も、今後、徐々に出てくると思う。
		人材派遣会社（営業担当）	・特に取り立てて好材料があるわけではないが、新内閣になってからの景気回復への期待感が持続してほしい。
		人材派遣会社（営業担当）	・全体的に派遣求人数は増加傾向にある。労働市場も活性化され、採用活動を再開している企業が多くなってきている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・業種、職種によっては、春以降に広告PRを追加する動きがある。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・求人広告の数が増えている。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・企業側担当者との話のなかで、確たる根拠はないが、年度が替わり、また、春を迎えるのを機に前向きに動き始める気配を感じる。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・春先に向けて、少しながら需要拡大が見込めそうである。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・年度替わりということで、この間に相当数の募集が出るといえる。現在、予約ももらっているため、多少の盛り上りはあると期待している。
		職業安定所（職員）	・政府の緊急雇用対策等を受け、その関連で求人が出てくると思う。常用的な求人でないとしても、そのことによって求人が出れば、それに関連した会社からも求人は出て、やや良くなるのではないかと。求人が数か月前に比べて増えており、それによって更に輪を掛けて増えていこうと思う。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	民間職業紹介機関（経営者）	・国内景気の回復が徐々に期待できそうであることを明るい材料として、人材の採用にも積極的な影響が出てくることを期待する。
		人材派遣会社（社員）	・経営者の多くは新政権になったことを非常に喜んでいる。特に公共事業に期待しているが、まだ具体的なことが決まっていないため、景気が回復するのはしばらく先だろうという意見が多い。また、円安になってきたため、円安で困る業態は、燃料費などいろいろなものが現状より悪くなるのではないかと非常に心配している。
		人材派遣会社（営業担当）	・雇用形態と雇用数の改善が見込まれるほどではない。
		人材派遣会社（支店長）	・新政権による政策効果はまだ先となりそうであり、人材のニーズは当面冷え込みそうである。
		求人情報誌製作会社（広報担当）	・政権交代で、補正予算の恩恵にあずかる企業も多いようだが、当業界ではあまり関係がない。景気が確実に上向けば良い見通しもできるのだろうが、現状ではあまり良い要素がない。
		職業安定所（所長）	・地方の中堅製造業における破産、人員整理等が一部にあり、また、新規求人数の伸びも鈍化している。一方、政府の景気刺激策は当座の効果はあると思われることから、結果として変わらない。
		職業安定所（職員）	・新規採用の様子見している中小企業も多い。
		職業安定所（職員）	・求人件数については、このところ横ばいが続いており、緩やかに上昇することは考えられるが、景気そのものは横ばいと判断した。
		職業安定所（職員）	・採用者数が減っている状態で、変化がない。
		民間職業紹介機関（職員）	・政権交代による様々な施策への期待により、心理的には上向いている気がする。採用数、求人数等にまだ変化は見られないが、実態経済としては数値は落ちており、今後が予測しにくい。
		民間職業紹介機関（職員）	・求人数の動きに、変化が感じられない。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	・次年度の求人について、実績先へ求人の依頼をしているが、ほとんどまだ25年度採用は未定であるという話が多い。
		学校〔専修学校〕（就職担当）	・次年度の採用計画調査状況から、採用復活や採用数増員等の企業は少なく、おおむね前年度ベースで大きな変化はない。
		やや悪くなる	職業安定所（職員）
悪くなる	—	—	

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (東海)	良くなる	一般小売店〔土産〕（経営者）	・10月までは式年遷宮の諸行事が続いたため、夏ごろからはますます人出が増える。
		コンビニ（店長）	・3、4月を迎えて暖かくなり、人出が増えて、客の購買意欲も高くなり、売上、売上単価共に良くなる。
		旅行代理店（経営者）	・テレビやラジオでは、景気が良くなるというニュースが流れている。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・底力を見せてきている。これからもどんどん調子良く買物してもらえと思う。
		一般小売店〔結納品〕（経営者）	・政権交代により、景気対策が多少は効果を生むのではないかと。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・取引先の飲食店への来客数は、まだまだ安定的には増えていないが、わずかに増える方向にある。
		一般小売店〔書店〕（経営者）	・政権交代したのが、一番の原因である。景気は気から変えていく姿勢が、全面に出ている。良い商売をやっている者にとっては、とても良いことである。すぐには変わらないかもしれないが、徐々に上向くのは間違いない。
	一般小売店〔和菓子〕（企画担当）	・新政権になり、期待感がある。良くなるのではないかと。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（企画担当）	・新政権が新たな景気向上策を打ち出しているため、瞬間的に景気が上向く可能性がある。また、その先に消費税増税を控えているため、駆け込み需要も景気を後押しする。ただし、消費税増税後への不安から、不必要な物は購入しない傾向は、より顕著になる。
		百貨店（経理担当）	・経済対策を始めとする新政権への期待から、当面、消費マインドの改善傾向は続く。
		百貨店（販売促進担当）	・当面はアベノミクスと株価上昇等の効果により、景気マインドは上向く状態が続く。
		百貨店（経営企画担当）	・株高、円安などにより、雰囲気やマインドは少しは良くなるのではないかと。景況感が良くなることには、購買意欲につながる。新政権の経済対策の効果も、少しずつ現れてくるのではないかと。
		百貨店（販売担当）	・マクロ環境の変化が、消費者に影響を及ぼす可能性はある。企業の業績が向上すれば、消費が上向く可能性もある。ただし、天候や気温などの自然現象と、世の中へ影響を及ぼす事件、事故がないことが条件になる。
		百貨店（販売担当）	・消費税増税が実施されるまでは、駆け込みの購入で少しは良くなる。
		スーパー（経営者）	・円高、デフレが長く続いたが、徐々に円安になり、デフレも正常に戻りつつある。春先からは輸出や公共投資も増え、景気が良くなる兆しが出てくる。景気の底は2月ごろになり、3月ごろからは良くなっていく。
		スーパー（店長）	・消費税増税の実施までは、インフレ傾向が続き、消費は拡大する。
		スーパー（支店長）	・政権交代し、期待を込めている。具体的な理由は見つからないが、景気対策に期待する。
		スーパー（商品開発担当）	・厳しい状況に変わらないが、株高や円安で、ここ数年にはない状況になっている。お祝いやバレンタインデー等に期待する。
		コンビニ（店長）	・景気回復の兆しが見えてきて、消費マインドが上向いていくことに期待している。
		コンビニ（商品開発担当）	・公共事業の復活に伴い、米飯を始めとするファーストフードの販売に期待が持てる。
		家電量販店（店員）	・既に底を打っているため、これ以上悪くはならない。来月は各社が新製品を発表し、良い商品が出てくるため、多少は伸びる。
		家電量販店（店員）	・期待感を込めて、やや良くなる。ただし、現状の流れのままでは、不安もある。
		家電量販店（店員）	・政府が予算をばらまくため、お金は出てくる。そのことに期待すると、やや良くなる。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車ディーラーでは、決算期に入る。また、進学、就職などで、客の動きが良くなる。
		乗用車販売店（従業員）	・客の流れが、良くなってきている。また、会社が増販できる施策を展開するため、決算イベントも重なって、予想以上の受注が見込まれる。
		乗用車販売店（従業員）	・新政権には少し安定した計画が見られるため、多少良くなる状態が続く。
		乗用車販売店（総務担当）	・客の様子を見ると、明らかに前年とは違って、景気回復に対する期待感がある。
		住関連専門店（営業担当）	・住宅建築全般が、消費税増税の前に完成する。リフォーム物件も、職人の不足や労務費の値上がり、資材価格の高騰が開始しており、早めに着工したほうが良いとの需要が開始している。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・3、4月になると、進・入学、入社、異動等に伴い新生活が始まり、商品に動きが出る。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・新生活準備の時期が到来する。ゆっくりではあるが、ゴールデンウィーク、お盆と買い足し需要が続く。
		観光型ホテル（販売担当）	・前年の同時期と比べて、2、3月は一般宴会の受注が良くなっている。2月は前年に特需があったため前年実績とほぼ変わらないが、3月は30%以上も伸びている。ともに、現時点で予算目標を上回っている。
		都市型ホテル（経営者）	・金融政策、財政政策、脱デフレ戦略等々に対する期待が、非常に高い。これが、企業の力に結び付くことに期待する。景気が回復するのは、それからではないかと。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
		都市型ホテル（営業担当）	・政権交代に伴う円安で、自動車関連の製造業を中心に、景気が良くなるのではとの期待感がある。そのため、年度末を迎える企業の利用が増える。		
		旅行代理店（経営者）	・新政権の政策に対応し、景気が良くなる気配を感じている。当業界では、円安になると若干影響はあるが、それよりも客の景気が良くなれば受注も増える。		
		旅行代理店（従業員）	・会社の創業・設立の周年記念旅行を実施する企業が、多くなっている。社員の海外旅行等を計画する企業も多く、少しずつではあるが、企業の体力が付いてきた。新政権によって政局が安定し、円安によって企業収益が安定すれば、一層良くなるのではないかと。		
		タクシー運転手	・朝や日中のタクシー利用客の動きは、現状のままである。夜の繁華街の動きが、今月そのまま推移すれば、3か月後の送別会、歓迎会の時期には上昇してくる。新政権の景気対策への期待感もある。		
		通信会社（企画担当）	・政権交代によって、景気対策への期待感が高まっている。		
		観光名所（案内係）	・新政権に期待している。数か月先に景気が良くなってくれないと困る。		
		ゴルフ場（企画担当）	・3月ごろまでの予約数は、前年の同日と比べて大変好調である。2～3か月先の景気は良くなる。特に大型ゴルフ場の予約が大変好調であり、景気は上向いている。		
		美顔美容室（経営者）	・4月からキープキャンペーンが始まるため、新規顧客が少しは増えて、販売量が増える。		
		美容室（経営者）	・2～3か月先は梅・桜のシーズンで、暖くなるため、客の出足も良くなる。		
		その他サービス〔語学学校〕（経営者）	・例年、生徒数が増える時期を迎える。		
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・3月は介護保険の年度末であるため、需要の掘り起こしで、売上増加が見込める。		
		設計事務所（経営者）	・政権が変わって、期待を込めている。		
		変わらない		商店街（代表者）	・中小企業が衰退していく現状を見る限り、景気が良くなることはありえない。このままでは格差が生まれるだけであり、デフレ脱却、景気回復は極めて難しい。
				商店街（代表者）	・株価は上がっているが、これから税負担が増えていくため、消費がどうなっていくかはわからない。
商店街（代表者）	・悪い状態からは、少しずつ脱却しつつある。しかし、単にそう思うだけであり、根拠はない。				
商店街（代表者）	・数か月先も、変わらない。当店では、個人客の来客数は微増、客単価は低下の傾向が続いている。また、法人需要が回復しない限り、本当の意味での売上回復にはならない。				
商店街（代表者）	・地域の家電専門店では、景気にあまり左右されないとと思われるシルバー世帯に対して薦められる商品が少ないので、現状維持が精一杯ではないかと。				
一般小売店〔土産〕（経営者）	・悪くなる要因は特にはないが、この2、3か月間で急激に良くなることもない。7月になると遷宮行事が始まるため、平成28年の正月まで当地は好景気になる。				
一般小売店〔時計〕（経営者）	・景気対策が、すぐに効果を出すとは思えない。				
一般小売店〔生花〕（経営者）	・アベノミクスへの期待がないわけではないが、政策の効果が出るのは、まだまだ先の話である。そこまで持ちこたえられるかどうか、問題である。				
一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・贈答品店は、ここ2、3年間で急激に落ち込んできた。落ち込むところまで落ち込んだため、今の状態がある程度続く。				
一般小売店〔自然食品〕（経営者）	・小手先の政策だけでは、生活者の景況が改善することはない。給料が増えるなど、実際に収入が増えないと消費もできない。				
一般小売店〔食品〕（経営者）	・このところの円安で、ガソリンや輸入原材料が値上がりする。その反面、賃金水準は依然として横ばいか、低下さえしている。これが、商売を非常に圧迫している。政策効果が出るまでには時間がかかるため、数か月間は景気の低迷は避けられない。				
一般小売店〔薬局〕（経営者）	・60歳以上の一部の人はお金を持っていて、良い商品に対する購買意欲は高い。しかし、一般の人はお金に余裕がない様子である。必要な物でも、少ない量の品物を購入する傾向が強い。ただし、今後はインフルエンザと鼻炎の流行で、多少良くなる。				

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔果物〕(店員)	・3か月ほどでは変わらない。
		百貨店(売場主任)	・当地はブランド好きの人が多く、新しいブランドや他人と違った商品を探している人が多い。高い値段の商品を買う人と、買わない人とがはっきりしている。紳士靴は、なかなか厳しい。今後も、今と同程度の売上で推移する。
		百貨店(売場主任)	・購買意欲をかき立てるような動きはなく、このまま買い控えの傾向が続く。
		百貨店(経理担当)	・若い女性向けの衣料品が、振るわない。
		百貨店(経理担当)	・円安、株高により企業の業績は好転するが、給料に反映されるまでにはまだ時間がかかるという話を、金融機関からよく聞く。
		百貨店(販売担当)	・クリアランスセールは前年並みであったが、その後は前年を割っている。セール待ちの様子は、年々大きくなっている。
		百貨店(販売担当)	・政府の景気対策などで円安、株高になりつつあるが、消費者が景気浮揚を実感できる部分はまだなく、今後数か月で劇的に変化するとも思えない。
		スーパー(経営者)	・一部では明るい話題を聞いているが、中小小売店や飲食店には、まだまだ回ってきていない。今後2~3か月間は、悪い状態が続く。
		スーパー(経営者)	・新政権に期待する。
		スーパー(店長)	・競争が厳しく、食品価格は下がることはあっても上がることは少ない。人口減少と高齢化により、食品への支出は明らかに減少している。消費者は、適量、1人用といった無駄のない量を求める傾向が強い。当面この傾向は続き、景気回復は難しい。
		スーパー(店長)	・政治の動きがまだ読めていない。今後の増税や、それ以外の経費削減など不安要素は多く、良い先行きは見えていない。現状からみると、急に良くなる雰囲気は一切ない。
		スーパー(店員)	・今のところ、何も変わっていない。今後は消費税増税等もあるため、それらがどうなっていくのかで、今後の景気が決まってくる。
		コンビニ(企画担当)	・これ以上悪化することはないと思われる。消費税増税が始まってどうなるかであるが、各方面から求人が増えてくれば、雰囲気は良くなるのではないかと。
		コンビニ(エリア担当)	・今後も今月と同様に厳しい状況は続き、好転はまだ先である。
		コンビニ(エリア担当)	・今後は、現在の経済政策に大きく影響される。良い政策を実施したとしても、末端の消費者に影響が出るのは春先になる。
		コンビニ(店長)	・ピーク時の来客数が、前年同月と比べて1割ほど減っている。これが増加に向かわない限り、景気が良くなるとは思えない。
		衣料品専門店(経営者)	・当店は比較的高額な商品を品ぞろえしているため、急に来客数や販売量が増えることは考えられない。
		衣料品専門店(販売企画担当)	・ファッション品の動きが良くなってくれば良いが、原料高になりつつあり、先行きは悪くなる。
		乗用車販売店(営業担当)	・客がお金をすぐ使うということは、今後は減ってくる。
		乗用車販売店(経営者)	・3月までは、今の状態が続く。ただし、4月以降は少し落ち着く。今後は、消費税増税に伴う駆け込み需要が期待される。
		乗用車販売店(経営者)	・今後も様子見の状況が続く。
		乗用車販売店(従業員)	・株価も含めて少し良くなりそうであるが、まだよくわからない。
		乗用車販売店(従業員)	・特に前向きな兆しがあるわけではない。売れている車や、値落ちせず高くなったスポーツカーもある。しかし、高い車はあまり売れない。このまま、現状が続く。
		乗用車販売店(従業員)	・決算期を迎え、法人需要が多少出てきている。来期の見通しは更に厳しいため、今期に購入を考えているとの話もある。若者の免許取得時期でもあり、何とか購入に結び付けていきたい。
		乗用車販売店(経理担当)	・景気が悪くなるとも思えないが、本格的に回復するにはもう少し時間が必要である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔雑貨〕(店員)	・アベノミクスの効果が出てくるには、もう少し時間が必要である。
		その他小売〔ショッピングセンター〕(経理担当)	・売上は、前年同月と比べて1.9%減少している。来客数は、同5.4%減少している。平成24年の12か月間で、売上の前年同月比がプラスになったのは4か月であり、マイナスになったのは8か月である。同じく、来客数がプラスになったのは8か月であり、マイナスになったのが2か月、プラスマイナスゼロは2か月である。
		その他小売〔ショッピングセンター〕(営業担当)	・好景気に向かう材料はない。
		高級レストラン(スタッフ)	・当面、弱含みの基調が続く。株価の回復や円高修正のプラス効果が個人や家計に及ぶまでには、経験上相当の期間を要する。今回もそのようになるのではないかと。
		一般レストラン(経営者)	・政治の動向がわからないため、消費者はお金を使うのを控える。
		一般レストラン(従業員)	・新政権が大胆な景気対策をしているようであるが、居酒屋のような末端には、効果は出ていない。
		スナック(経営者)	・東日本大震災以降は、年々財布のひもが固くなっている。
		その他飲食〔仕出し〕(経営者)	・様子見的な感じがあり、マイナス心理が働く。政策が実施されると、一気に元に戻る。
		都市型ホテル(支配人)	・宿泊予約には、積み上がりが見られない。
		旅行代理店(経営者)	・景気の向上が体感できるまでには、最低半年はかかる。今年度中は難しい。
		旅行代理店(経営者)	・給料は増えておらず、増税など先行きの悪い話題が多いため、財布のひもは緩まない。ほっとできる経済対策が欲しい。
		旅行代理店(経営者)	・消費税増税を前にして、必要な大型消費財の駆け込み需要は増えるが、旅行のような消費財は増えると思えない。今後は外国人旅行者を増やすためにも、様々な分野で規制改革が必要である。現在の成長戦略を軌道に乗せるには、もっと現場の状況を知るべきである。
		旅行代理店(従業員)	・新政権になり、インフレ傾向になっているが、効果が出るにはまだまだ時間がかかる。もうしばらくは、景気が悪い状態が続く。
		タクシー運転手	・長い間、夜の繁華街では飲食客数が少ない状況が続いている。政治が変わり、財布のひもを緩められる政策が実行されれば、少しは変わる。今の状態では変わらない。
		タクシー運転手	・一部の企業が良いだけで、財布のひもはまだ固い。
		タクシー運転手	・政権が変わり、景気対策にかなり力を入れているため、気分的には良くなるが、実際にどうなるかはわからない。2～3か月先は現状のままである。
		通信会社(営業担当)	・設備更改による受注が主であり、新規受注の低迷が続くそうである。
		通信会社(営業担当)	・景気回復に向けた政府の各種施策等が景気回復への第一歩であると思うが、財源等が不明確、不明瞭な点もあり、国民としては将来への不安も大きい。
		テーマパーク(職員)	・スキー場でも、来客数は上向いている。しかし、温泉客数は伸びておらず、まだ節約型のレジャー動向と感じる。
		テーマパーク(経営企画担当)	・厳しい寒さの予報が出されたため、今後も現状並みが続く。
		美容室(経営者)	・株価などが徐々に上がり始めているが、ガソリン代も値上がりしてしまい、逆に悪くなっている。
		美容室(経営者)	・かなり前と比べると、良くなってきている。このまま今の状態が続く。
		設計事務所(経営者)	・案件数の少なさと単価の低さは、全く改善する兆しが無い。
		住宅販売会社(従業員)	・消費税増税に伴う消費者の負担増のみならず、便乗値上げもある。住宅の新築は増えるかもしれないが、金利の上昇も考えると、客は二の足を踏んでいる。
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕(経営者)	・景気が上向くような、期待感のある話を関連職種の人からよく聞く。しかし、実際には、来客数、契約数共に、良くなる兆しは感じられない。
	やや悪くなる	百貨店(営業企画担当)	・大規模商業施設の開店が間近に迫っており、それに向けた商圏内の競争は激化する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・売上を回復させるため、価格対応せざるを得ない状況が続いている。今後も、更に厳しい状況が続くそうである。
		スーパー（店員）	・円安方向に向かっており、原油価格の高騰分が商品に転嫁されるのではないかと不安が頭をよぎる。
		スーパー（店員）	・まだまだ競合店が増えていく傾向があり、見通しは良くない。
		スーパー（営業担当）	・政権が変わって、景気浮揚への期待感は増幅しているが、3か月間で良くなる変化は期待できない、悪くなる要因のほうが大きい。
		スーパー（販売促進担当）	・4月になると、近隣に大型商業施設が新規オープンする。今年も厳しい数字が続く。
		コンビニ（エリア担当）	・競争はますます厳しくなり、商圈は小さくなっていく。
		乗用車販売店（販売担当）	・クリーンディーゼル車は人気であるが、3月からのエコカー補助金の動向が不透明であるため、動きは鈍くなる。
		その他専門店〔貴金属〕（店長）	・消費者の購買意欲は、少し上がったようにみえる。しかし、景気の回復には時間がかかる。
		一般レストラン（スタッフ）	・最近の株価を見ていると、今後は良くなるのではないかと。
		都市型ホテル（経理担当）	・レストランの利用客数が減少している。
		通信会社（サービス担当）	・工事費割引の現キャンペーンが終了した場合、受注は減る。
		パチンコ店（経営者）	・当業界では低価格競争が徹底されてきているため、大規模店舗の優位が進んでいる。
		理美容室（経営者）	・客との会話では、株価や円安が進んでも、生活に関する物は安くならないため、良くならない。
		設計事務所（職員）	・政権交代し、景気が良くなる雰囲気はあるが、具体策はない。公共事業にしても、必要な公共事業を実行するやり方にしない限り、変わらない。
		その他住宅〔室内装飾業〕（経営者）	・今月はホテルの全室改装工事を受注したが、年度末にかけての見積依頼等の引き合いは少ない。
	悪くなる	コンビニ（店長）	・宝くじの販売に加えて、サッカーくじの販売も始める。しかし、競合店対策としては弱い。その他の対策は、なかなか思い浮かばない。
		観光型ホテル（経営者）	・2～3か月先の予約数は、前年同月比15%減になっている。4月は更に悪い見込みである。株高、円安等で雰囲気は良いが、レジャー産業や宿泊産業にはまだ影響が出ていない。具体的に実体経済が動いてくれれば良いが、まだまだ暗闇の中である。
		都市型ホテル（従業員）	・予約数は悪くなっている。
		テーマパーク（職員）	・近隣では廃業する店が増えている。観光客数も少ない。
		理容室（経営者）	・当分、景気が良くなるとは思えない。財布のひもは固くなるばかりである。
住宅販売会社（経営者）		・所得が減っているため、買い控えというより買えないという状況にある。消費税増税も控えており、複雑な状況である。	
企業動向関連（東海）		良くなる	窯業・土石製品製造業（経理担当）
やや良くなる	食料品製造業（経営企画担当）	・円安は当面続くと思われ、輸出関連企業を中心に景気を持ち直しを期待できる。これが国内消費の活性化につながるかどうかは、まだわからないが、緩やかでも改善方向に向っていることは間違いない。	
	化学工業（企画担当）	・政権交代による期待感の高まりから、円安、株高の傾向が出てきており、輸出産業を中心に利益は回復すると予測される。景気は緩やかな改善傾向にある。	
	一般機械器具製造業（経理担当）	・2013年上期の営業動向を見ると、受注量は増加する見込みである。	
	電気機械器具製造業（企画担当）	・円安の流れが定着すれば、売上、利益共に改善を期待できる。	
	輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・客先の新機種の立ち上がりによって、利益の上向き傾向はしばらく続く。	
	輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・円安で、完成車メーカーの生産量が増える。また、最近になってスクラップの価格が上がってきているが、スクラップの価格は景気を取引するため、景気は良くなる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（経営者）	・アベノミクスの効果を実感しつつある。今しばらく、このまま推移する。
		建設業（営業担当）	・主力の浄化槽の受注は、家が建ち始める時期に増えるため、売上は増える。
		輸送業（経営者）	・住宅設備関連の物量が、消費税増税前の駆け込みによって、増加し始めている。
		輸送業（エリア担当）	・東海地域は輸出企業が多いため、輸出貨物が増加する。
		輸送業（エリア担当）	・新政権の影響で株高、円安になっているが、これでマインドは上がっていく。景気が良くなってから数か月後に、荷物量が動き出してくるため、数か月先には荷物量は徐々に上向いてくる。
		輸送業（エリア担当）	・雰囲気は悪くない。社内でも、決算に向けて経費節減を指示されるが、そのトーンは以前ほど高くない。その一方で、物量増に対応できる体制を構築している。
		通信会社（法人営業担当）	・政権交代に伴う円安、株高、大型補正予算の実施により、企業マインドは高揚している。米国経済の安定成長も見込める。日中関係の改善も見込め、対中貿易の回復等々、好材料が多々見られる。
		金融業（法人営業担当）	・最近の円安も反映し、取引先の自動車部品メーカーでは、受注量が総じて増加している様子である。今後の生産増加も見込まれる。
		金融業（企画担当）	・新政権による各種政策への期待感という心理的要因が大きい。当面は円安、株高が続くことから、個人消費が増え、景気は良くなっていく。
		不動産業（開発担当）	・政権交代の影響に加えて、消費税増税前の駆け込みの動きも見られ始めている。
		企業広告制作業（経営者）	・少なくとも参議院選挙までは景気は良くなる。
		公認会計士	・実体経済の回復には多少の時間がかかるかもしれないが、アベノミクスに対する期待感がある。消費税増税前の駆け込み需要もある。
		行政書士	・事業に動きを感じる。
		経営コンサルタント	・消費税増税前の駆け込みで、住宅新築の動きがある。それをてこに、景気は上向いていく。
		会計事務所（職員）	・財政出動、金融緩和によって、ここ数か月間は良くなる。
その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・半年間は、良い状態が続く。しかし、日本だけではデフレは解消しない。世界全体で立ち向かわなければ難しい。4か月ほど先には、何らかの結果が出る。		
変わらない		パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	・円高、株価上昇と景気の良い話を聞くが、これが実際の受注量、販売量につながるかどうかは不明であり、今後も現在とあまり変わらない。
		化学工業（人事担当）	・不透明である。現在の円安水準が安定すれば、株価も上昇し、消費者の意識が変わって財布のひもは緩むであろうが、企業の業績が上向くまでにはもうしばらく時間がかかる。
		鉄鋼業（経営者）	・需要の先食いが長く続くとは思えず、3月上旬には失速しそうである。
		金属製品製造業（経営者）	・年度末を控えて、2～3か月後の引き合いは減少している。
		金属製品製造業（従業員）	・原材料の値上げ傾向が気になる。
		一般機械器具製造業（営業担当）	・円安のままであれば、受注を取れる可能性は高い。しかし、円高に戻れば、今抱えている引き合いも消えてしまうので、楽観はできない。
		電気機械器具製造業	・2、3か月先では、大きな変化は期待できない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・取引先の来年度の設備投資計画がはっきりしないため、今とあまり変わらない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・為替もまだまだ不安定であり、ここ2～3か月間で輸出が伸びる可能性は低い。国内需要も停滞気味であり、短期間で改善される環境にはない。
		輸送業（従業員）	・例年この時期の荷動きは低調であるが、月末になり前年を下回っている。政権交代で円安傾向が続いており、燃料の軽油やフェリー料金が値上がりし、先行きが不安である。物流業界は大変厳しい。
		輸送業（エリア担当）	・主要荷主からは、明るい話題は聞かれない。
		不動産業（管理担当）	・景気の上昇期待はあるが、各メーカーや取引先では賃貸業の固定費圧縮に走っているため、まだまだ上昇局面は遠い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		広告代理店（制作担当）	・取引先からの積極的な依頼等はほとんどなく、全体的に価格の設定を抑えられているため、あまり期待はできない。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・新聞の購読率が減っている。折込広告は、パチンコ店の広告減少が痛い。
		会計事務所（社会保険労務士）	・景気が悪くなったと皆が感じ始めてから、ずいぶん長くなった。我慢や節約も、日常のことになっている。良くなる材料を見つけられない。まだしばらくこのままの状態が続く。
		その他サービス業〔広告印刷〕（従業員）	・変化していく要因は、全く見つからない。本当に動きが鈍い。
やや悪くなる		紙加工品〔段ボール〕製造業（経営者）	・段ボールの生産量が停滞しているなかで、販売価格は低下傾向にある。収益率は更に悪化しそうである。
		印刷業（営業担当）	・周囲を含めて、あまり良い話は聞かれない。倒産する会社も増えており、景気が良くなっている感覚は全くない。新年に入ったため、これから変わっていくかもしれないが、急に変わるとは思えない。
		金融業（従業員）	・瓦業界など景気の良い業界もあるが、当地の主力である自動車関連は、例年に比べても良くない状態が続いており、今後の見通しもほとんど立っていない。
悪くなる		窯業・土石製品製造業（社員）	・月末になって、スマートフォン関連の部品のダブつきが明らかになった。これを製造するための耐火物の使用量も、5分の1になるとの連絡が入った。4月以降も不透明であり、業績悪化は避けられない。
(東海)	良くなる	人材派遣会社（営業担当）	・円安による輸出への効果は大きい。当面は円が大きく上がることもなさそうに感じるため、まだ上昇傾向は維持できる。
	やや良くなる	人材派遣会社（経営企画）	・現在は予算調整に入っているが、年度明けからの引き合いはよく聞かれる。
		人材派遣会社（社員）	・総務、経理、人事の事務管理部門の正社員求人が増えている。
		人材派遣会社（営業担当）	・金融政策への政府の積極的な働きかけにより、物価上昇や企業の賃金改定に、明るい話題が期待できる。
		人材派遣会社（営業担当）	・夏の参議院選挙までは、政策への期待から、この状況が継続する。
		人材派遣会社（支店長）	・派遣社員を契約社員へと直接雇用化してからまもなく3年が経過するが、一部企業では契約社員の雇止めによる派遣依頼が出始めている。今後の動向はまだ読めないものの、派遣求人がある程度増加することが予想される。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・新型車種の販売数は生産計画を上回っており、好調に推移している。
		職業安定所（所長）	・自動車関連製造業の3月末までの生産は、事業所によってばらつきはあるものの、前期と比べてやや増加する。4月以降の生産は、円安等の影響により、現在よりも増加する。新規求人も微増する。
		職業安定所（職員）	・新規求職者数は落ち着いた動きとなっており、新規求人数は増加を続けているため、横ばいに推移していた有効求人倍率は再上昇に転じている。
		職業安定所（職員）	・かなりの円安になってきたため、この状態が続くようなら、2～3か月先の求人数は、製造業を中心に良くなってくる。
		変わらない	人材派遣会社（経営者）
	人材派遣会社（社員）		・今月が好調なので、今後も変わらない。しかし、現時点の予約状況は、例年に比べると良い状況にある。
	新聞社〔求人広告〕（営業担当）		・物価が上昇しても、賃金が増えない限り、良くはならない。
	職業安定所（職員）		・円安、株高等に対する期待は高まってきているが、事業の縮小や撤退など、厳しい状況にある中小企業が多い。実感としては、悪い状況が変わる気配は見られない。
職業安定所（次長）	・雇用面からは、判断できる材料が乏しい。当面変わらない。		
民間職業紹介機関（営業担当）	・円安の影響で製造業では景気が良くなっていると思われているが、これが採用の動きに直結するかどうかは、ここ2、3か月間ほどを見てみないとわからない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・従来は採用の多かった地元の製造メーカーでは、中国語に堪能で検定資格取得者という採用枠を、前年に引き続き見送っている。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・円安により、輸出を中心とした大手製造業では、回復への期待があるかもしれない。しかし、地元の中小企業からは、ガソリン価格等の上昇が経営を圧迫するとの懸念がある。労働者の賃金上昇、求人数の増加への効果があるかどうかは、現時点では不透明である。
	悪くなる	—	—

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (北陸)	良くなる	通信会社（営業担当）	・学生向けの販売が主になってくると思うが、新規販売よりも、スマートフォンへの機種変更が大幅に増加を見込めそうである。
	やや良くなる	一般小売店〔精肉〕（店長）	・まだ寒い日が続く、冬物衣料や食品などが売れていると思われる。
		百貨店（売場主任）	・まだ不透明なところもあるが、増税に対する先行購買傾向もみられるようになり、高額商品の販売手法によっては、市場拡大傾向が続くと思われる。
		スーパー（店長）	・競合店の状況を踏まえると、今以上に2～3か月後に関しては、上向きになってくるのではないかと考えている。
		コンビニ（経営者）	・ずっと喉にとげが突き刺さっていたような2号店の状況がクローズによって解消されるため、精神面も含めて現在よりは良くなるであろうと考えている。
		コンビニ（店舗管理）	・公共事業への投資も増え、富める者が富めば、貧しい者にも自然に富が浸透するというトリクルダウンが起き始めることを期待している。地方都市ではそれなりの波及効果が期待できると思われる。
		衣料品専門店（総括）	・必要の無い物はあまり購入しないが、新しく提案した物に関しては反応がある。
		家電量販店（店長）	・テレビの需要なども少しずつではあるが増えてきているので、売上で景気を測ると上向き傾向になる。
		乗用車販売店（経営者）	・既に主流になった小型化、低燃費など待望の新型車が発売されることもあり、新たな顧客層へ切り込むチャンスとねらいを定めている。
		乗用車販売店（役員）	・12月末に発表された新型車効果が出ている。販売の最重要時期であるため、積極的な施策を展開していく予定である。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・円安、株高に期待している。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・来年の消費税率引上げ前の1年前である今春から、先物買い需要が見込まれており、大型家具などの耐久消費財の売行きに期待がもたれる。
		一般レストラン（店長）	・株価、為替の好感で消費者心理が良くなることが想像できる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・大型の予約を含め予約状況は好調に推移すると思われる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・現在のやや悪くなっている状況からみると、販売チャネルを増やしたこともあるが、新規の宿泊予約を受注し始めている。価格や設備、料理に対する選択の目は引き続き厳しいと感じている。デフレ期間が長いので、簡単には、消費行動には結び付かない。円安による、輸出企業の宴会需要増は期待している。
		旅行代理店（従業員）	・自民党への政権移行を受けての体制に期待感がある。
		タクシー運転手	・客同士の会話で、これから景気回復が見込まれるという話をよく聞いている。
		通信会社（社員）	・中学を卒業する新高校生のスマートフォン需要が増えると思われる。
		通信会社（役員）	・消費税率引上げに向け、住宅の建築や購入ニーズの高まりから、家庭内情報インフラとしてのテレビやインターネット契約の高まりに期待している。
		テーマパーク（職員）	・個人の旅行の動きにまだ不透明感はあるものの、先行きの団体の予約が前年同月比でプラスになっており、全体としては、利用者数が前年同月比で増加する傾向がみられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		住宅販売会社（経営者）	・消費税率引上げ前の駆け込み需要が発生すると思われる。
		住宅販売会社（従業員）	・資材の一部が1割以上の値上がりを見せており、順次範囲は拡大することが予想される。受注が増えても伸び率に見合った完工利益は伴わないことが十分予想されるものの、一方では、受注面では商談件数も増えており成約も順調に推移すると思われる。
		住宅販売会社（従業員）	・景気が良くなるかどうか半信半疑だった人たちが、前向きに商談に乗ってきた。来年度からの減税や控除も明確になり、消費税率の引上げまで若干の契約増が見込まれる。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税率引上げの駆け込み需要が増えてくると考えられる。
		住宅販売会社（従業員）	・政権交代や消費税の駆け込み需要で、住宅業界はやや上向きになると思う。
		商店街（代表者）	・低価格、リーズナブルな物への変化が、固定化してしまっていて難しい時代である。
		商店街（代表者）	・円安や株高の影響はまだ直接感じないが、良い影響になるか悪い影響になるか、まだ想像できない。
		一般小売店〔事務用品〕（役員）	・2～4月は、業界的には需要期ではあるが、予算の執行や民間企業の設備投資が、政権が変わったとはいえ、まだそこまで考えられない部分もあるため、先行き不透明に考えている。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・現政権の経済対策の成果はまだ先のことのように、消費者はこの様子を静観し、しばらくはこの状態が続くように思われる。
		百貨店（営業担当）	・この2～3月の下旬にかけては、冬物の最終処分ということで、例年であると客の方から「まだこの値段が下がるのか」や「新しい買得品があるのか」という問い合わせが結構あるが、今年については、冬物のそういった客の期待感がほとんどない。また、春物の新しい商品の情報を必要としているかという、これもそのような声が聞かれぬというのが実態である。そのような意味で言うと、まだ購買意欲については、慎重であり、客自身のマインドがそれほど上がっていないという気がする。
		百貨店（営業担当）	・春になるにつれて、インテリア用品、生活雑貨、新生活応援グッズ及び新入生のそのような雑貨類などは良い動きがみられると思うが、それ以外の部門に関しては、今以上に景気が上向きになるほど良い動きが見られるかは、今の状況からはとても判断がしづらい。
		百貨店（売場担当）	・正月の営業日数が拡大したため、来客数は増加している。改装した売場を中心に、冬のバーゲンもスタートしたため、コートなど防寒衣料は前年を超えている。呉服、美術及び宝飾は伸び悩んでいるため、全体的には、前年同月比で来客数が102%であったが、総売上が99%であったため、今後も特に期待はできないと思われる。
		スーパー（店長）	・食品の場合、現在、青果物の高騰の影響も大きく、買物動向はより厳しくなっている。節分、バレンタインなどの催事企画の動きもあまり良くはない。今後も日々の食生活のより一層の節約志向が進むのではないかと予想される。
		スーパー（総務担当）	・株価が上昇しているが、小売業に好影響を与えるにはまだ時間が掛かる。
		スーパー（統括）	・この後、2～3月においても、良くなることが考えられない。また、当地においては、コンビニエンスストアの出店が加速し、毎月20～30店舗単位で出店してきている。こういった環境のなかでスーパーは逆であり、状況的には悪いまま変わらないように思う。
		スーパー（店舗管理）	・円安や株高での景気改善、減税、増税の報道はされているが、一般消費者には所得増加などの実態が無いため、明るい見通しはできない。
コンビニ（経営者）	・収納代行などの支払は増えているが、今まではその時についてに買っていたような客もそのみの支払で来店したり、本当に目的の物のみを購入することが多いように感じられる。また、オリジナル商品が増えている点もあり、若干単価の下落もみられる。		
衣料品専門店（経営者）	・まだまだ収入の増加などが見込めないため、消費マインドは好転していない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（経営者）	・民主党から自民党になったこと、円高から円安になっていること、株安から株高になっていることが、いろいろな層の人から歓迎されている。これだけ気分が緩んできたので、これからもっと口を開けさせるか、口を閉めさせてしまうか、興味深いように思っている。
		家電量販店（店長）	・来客数が前年同月比を超えるまでには時間が掛かりそうである。魅力がある商品や必要品が家電では生まれていない。
		家電量販店（管理本部）	・新しい商品やサービスの展開が見受けられない。
		乗用車販売店（経営者）	・相変わらず軽自動車や小型の車しか売れない状況が続いているので、景気は変わらないと思う。
		自動車備品販売店（従業員）	・新車需要、商品単価の下落を見ても明るい兆しは何もない。
		住関連専門店（店長）	・年配者はまだ余裕がある人はいるが、若い世代の物欲が無い限り、景気が今後上がってくるとは思えない。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・円安、株高のため、景気は少しは良くなる傾向にあるが、身の回りにまで回ってくるには、まだ1～2年掛かると思う。今は辛抱のしどころだと思っている。
		その他専門店〔医薬品〕（総務担当）	・メインの40歳代以上の客層の個人の所得は下がり傾向にあり、生活防衛のため不要不急の出費を抑えている。この傾向はずっと続いており当面はこのような状態で推移する。
		高級レストラン（スタッフ）	・個人顧客2万人へ春プランのダイレクトメールを発送し、送別会及び歓迎会の受注のために、過去4年間で利用のあった法人、病院及び学校へ訪問セールスを掛けているが、例年の受注ペースを超えるには至らないと思われる。
		スナック（経営者）	・全体のムード的には、株価などの上昇で株主を持っている方は気持ち的には豊かになるが、中小の経営者は給料などが上げられないといった話を耳にすると、やはり生活が厳しくなっていくのではないかと。
		観光型旅館（経営者）	・来月以降も集客に苦戦している。特に、関西方面からの集客が悪い。
		旅行代理店（従業員）	・相変わらず間際予約も少なく、また、新年度の団体旅行の企画依頼が伸びず、先行きが読めない状況である。
		タクシー運転手	・新政権の下、景気回復に向け、期待感が多いように思われる。景気回復には時間が掛かると思われ、しばらくは変わらないと思う。
		通信会社（職員）	・ある企業の株価下落に端を発し、タブレット市場も悪化することが懸念される。パソコン市場、タブレット市場ともに活性化しない限り景気が良くなると思えない。
		通信会社（営業担当）	・新機種の発売に伴って少し動きを見せたが、購買意欲に変化を感じることはない。
		通信会社（営業担当）	・今のところ上向き兆しはみられない。
		美容室（経営者）	・景気の底は脱した感はあるが、しばらくはこのまま推移するとの思いが一般的である。
	やや悪くなる	コンビニ（店長）	・良くなる要因が見当たらない。コンビニエンスストア業界自体が飽和してきた現在、新たな商品も無く、また、競合他社の減少があるわけでもない。当地においては、大手コンビニチェーン3社が陣地取りともいえるくらい既に必要なだけ店舗が存在する場所においても出店を続けている。ここ2～3か月先はやや悪くなるが、ここ数年後のことを考えると悪くなる一方だと感じている。完全に飽和しきった後、コンビニ店のつぶし合いがあり、残った所が落ち着くと思う。
		一般レストラン（スタッフ）	・車の取得税、重量税と消費税の二重課税の行方をみてから車を買換えようといった話題や、高齢者雇用の義務付けによる既存社員の給料、手当などの見直しで収入に対する不安の声を聞く。
		観光型旅館（スタッフ）	・予約状況も、1月は前年同月比で80%、2月は同85%、3月は同77%と北陸への観光が冷え込んでいると感じている。これから間際受けでどれだけ回復できるかが課題である。
		競輪場（職員）	・今月は開催日数が少ないうえ、グレードが比較的高いレースを発売しているため、1日当たりの売上、客数が増加傾向にあるが、3月からは開催日数及びグレードの低いレースの発売が増えるため、売上や来客数ともに減少すると思われる。
		その他レジャー施設（職員）	・会員数の減少による売上減少が続くなか、重油、ガソリン、電気料など燃料費が上がってきており、その他の経費上昇が心配である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	—	—
企業 動向 関連 (北陸)	良くなる	一般機械器具製造業 (総務担当)	・文部科学省の予算で大学や高専への新規設備が出ている。また円安のため、国内企業の設備投資が出てくると予想される。
	やや良くなる	繊維工業 (経営者)	・景気回復の期待に加え、円が安定すれば輸出関連で受注増が期待できる。
		繊維工業 (経営者)	・株高、円安が進んでいるため、期待感が非常に高い。したがって、仮需の動きが、2～3月からは物によりあるという状況になっている。
		金属製品製造業 (経営者)	・2～3か月先の分の受注の入り具合をみて、やや良くなると思った。
		精密機械器具製造業 (経営者)	・欧米向け製品の生産が円安の影響で若干展開しやすくなっていることと、新事業へ向けた製品の生産が本格化していくことが期待される。
		建設業 (経営者)	・政権が代わり、県や市でも公共事業が間違いなくこれまでより多く発注されると予想している。課題は工事をしっかり施工できるだけの建設業者の体制が整うかどうかである。悪くすると大混乱に陥ると思われる。
		通信業 (営業担当)	・自動車関係の製造現場でも以前は仕事が無く時間外も無かったが、最近では夜勤勤務に加え時間外もかなり出てきている模様である。
		金融業 (融資担当)	・円高が是正されてきたことで、製造業、特に、海外への輸出関連企業においては、いくばくかの改善が出てくるものと思われる。
		金融業 (融資担当)	・株価の好転及び円高の進行で、地元の自動車関連の外辺にある部品製造業などの業況好転が期待される。また、新政権による新年度予算執行の着実な実行により、末端まで資金が行き渡ることによって、先行きの好転が期待されるが、秋口の消費税論議がもう一度活発化した段階まで、引っ張っているかどうかは鍵だと思われる。
		不動産業 (経営者)	・同業者にも聞いているが、この先いろいろな話がきているなかで、動き出すという情報が多かった。また、一般個人の方、法人の方からも、少しずつ問い合わせがきているとのことであった。
		税理士 (所長)	・今現在は、新規の引き合い、いろいろなプロジェクトが動きつつあるというのが、客の様子からも分かる。それに加えて、設備投資の計画も出てきている。ただ年度替わりが近く、円のレートがまだ動いているため、大手の会社は社内レートを決めかねている状況だと思う。2～3か月先になると新年度であるため、動き始めて良くなるのではないかと思う。
変わらない	食料品製造業 (役員)	・業界において大きく影響を及ぼす販売価格、主原料については現状のまま推移する状況であり、大きく変化する状況ではない。	
	化学工業 (総務担当)	・受注量について、今後は現状で推移する予定である。	
	プラスチック製品製造業 (企画担当)	・3か月先では今の状況が変わらないと思っているが、6か月先から年末にかけては消費税率の引上げの影響も出て、特需が出るように思っているため、活発な住宅市場になると今は読んでいる。	
	一般機械器具製造業 (経理担当)	・株価、為替などは好転してきているが、实体经济にはもう少ししばらく時間が掛かる。	
	建設業 (総務担当)	・民間建築や官庁土木ともに工事発注案件が増加見込みにあるが、価格競争は改善されず、依然として厳しい状況が続くと予想される。	
	輸送業 (配車担当)	・燃料などのコストが、今後高止まりの状態の下がる見込みがない。	
	輸送業 (配車担当)	・輸送量は特に変わりがなく、今後増えていく兆候も今のところみられない。	
	司法書士	・依頼人と話をしていると、家計での節約志向や、企業間の価格競争などにより、「利益が出ない」や「厳しい」という話になる。	
	やや悪くなる	○	○
	悪くなる	—	—
雇用 関連	良くなる	新聞社 [求人広告] (担当者)	・円安の動きと株価高と公共事業の増加によって、製造業を中心に良くなってくると思われる。
	やや良くなる	人材派遣会社 (社員)	・新政権による景気刺激策への期待感が高まっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(北陸)	変わらない	民間職業紹介機関（経営者）	・次第に景気回復に向けての政策が打ち出されるようになってきたことや、円安傾向が企業の活性化に向かっていく。人材需要も広まると思われる。
		人材派遣会社（役員）	・新卒採用予定の企業は、1～2か月の努力をする構えである。派遣需要には結び付かない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・正社員雇用が増える要素が出てこない。
		職業安定所（職員）	・製造業から聞かれる先行きを不安視する声が消されないと求人状況は現状と変わらないと思われる。
		職業安定所（職員）	・事業所閉鎖や事業縮小により新規求職者は前年同月比で2か月連続増加したが微増であり、今月は再び減少に転じた。新規求人数は前年同月比で増加しているが業種によって増減があり、今後もこの傾向が続く。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・このところ、希望退職や企業整備などの人員整理が増加している。
	悪くなる	—	—

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (近畿)	良くなる	乗用車販売店（販売担当）	・政権が変わって、円安、株高傾向となり、客の動きや話の中に変化が見受けられる。
		通信会社（社員）	・卒業、入学、新生活シーズンとなり、年間を通して最需要期となることから、例年どおり推移すると販売台数の増加が見込まれる。
		通信会社（企画担当）	・円安や株高など、良い方向へ進んでいる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・雑貨の品ぞろえの強化により、新たな客が増えている。
		一般小売店〔自転車〕（店長）	・何もかも値段が上がり、販売価格も値上がりしているが、アベノミクスに期待をかけている。
		百貨店（売場主任）	・株価の上昇により、客からは前向きな声が聞かれる。
		百貨店（企画担当）	・現状の商品の動きは、クリアランスセールを含めて不振が続いているが、政権交代後は株価の動きなど上向きのニュースが多く、期待している。
		百貨店（営業担当）	・婦人服の高額品が動き出し、次にヤング層につながっていくことが期待される。紳士関連はまだ厳しい。
		百貨店（営業担当）	・円安で海外のブランド品が今後値上がりすることを見越して、高額品を中心に引き合いが増えてくる。
		百貨店（サービス担当）	・来月以降はバレンタインデーやホワイトデー商戦、期末決算セールと、前年の催事と変わらないが、政権交代による株価の上昇や円安の影響など明るい話題が多く、やや景気が良くなる雰囲気があるため、購買意欲が上昇することを期待する。
		百貨店（外商担当）	・円安、株高傾向が顕著になり、消費者マインドもかなり上昇している。今後はぜひたく品についても、購買意欲が出てくる。
		百貨店（店長）	・日本の経済状況が、新政権になりやや落ち着きを取り戻してきたほか、当店においても新機軸での営業政策（大型雑貨店の誘致・導入）を行うことにより、集客が見込める。
		百貨店（マネージャー）	・今までどん底に冷え込んでいた消費マインドについても、遅々とした動きではあるが回復傾向にある。特に、来客数が前年比プラスで推移していることから、決して消費者の足が遠のいているわけではない。この消費者の足をいかに実売につなげていくかが勝負であり、今後明暗が分かれてくる。
		百貨店（商品担当）	・株価の上昇期待から、定価品、特価品にかかわらず高級品に動きがある。今まで前年割れが多かった店も、売上がほぼ前年並みで推移している。
		スーパー（店長）	・新政権の施策への期待感がある間は上向く。
		スーパー（店長）	・実際のところは天候や気温の変化次第であるが、景況感の上昇に期待したい。
スーパー（店長）	・依然厳しい状況にあるが、政権交代に伴う円安基調を含む動きが消費者にとって良い方向に進めば、景気回復の兆しが出てくる。		
スーパー（社員）	・食料品を中心に堅調に推移している現状に加えて、厳しかった前年の消費不振の反動や、昨年末からの株価上昇など、景気回復への期待感が広がっており、これが今後の消費拡大を後押しすると期待している。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・新製品に対する反応が良くなる傾向はまだ続きそうで、販売量、客単価共に上昇が期待できる。
		衣料品専門店（店長）	・客の反応をみている限りでは、首相の発言による期待感が非常に大きい。すぐには結果が出ないだろうが、少しずつ明るい話題が増えていることを実感している。
		衣料品専門店（販売担当）	・暖かくなってくるので、少しは来客数が増える。
		家電量販店（店員）	・政権が変わったことへの期待がある。
		家電量販店（管理担当）	・消費税増税前の駆け込み需要が出てくる。
		家電量販店（企画担当）	・政府の明確な物価目標の設定により、景気は上昇する。
		乗用車販売店（経営者）	・新型車が出たところなので、そのお陰で来場者も増加し、販売量も確保できている。
		乗用車販売店（経営者）	・政権交代してから、株価は上がり、円安に動いている。将来への安心感から、消費が刺激され、小売業や自動車、家電販売などが良い方向に動く。
		乗用車販売店（経営者）	・まだ数字としては出ていないが、来場者が増えたことや、客の会話の内容も良くなっているため、今後期待している。
		乗用車販売店（販売担当）	・政権も代わり、景気対策への期待感が大きい。
		住関連専門店（店長）	・政情が安定すれば消費者の安心感が生まれて、必需品以外の嗜好品にも目を向けてもらえる。その傾向をこれまでも実感しており、今月もその雰囲気を感じている。
		住関連専門店（店員）	・新生活需要が見込まれる。
		その他専門店〔宝石〕（経営者）	・新政権の打ち出した政策が少しずつ実を結び、すべての状況が変化すれば、今よりも良くなる。
		高級レストラン（スタッフ）	・3～4月の打ち上げや送別会の時期には、例年忙しくなる。
		高級レストラン（支配人）	・観光シーズンを迎えての季節変動に期待するだけである。
		一般レストラン（経営者）	・企業の決算や人事異動が多い時期になるので、使いやすいセットメニューを用意して新規顧客をつかんでいきたい。
		一般レストラン（経営者）	・市の配布する広告に載せてもらうことになり、街歩きのバルにも参加することが決まり、店の宣伝になるため、来客数は増える。
		一般レストラン（店員）	・商品の販売促進もコンスタントに行っており、不評も聞かれないため、来客は期待できる。ただし、近隣には7月にショッピングモールができるため、その影響は受けそうである。
		一般レストラン（経理担当）	・今後の政策推進への期待感で、海外の投資家も好反応を示している。
		観光型ホテル（経営者）	・寒さが緩んできて外出の機会が多くなるため、今よりも良くなる。
		観光型ホテル（経営者）	・総選挙が終わって新内閣が誕生し、経済政策によって全般的に明るさが出てくる動きになっている。とにかく現時点では最悪の状態であるが、少なくとも現状よりも良くなるという大きな期待を持っている。
		都市型ホテル（支配人）	・今のような円安、株高の状況が続けば景気は良くなる。ただし、個人所得の増加はもう少し先（6か月後）になる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宴会については、製菓や建設関係の企業からの受注が好調で、前年を上回る予約率となり、単価も上昇傾向である。レストラン部門はランチ営業の伸び悩みはあるが、季節商品をはじめ、気軽に利用してもらえるプランや宴会の2次会プランで夜の利用率が上がっている。宿泊は高単価の客が戻ってきたほか、インターネット予約の料金をコントロールしていることもあり、順調に販売できている。
		都市型ホテル（客室担当）	・新政権となり、市場では円安、株高が予想以上に進んでいる。昨年訪日外国人が過去2番目の多さとの発表もあり、今後追い風になる。
		都市型ホテル（総務担当）	・新政権による景気刺激策に期待している。
		旅行代理店（経営者）	・予約件数が伸びているわけではないが、海外旅行の高額商品の申込が増加している。高所得層への株高の影響は大きい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手	・新政権の誕生によるリセット効果か、客の乗車機会が増加し、日々の営業収入が例年よりも確実に増加している。
		タクシー運転手	・金融緩和や公共事業などで、多少は景気が回復する見込みである。
		通信会社（経営者）	・政府の景気対策や、円安の影響が出てくる。
		通信会社（社員）	・例年、春先は転居などのためブロードバンドの需要が増加する。今年は少し景気が上向いてきているので、期待していきたい。
		テーマパーク（職員）	・政権交代により、何とか現場の閉そく感を打ち破ってほしい。デフレの脱却と、特に低所得層の賃金水準の向上は同時に行わなければならない、難しいかじ取りであるが、とにかく成し遂げてもらいたい。
		観光名所（経理担当）	・1月は昨年に比べて、元旦から月半ば近くまで雪がなく、売上、来客数共に好調であったが、それ以降は土日も含めて雪の予報が多い。数年前の当県北部の豪雪地区を含めた市町村合併により、客足が遠のいてしまっている。当然、体験教室などの予約のキャンセルも相次ぎ、困惑している。ただし、月前半の好調で前期並みの数字は上げられそうなので、客から受ける雰囲気からは、幾分は上向きな感じがする。
		観光名所（経理担当）	・3か月後に施設観覧スペースを拡充し、リニューアルオープンする予定である。その告知のため、テレビCMや車内広告などでの露出を増やし、客を呼び込む。
		その他レジャー施設 〔球場〕（経理担当）	・プロ野球が開幕して、4月には公式戦があり、ほかにも人気グループなどのコンサートが開催されるので、多数の来場者数を見込んでいる。
		その他サービス〔保険 代理店〕（経営者）	・いったん3月決算で株価、為替が少し元に戻る可能性はあるが、しばらくは良い方向で進む。悲観的に活動、報道するのではなく、国を挙げて前向きに活動していけば必ず好転するし、好転させなければいけない。
		その他サービス〔マッ サージ〕（スタッフ）	・毎年寒い時期になると来客数は減るが、暖かくなってくると増加する。
		その他サービス〔生命 保険〕（営業担当）	・景気の先行きに対する期待感が高まっているため、生命保険の加入を検討する客が増える。
		住宅販売会社（経営 者）	・新政権による具体的なデフレ脱却政策が効果を発揮することを願うばかりである。
		住宅販売会社（経営 者）	・政権交代後の期待感がある。紙幣を大量に印刷してデフレを脱却するには大きな不安感もあるが、身動きできなかったころに比べると、少なくとも短期的には良い結果となる。
		住宅販売会社（従業 員）	・新政権の政策運営への期待感から、短期的には良くなる。
		住宅販売会社（総務担 当）	・段階的な消費税増税のため、大きな駆け込み需要はなく、その反動も少ない。
		その他住宅〔展示場〕 （従業員）	・消費税増税の懸念から、需要の前倒しで住宅展示場の来場客が急増している。
その他住宅〔情報誌〕 （編集者）	・円安、株高による企業業績の改善により、消費マインドは上昇傾向を示す。マンション購入の検討者についても、消費税増税前の検討が今後増加する。		
変わらない		商店街（代表者）	・毎年この時期は売上が悪くなるため、売上の低下を抑えることが課題である。
		一般小売店〔時計〕 （経営者）	・平均年齢が比較的高い店のため、少し姿がみえなければ、亡くなったり、入院といったマイナスの話がよく聞かれる。長い付き合いの客が少しずつ減っていく一方、その分新しい客が増えるとは考えられないため、先行きが不安定であり厳しい。
		一般小売店〔花〕（経 営者）	・株価上昇などの明るい兆しは多少あるが、一般に浸透してくるにはまだ時間がかかる。
		一般小売店〔精肉〕 （管理担当）	・2%の物価上昇は少し目標が高すぎて、どこかであきらめ感が出るのではないか。国全体で何とかしようという雰囲気は感じるが、実態の底上げは難しい。
		一般小売店〔鮮魚〕 （営業担当）	・好転する材料が見当たらない。
		一般小売店〔衣服〕 （経営者）	・今後も今の状態が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔衣服〕 (経営者)	・本格的な春が来るまでは、衣料品の動きは悪いと思われる。ただし、最近の消費者の様子や周囲の雰囲気を見ると、数か月前とは違って暗さが少なくなっている。政権が代わり、経済政策もまだ楽観視できないとはいえ、感覚的には希望を持っている。数か月先にはまだ難しいかもしれないが、もうしばらく我慢すれば、景気が上向いているという実感が得られると期待している。
		一般小売店〔野菜〕 (店長)	・新政権になり、確かに変わりかけているが、末端にまで影響が及ぶにはまだまだ時間がかかる。
		一般小売店〔雑貨〕 (店長)	・相変わらず低空飛行を続けている。過疎化ではないが、自分が年を取っていくと共に客の年齢も上がり、亡くなる方も出てくるので、客の数そのものが減っている。健康志向もますます強まってくるので、売上の伸びる要素が見当たらない状態である。
		一般小売店〔菓子〕 (営業担当)	・今後2、3か月先も景気回復は期待薄である。政権が代わり、少しでも景気回復を期待したいものである。
		百貨店(売場主任)	・現状のなかでは大きく下がることはないが、上がることも非常に考えにくい。ため、昨年の動きをベースとして推移していく。
		百貨店(売場主任)	・円安が企業業績に好影響を与える反面、食料品やガソリン価格、電気料金などの上昇による悪影響が懸念される。個人所得の増加は現状では期待できないことから、消費マインドの高まりは期待できない。
		百貨店(売場主任)	・新政権による経済対策が景気回復につながる期待はあるものの、所得が増え、消費に結びつくまでには時間がかかると思われる。春には大阪地区にまた新たな商業施設が誕生し、流通業界の競争は激化する一方である。新たな顧客を獲得できない限り、景気の好転は難しい。
		百貨店(売場主任)	・円安、株高などの効果は一般消費者には無縁であり、増税に対する意識が消費マインドを更に悪化させる可能性がある。
		百貨店(企画担当)	・株価の回復など、プラスの要素がある一方、ガソリン価格の高騰に加え、消費税の増税などのマイナス要素も多く、積極的な消費拡大は期待できない。
		百貨店(販促担当)	・政策によって市場環境は変化し始めているものの、客はまだ半信半疑であるため、守りの姿勢はしばらく続くと思える。一方、消費増税や株高により、高額品の動きには少し明るい兆しが出てくる。
		百貨店(外商担当)	・一部の大企業、富裕層は景気の恩恵を受けるが、中小企業が好調になることはなく、一般消費者の給与も上がらない。
		百貨店(商品担当)	・日本銀行を絡めたインフレ誘導、消費税増税と、当面は家計の支出増が先行する一方、収入面の見通しが不透明なため、活発な消費行動にはつながりにくい。
		スーパー(経営者)	・競合店の数が多いので、客がいろいろな店を回り、当店だけで買物することはしばらくない。
		スーパー(経営者)	・政府から景気対策は打ち出されているが、現状では給料の上がる気配はない。給料が上がると、消費の動きに反映されるのは、まだまだ先になる。
		スーパー(経営者)	・円安の影響が現在は表れていないが、2、3か月後には原材料高による値上げ圧力など、製造側からの要請は強くなると思える。ただし、店頭でのデフレ状況はすぐには変わらないため、小売店同士の厳しい消耗戦が続く。
		スーパー(店長)	・三本の矢でも、多くの企業のデフレ予想は変わらない。円安も燃料の輸入が増えればコスト増となり、消費税も上がれば負担増となるなかで、価格を上げないということは賃金でコストを抑制するしかない。物価だけが上昇し、収入が増えないということは、生活水準の低下を招く。
		スーパー(店長)	・新しい局面を迎えることで、期待を持ちたいという気持ちは強いものの、不確定要素が多すぎて、まだしばらく楽観的な展望を持っていないのが正直なところである。
		スーパー(経理担当)	・アベノミクスは期待先行気味で、实体经济にいつ影響が出るかは不透明である。消費増税の時期が近づくとつれて、節約志向が高まる懸念の方が強い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（販売担当）	・客の買物の仕方をみていると、広告に価格を出した商品などには朝から行列を作っても買う意識がみられるが、それを買うと、ほかの物は買わずに帰ってしまう。また、ポイント何倍、カードサービスデーなどの特典がある日を、うまく使い分けている。
		スーパー（開発担当）	・電気代やガソリン、灯油などが値上がりし、株価も上がっている。デフレからの脱却策の影響かもしれないが、賃金が上がらない今、景気は決して良くならない。
		スーパー（企画）	・円安や株高、公共投資など、先行きの経済活動は上向くと思われるが、4月からの電気料金の値上げや来年の消費税増税問題による消費の後退のほか、賃金上昇は来年以降とみられることから、小売を取り巻く環境の改善は来年以降になる。
		コンビニ（経営者）	・今建設中のマンションが完成時期になってくる。
		コンビニ（店員）	・現状よりも回復する見込みは薄く、しばらくはこのままの状態が続く。
		コンビニ（広告担当）	・低調なトレンドに大きな変化はない。アベノミクスの影響も消費者の心理や行動が変わるまでには時間がかかる。
		衣料品専門店（営業・販売担当）	・客が新しいスーツを作ろうという気持ちにならない。
		衣料品専門店（販売担当）	・買い控えはあるが、それほどでもない。今後の世の中がどうなるかを客はシビアにみている。
		乗用車販売店（経営者）	・新車の販売、車検の入庫予約など、すべてが全体的に減ってきている。
		乗用車販売店（営業担当）	・政権が代わり、景気の底上げを期待しているが、自動車取得税の廃止によって恩恵を受ける車種は、元々免税であるハイブリッド車などのエコカー以外となる。現在の消費トレンドに合った車種ではなく、影響は大きくない。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・天候次第である。
		その他専門店〔スポーツ用品〕（経理担当）	・デフレの解消感はない。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・状況を悲観してか、他社では社員の商品横領や行方不明といったトラブルが発生している。
		一般レストラン（スタッフ）	・新政権となったが、まだ景気の上昇には結びつかない状況であり、しばらくは現在の状態が続く。
		スナック（経営者）	・客1人当たりの価格を下げたことにより、売上は下がっているが、店としての活気が出て、先につながるのではないかと期待している。
		その他飲食〔コーヒーショップ〕（店長）	・景気回復を期待したいが、消費を下支えする給与水準の変化は当面期待できない。
		観光型ホテル（経営者）	・当観光地や県では、今年は目立ったイベントや話題もなく、地域での誘客、販促ツールが特にない。景気全体が上向いてくれることが頼りであるが、急激な上向きは期待できないため、まだしばらくは厳しい状況が続く。
		観光型旅館（経営者）	・このところは徐々にガソリン、灯油が値上がりして、家計への圧迫感がある。さらに、公務員の給与や退職金の減額などが景気の動向に影響するのではないかと懸念される。
		観光型旅館（団体役員）	・一部ではあるが、売上、収益の減少など、景況の変化を見込む傾向にある。
		都市型ホテル（スタッフ）	・新政権から景気対策が矢継ぎ早に出され、円安傾向が続いているが、顧客からは持続するかを見極めるとの声が多いほか、反動への不安も強い。春休みに向けて客が動く時期ではあるが、前年よりも予約ペースが遅く、結局は価格競争が続くものと思われる。
		都市型ホテル（マネージャー）	・宿泊部門は、やや円安に振れていることもあり、訪日外国人は増加が予想される。宴会、レストラン部門は前年並みで推移する予想であるが、株価上昇も含め、期待感は大い。
		旅行代理店（広報担当）	・政権交代による景気の上向き感という印象のなかで、徐々に現実がみえてくるのが、新年度ぐらいであるという客が多い。
		タクシー運転手	・良くなるという気配がある。
		タクシー運転手	・とても寒い日が続いているので、今まで歩いていた人がタクシーに乗るなど、多少の回転はあるが、夜遅くの人出が少ないので、全体的には変わらない。
		通信会社（企画担当）	・大きく前進する要素は見当たらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
		競輪場（職員）	・例年の傾向からみると、やや悪くなる。政権交代から市況の上昇や円安など、アベノミクスの期待が作用しているのか上向きであるが、今の状況が続くとは思えない。		
		競艇場（職員）	・今月と2～3か月先の購買単価は、同じ水準で推移する。		
		その他レジャー施設 〔イベントホール〕 （職員）	・新政権が2%の物価目標、消費税増税に関する負担軽減措置を打ち出しているが、効果が出るのはまだまだ先のように思われる。貿易赤字、円安などの経済面の課題が多すぎるため、生活面にまで手が回るのかどうか疑問である。		
		その他レジャー施設 〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・新政権の景気対策がレジャー業界に波及するには時間がかかる。また、円安や原油高による燃料価格の上昇が懸念される。		
		美容室（経営者）	・1月は正月キャンペーンで客単価は下がったが、来客数が増えた分、売上は少し増加している。ただし、2月以降はまた何かキャンペーンをしない限り、増加は見込めない。特に、寒さが収まらない限り、年配客の来店は望めない。		
		美容室（店長）	・今月は在庫がたまっていたため、それを消化するために福袋の販売を行い売上が伸びたが、一過性の動きであり、来月以降は元に戻る。		
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・2月に無料体験キャンペーンを行うため、その結果次第で生徒数に変化が出る。		
		その他サービス〔ビデオ・CDレンタル〕（エリア担当）	・レンタル、書籍などは少しずつ改善の傾向がみられるものの、CD販売などは予断を許さない状況が続いている。		
		住宅販売会社（従業員）	・マンションの販売状況は引き続き好調に推移すると思われるが、インフレ懸念により土地価格や建築費が高騰し始めており、事業用地の取得に関しては非常に厳しくなっている。		
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・不動産、建築業界は少し景気が良くなるかもしれないが、3月以降は倒産が増加するほか、雇用の回復も進んでいないため、景気回復にはまだまだ時間がかかる。		
		やや悪くなる		商店街（代表者）	・地域内競争の激化で、大変厳しい状況が続く。
				一般小売店〔珈琲〕（経営者）	・為替、株価は動いているが、消費につながっていくかは不透明で、良くなるとは思えない。
				スーパー（企画担当）	・2%の物価目標導入によるデフレ対策は、賃金上昇が望めない以上、価格競争に拍車をかけることになるため、小売業としては決して楽観できない。
				コンビニ（店長）	・たばこの販売減は収まる気配がなく、それに代わる商材はなかなか見当たらない。今後、コーヒー（ドリップ）のサービスが始まるが、まだ少し先になる予定である。
コンビニ（店員）	・近くにできたコンビニの影響で、来客数が減り、客単価も下がっていく。				
衣料品専門店（経営者）	・新政権の誕生で気分的に買う気分は高まっているものの、円安のデメリットが先に来るため、消費が伸び悩む。事実、ガソリン価格がじりじりと上がっている。				
衣料品専門店（経営者）	・3か月後はセールが終わり定価販売の時期になるので、よほどの好材料がない限り、現状よりも落ち込む。				
乗用車販売店（営業担当）	・車の販売がかなり低迷しており、安くしないと売れない感がある。修理は乗換えサイクルが長くなっているので増えているが、こんな部分が壊れるはずがないなど、意味の分からないクレームがくることもある。1件の単価は下がっているが、数は増えている。				
その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・来客数が少ない状況は続いており、今後も売上が増えることはない。				
悪くなる	一般小売店〔花〕（店長）			・消費税の増税や原油の高騰などで、今後も景気はますます後退する。	
企業動向関連 (近畿)	良くなる	木材木製品製造業（経営者）	・新規事業の成果が出てくることで、売上、利益は増収増益が見込める。		
	やや良くなる	食料品製造業（営業担当）	・近々、物価が2%上昇するといわれており、物価が上昇する前に住宅、自動車、食品の売上が一時上昇する。春先になり気温も上昇するため、売上也伸びる。		
		家具及び木材木製品製造業（営業担当）	・材木の配達量が増えてきている。		
		出版・印刷・同関連産業（情報企画担当）	・季節的な要素が大きい入学シーズンが始まり、大学、専門学校では忙しい時期になっている。その一方、長期的な展望がまだみえず、所得の増大が期待できない現在、消費マインドは高まってこない。安定している医療業界では新しい動きが出てきているため、これからも期待が持てる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		化学工業（経営者）	・細かな物も含めて、問い合わせ物件が増えてきており、景気が良くなる期待が持てる。	
		化学工業（管理担当）	・アベノミクスによる株高や円安がしばらく続く。	
		プラスチック製品製造業（経営者）	・現在の仕事の動き（量、スピード）をみると、回復の兆しが出てきている感がある。見積の成約率が上がっていることも、評価の対象としている。	
		金属製品製造業（経営者）	・政府のデフレ対策などが具体化してきているので、市場が動き出すことに大きな期待感がある。	
		金属製品製造業（営業担当）	・住宅関連の取引先向けの出荷が安定しているのに加えて、一般建築向けの出荷も動きが出つつある。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・円安や株高で雰囲気は良く、景況感も良くなっているため、先行きに期待している。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・当社の取引先は海外にシフトしているため、短期的には今の円安が収入の面ではありがたい。これからドル建て価格を下げるができるため、2か月先は良くなるが、5年後は分からない。しばらくは政治から目が離せないが、公共投資の大幅な増加はいつか来た道であり、先行きが懸念される。	
		電気機械器具製造業（企画担当）	・戸建住宅やマンションの建設に勢いがみられ、年度末に向けては、既存物件の省エネ工事もあり、受注増を想定している。	
		電気機械器具製造業（企画担当）	・株価上昇や円安など、良くなりそうな感覚は出てきている。	
		電気機械器具製造業（経理担当）	・季節的要因から考えると、良くなることが見込まれる。ただし、根本的な景気改善が実現しているような感覚ではない。	
		その他製造業〔履物〕（団体職員）	・新政権の誕生後に金融緩和と政策が発表され、円安、株高に振れた効果が今後出てくることを期待する。	
		建設業（経営者）	・4月まではこの状況が続くと思われる。特に太陽光発電事業は、今年一杯は伸びると予想している。	
		建設業（経営者）	・消費増税に向けて、積極的な景気刺激策が次々と出てきそうなので、営業もしやすく、個人、企業共に重い腰が上がるのではないかと期待している。	
		通信業（管理担当）	・アベノミクス効果で、更に良くなる。	
		金融業（営業担当）	・新政権になり期待感も大きい。今後も景気回復への期待から徐々に良くなる。	
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・集金や契約継続などで読者と接していても、昨年までは後ろ向きの会話ばかりで、向上する気配すら感じなかったが、1月は景況感の改善からか、読者の気持ちも上向いているように感じる。事実、経済的な理由での購読中止が今月はなくならない。	
		広告代理店（営業担当）	・広告依頼の問い合わせは増えてきている。	
		広告代理店（営業担当）	・気温が上がってくれば、春物が動くほか、外出も増えてくる。	
		コピーサービス業（店長）	・季節的な特需を期待できない時期ではあるが、来店客へのヒアリングなどを分析すると、今後も店舗やサービスの認知が進み、右肩上がり推移する。	
		その他非製造業〔民間放送〕（従業員）	・一本調子の株価上昇局面が終わった後、改めて業績向上が鮮明になる。	
		変わらない	食料品製造業（経理担当）	・円安や株高の動きが激しいが、一般に景気回復が浸透してくるまでには少し時間がかかる。
			繊維工業（団体職員）	・国内景気の動向に左右されるので、早期の回復を願っている。
			繊維工業（総務担当）	・物価の上昇が所得の増加へとつながる予測が立たず、さらに消費へつながるまでのコスト増をうまく吸収できるかが不安である。
			パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・顧客と仕入先の様子にかなりの格差がある。全体的には変わらないように感じる。
			化学工業（企画担当）	・年末年始の需要期も終盤を迎えて、販売量が落ち着いている。販売量の増加につながるような要因が見当たらない。
			窯業・土石製品製造業（経営者）	・先日の業界の賀詞交換会では、政権交代したことで、1年前とは違って何となく明るい雰囲気であった。ムードだけではなく、確実に政策が実行されれば、今年の後半には期待が持てる。
一般機械器具製造業（設計担当）	・株価などは上昇するかもしれないが、一般的に景気の上昇はまだ先になりそうである。			

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業 (営業担当)	・景気が上向きになるのは、夏ごろから先になる。
		電気機械器具製造業 (宣伝担当)	・現状、縮小している市場でのシェアの奪い合いとなっている。市場自体が拡大するには、根本的な景気回復による全体的な消費増加が必要であるが、それはまだまだ難しい。
		輸送用機械器具製造業 (経理担当)	・アベノミクスが最終的に経済にどのような影響を及ぼすかによって、今後の景気は左右されるが、当面急激な改善は期待できない。
		その他製造業〔事務用品〕 (営業担当)	・新学期、入学の時期となるが、例年よりも受注量が減少している。
		建設業 (経営者)	・東日本大震災の本格復興が始まれば、職人や建設資材の不足や価格の高騰が予想される。厳しい価格競争のなか、工事の受注がより困難になる。
		輸送業 (営業所長)	・年度末で荷動きは良くなるだろうが、近年はトラックの確保が難しい。
		輸送業 (営業担当)	・中小の工場では、円安による輸出増で好景気とはなりにくい。逆に荷物が減っている工場が目立っており、不況感がある。
		不動産業 (営業担当)	・円高が一服したことにより景気のマインドが少し良くなっている。その効果は3か月後にはより一層出てくると思われるが、景気の上昇とまではいかず、横ばいが続く。
		司法書士	・現在のところ、気持ちは前向きになっているが、設備投資をしたり、事業を拡大するには時間がかかる。景気回復の期待感が高まっていると思われるが、短期間では変化はない。
		経営コンサルタント	・電機業界での仕事は、各社の苦戦により、しばらくは変わらない。
		その他サービス〔自動車修理〕 (経営者)	・政権が変わって、これから動きが出てくる。
		その他サービス業〔店舗開発〕 (従業員)	・2%の物価目標の導入が発表されたが、所得が増える可能性は低く、単に物価が上がるだけでは経済の回復が期待できない。ただし、何も手を打たないよりも、少しの望みを託して、今後の政府、日本銀行の動きを注視したい。
		その他非製造業〔機械器具卸〕 (経営者)	・実際のところまだ実感がないので、変化はない。
		やや悪くなる	
繊維工業 (総務担当)	・政権交代により中長期的には景気が良くなり、消費者の可処分所得の増加を期待しているが、短期的には消費税の増税といったマイナス要素の方が強く、景気が悪化する。		
一般機械器具製造業 (経営者)	・顧客の企業再編が落ち着かなければ、新規投資計画も定まらないため、ここしばらくは当社を取り巻く景況は停滞する。		
電気機械器具製造業 (営業担当)	・4、5月分の受注が少なく、新規の案件がない。		
輸送業 (商品管理担当)	・毎年2、3月は集荷の荷物が少なくなる傾向にある。		
輸送業 (営業担当)	・商品がマンネリ化しており、売上が落ちてきている。		
広告代理店 (営業担当)	・年度末の広告出稿の動きが今年は振るわない。		
悪くなる	—		
雇用関連 (近畿)	良くなる	人材派遣会社 (支店長)	・新政権に代わり、公共事業関連を中心とした受注が増えてくる。
	やや良くなる	人材派遣会社 (経営者)	・年度末を迎え、各分野でかなり忙しくなっている。先行きは新政権になって景気が良くなる期待で、派遣から正社員に切替える動きがみられるため、4月以降もかなり忙しくなるという期待が持てる。
		人材派遣会社 (営業担当)	・アベノミクスに対する経済界の期待で、円安、株高となっている。
		人材派遣会社 (支店長)	・求人数、求職者数共に増加している。
		新聞社〔求人広告〕 (営業担当)	・政権が変わり、期待感も含めて多少良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕 (営業担当)	・硬直した経済状況から、新しい可能性が出てきてほしいという期待感は大い。企業対策や、人材の交流が活発化することを期待する。
		新聞社〔求人広告〕 (管理担当)	・本格的に上向くか否かは、今後の政権運営で実績を上げられるかどうかにかかっていると思うが、求人広告に関しては、ここ数か月安定的に増加しており、少なくとも2、3か月の短期では良くなる。
		新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・新政権への期待感からか、株価、為替が上がっている。税制改正大綱も発表されたが、まだ実感はない。
		職業安定所(職員)	・円安傾向により、製造業を中心とした求人の増加が期待されるが、海外経済の減速長期化などによる影響が懸念される。
		民間職業紹介機関(大学担当)	・経済環境の改善による企業の回復傾向は、先の雇用を生み出す可能性が高い。
		学校〔大学〕(就職担当)	・円安基調が続き、日本企業の動きが活発化する。
		学校〔大学〕(就職担当)	・求人への依頼に来る方々も、心なしか明るい感じがある。
		学校〔大学〕(就職担当)	・2014年3月の卒業見込み者(現3年生)に対する求人数が、昨年よりも増えている。
	変わらない	人材派遣会社(役員)	・3月の年度末に向け、例年どおりの受注は期待できるものの、相変わらず売手市場の状況が続くことが予想される。その結果、直接的に売上増には結びつかない。
		職業安定所(職員)	・円安傾向にあるが、企業業績が好転するまでには至っていないこともあり、先行きが不透明である。
		職業安定所(職員)	・当県は大規模な企業がないほか、下請企業が多く、なかなか仕事が回ってこないため、景気は低調な傾向が続いている。
		職業安定所(職員)	・新規求人の状況には陰りがみえていたものの、1月に入ってから円安や株価の上昇、新政権への期待感が好影響を与えているのか、求人の状況はやや持ち直している。製造業においては、受注状況が芳しくないという声が多く聞かれる一方、明るい兆しがあるという声もある。ただし、周辺では雇用調整や倒産の情報も少なからずあり、景気が好転する感触はあるものの、状況を注視する必要がある。
		職業安定所(職員)	・政府は13年度の政府予算案を閣議決定したが、この予算は雇用面に効果があるかどうか不透明である。
		民間職業紹介機関(職員)	・新規マンションの建設などが目立ち、日雇い求人(建設部門が大半)はまだ増える余地はあるが、労働者の高齢化や人手不足が足かせになっている。
民間職業紹介機関(支社長)		・製造業においては円安の追い風を期待したいが、採用計画を上方修正するほどの影響はない。	
民間職業紹介機関(営業担当)	・しばらくは好転する兆しがない。		
	やや悪くなる	—	—
	悪くなる	—	—

8. 中国(地域別調査機関：(社)中国地方総合研究センター)

(—：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	通信会社(営業担当)	・携帯業界最大の需要期が3～4月中旬であり、新生活を迎える高校生・大学生・中学生及び家族が新規契約・機種変更により専門店・量販店に来店してにぎわいを見せる。また、今話題の商品を揃えている。
(中国)	やや良くなる	商店街(代表者)	・工事が3月には終了するので、通行人が増え売上の増加が今よりも期待できる。
		商店街(代表者)	・政府の補正予算等による景気刺激策が多少の効果を生み、しばらく景気動向は良い方向に向く。
		百貨店(営業担当)	・先月、今月と少しではあるが前年を上回っており、傾向としては少し明るい。
		百貨店(営業担当)	・ひろしま菓子博2013開催により、エリアへの流入客増加が期待できる。
		百貨店(売場担当)	・公共事業などは活発化するはずで、全体としては一時的ではあるが、じりじりと景気回復へ向かう。
		コンビニ(エリア担当)	・社会全体に景気回復の風が吹き始めれば、徐々に上向きになる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当）	・必要な商品は高くても買う傾向が続く。
		コンビニ（地域ブロック長）	・公共事業の投入で雇用創出効果が期待できる。
		衣料品専門店（経営者）	・政府の政策に期待している。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	・政治の影響で株価が上がり、少し明るい見通しである。
		家電量販店（店長）	・携帯電話の新製品が出るので買換え需要に期待できる。新生活が始まる時期でもあり来客数は増加する。
		乗用車販売店（店長）	・初売りから来客数も多く、販売計画も順調に推移している。
		乗用車販売店（業務担当）	・1～3月の大幅増販月でしばらくは好調が続く。
		乗用車販売店（副店長）	・決算商戦を迎えるため順調に推移する。
		自動車備品販売店（経営者）	・円安になり株価も上がり、実際はさほど庶民には関係のないにまわりの気分やマスコミの報道ですでに景気が良いと勘違いを始めている。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	・良くならないと経営が成り立たない。増税前の消費を期待したい。
		その他専門店〔ファッション雑貨〕（従業員）	・卒入学シーズンになり販売量は増加する。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（支配人）	・入園・入学、新学期、新生活等といった季節の変化に対して、スーツやランドセル、机、贈答品等、多少の先行きの明るさから買上単価の上昇が期待できる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（運営担当）	・景気マインドの改善により個人消費の復調が期待できる。
		一般レストラン（経営者）	・現在の経済政策が少しずつ効果を発揮する。
		一般レストラン（外食事業担当）	・卒入学、就職、転勤のシーズンとなり、外食に遣う金額も増えることを期待する。
		スナック（経営者）	・新政府の経済政策が少しは期待できる。
		その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕（支配人）	・例年の傾向として客の動きが極端に落ちた後は盛り返すことが多くみられる。特に天候による落ち込みであれば春になると客の動きは良くなる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・現在はオフシーズンであるため販売数、来客数ともに伸びてないが、2～3か月後は今より上昇する。
		観光型ホテル（支配人）	・3月までは現段階で既に前年を上回る入込があり、3月以降もプラス要因こそあれマイナス要因はない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・ひろしま菓子博2013の開催で、宿泊客の増加が予想される。
		都市型ホテル（企画担当）	・政府の景気対策が具体的に進展することを期待する。
		タクシー運転手	・公共投資で景気は上向く。
		通信会社（企画担当）	・先行きへの期待感が行動になって現れてくるのは年度区切りのタイミングとなり、1年前と異なりみえやすい形で現れる。
		通信会社（総務担当）	・政府の景気高揚策による購買意欲の向上に期待が持てる。
		通信会社（工事担当）	・需要期に入る。
		テーマパーク（広報担当）	・ここ数年は春先の寒さで来客数が減少していたが、今年は雪も少なく安定しているので、気候の安定が期待できる。
		ゴルフ場（営業担当）	・見通しは良くなっており、3月以降の見込み数も上向いている。このまま延びてくれることを期待する。
		美容室（経営者）	・政権交代で少し安心感が出たのか、来店周期は早まる傾向にある。ただ、単価の上昇は今のところない。
		設計事務所（経営者）	・土木や建築関連の公共投資が補正予算で組み込まれようとしており、今後仕事の件数が増えることを期待している。
		設計事務所（経営者）	・消費税増税前に建物を建設するには9月までに工事契約を行わなくてはならないので、しばらくは駆け込み需要が見込まれる。しかし、コストアップや人手不足が懸念され、今後どこまで成約できるかは不透明である。
		住宅販売会社（営業担当）	・税制改正の見通しについて不安要素はあるが、住宅ローン控除延長やその他優遇制度の情報が出ており、消費税増税による駆け込み需要も見込まれる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	商店街（理事）	・正月効果あまりなく、3～4月は卒入学シーズンであるが、客の財布のひもは固いまま推移する。
商店街（代表者）		・景気が上向いている状況ではないが、政権交代による淡い期待がある。	
商店街（代表者）		・天候次第では現状の来客数を維持できる。	
商店街（代表者）		・いくら政府が躍起になっても、末端に来るまでには相当時間がかかるし、まわりの人も年金の減額で金を使わない。	
商店街（代表者）		・政権が交代し明るい話題も聞くが、観光客の動向に関していい話はない。	
一般小売店〔靴〕（経営者）		・時期的に毎年売上が若干伸びるが、税金や公共料金の値上げが家計を圧迫するので財布のひもは固くなる。	
一般小売店〔茶〕（経営者）		・新政権に変わり良くなって欲しいが、今のところ先が見えない。	
一般小売店〔印章〕（経営者）		・前年は東日本大震災の反動で活発な動きがあったが、今年はそれほどの景気回復はない。	
一般小売店〔酒店〕（経営者）		・政府の経済対策に期待するところはあるが、地方の小さな町には影響はまだ及ばず、この先も現状維持で推移する。株価が上昇したので、その利益を街での消費に回そうという話もある。マインドが上がりれば現実味を帯びてくる。	
百貨店（営業担当）		・高額商品が動いているが、納期が翌日というものが多く、欲しい物を欲しいときに買う傾向に変化はない。	
百貨店（販売促進担当）		・12月末の大手企業の業容縮小も要因となり、県東部エリアの消費環境の好転は見えてこない。また、3月末には京阪神を結ぶ高速道も全面開通となり、より消費の県外流出は強まってくる。	
百貨店（売場担当）		・比較的高額なアクセサリー類の売上が安定している。	
百貨店（購買担当）		・まだ春物の動きは鈍い。アパレル業界では前年とは異なるきれいめの色を違った形で打ち出すようで客の期待は高まっている。円安になってガソリンや食品が高くなり、ぜいたく品にまで手が出せないという懸念が残る。	
百貨店（電算担当）		・常設売場の売上が苦戦している。バーゲンになると来客数が増えるが、いずれにしても消費者の財布のひもが固いのは変わらない。土曜日・日曜日でも来客数が少ない。競合店もできてますます少ないパイの奪い合いとなっている。また、食器、婦人衣料品、食品等全般的に売上は低調である。	
百貨店（販売担当）		・クリアランスも落ち着き、客の購買意欲も次第に低くなっている印象がある。有効な購買策やイベントを仕掛けない限りは売上が見込めない。	
百貨店（営業推進担当）		・株価等の上昇から期待もあるが、当面は変わらない。	
スーパー（店長）		・身のまわりで現状景気を押し上げる要因はない。	
スーパー（店長）		・政権交代があっても現状が続き、客の動きに影響するまでには半年かかる。	
スーパー（店長）		・環境変化がなく短期間で景気が変わる要素がない。	
スーパー（店長）		・一層の寒さと雪などの予報が伝えられ、消費については大きな変化はない。	
スーパー（店長）		・政権交代したばかりで今後期待する。	
スーパー（総務担当）		・気候や燃料費の商品単価への影響が続いている。	
スーパー（業務開発担当）		・何とか特売以外に、あと一品の販売をあの手この手で売り込みをかけるが客の財布のひもは固い。	
スーパー（販売担当）		・客の年齢層が高くなり、買物金額の増加が見込めない。	
スーパー（管理担当）		・年末商戦は来客数の減少で大きく前年を下回ったが、1月に入り営業日数を増やしたことで、売上はほぼ前年並みで推移している。ただ大きな改善とまではいかず、状況に変化はない。	
コンビニ（エリア担当）		・来客数が増加しているが、市内大手電機部品メーカーがリストラを行っているので、景気が上向いているわけではない。	
コンビニ（副地域ブロック長）		・政府の政策効果を見込みたいが、小売業界まで効果が現れるには、まだまだ時間がかかると予想され、2～3か月で景気が良くなるとは考えられない。	
衣料品専門店（地域ブロック長）		・円安による好景気を期待するが、気候が不安定で春物商品の動きが鈍くなる。	
家電量販店（店長）		・景気が元に戻らず、ユーザーを動かすような商品も期待できない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（店長）	・入進学、就職シーズンを迎えて来客数、販売量もある程度期待できるが、年々単価が下がっておりプラスの要因とはならない。また、3月末で太陽光発電の補助金及び売電単価42円/kwも終了するので駆け込み需要に期待したい。
		家電量販店（企画担当）	・以前のエコポイントのような業界に関わる政策を新政権が実施すると景気は良くなるが、具体的な新製品の登場など業界自体が活気付く事象が起きない限り景気状況は変わらない。
		乗用車販売店（統括）	・1～3月は毎年大きな需要が見込まれるが、10～12月の状況から大変厳しい状況が予想される。
		乗用車販売店（店長）	・来客数は一過性のものなので落ち着いてくる。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・良くなる要素が見当たらない。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	・様々な景気対策が動き出しても、末端まで良くなるのは秋以降になる。
		その他専門店〔海産物〕（経営者）	・先月に続き客の動きは低調なままで、景気が良くなっていくようには思えない。
		高級レストラン（スタッフ）	・予約状況に変化はなく、景気判断の材料はない。
		一般レストラン（経営者）	・消費意欲の向上は近い将来は見込み難しく、必需品以外は大きな付加価値が付いたものでなければ購入しないというスキームは変化しない。
		一般レストラン（エリア担当）	・競争相手の価格破壊がますます進んでおり、我が社も一部値下げを実施しなくてはいけない状態となっている。
		都市型ホテル（総支配人）	・観光面においては5月まで景気が上向き要因が見当たらない。
		都市型ホテル（企画担当）	・今後、円安がどのように影響するかが不透明である。
		旅行代理店（経営者）	・新政府になり言葉の上では景気が回復するように思われるが、いまだ施策がみえないので3～6か月後の回復となる。
		タクシー運転手	・新政権に対する評価が高まり乗客数の増加を期待する。
		タクシー運転手	・政権が変わり期待したいが、収入がかなり増えない限り景気は良くならない。
		通信会社（社員）	・新規のサービス申込などに変動がない。
		通信会社（通信事業担当）	・大手キャリア回線などのインセンティブが大きい契約への流れが止まらず、ユーザーがサービスを選択する際の目はより厳しくなる。
		通信会社（広報担当）	・今後の業界全体の動きや各社の戦略により、さらに優劣が強まる。
		テーマパーク（業務担当）	・早春の花修景による集客を見込んでいる。ただガソリン価格の高騰が続いており、行楽支出に対する節約感が強くなり誘客にマイナスになることが懸念される。
		テーマパーク（管理担当）	・政治や株価は上向きだが、地方に影響が出てくるには時間がかかる。
		その他レジャー施設（アミューズメント）	・景品ゲームを中心にキャラクターグッズが多くプレイされて売上が伸びている。また家族連れの来店頻度が高くなってきている傾向もあるため、前年比で10%近く伸びると予想している。
		美容室（経営者）	・店舗縮小や従業員削減などを行って経営を維持する。
		美容室（経営者）	・客の仕事が忙しくなり懐にゆとりがないと景気が上向き状況にならない。
		その他サービス〔介護サービス〕（介護サービス担当）	・ここ半年以上身のまわりで景気の変化がみられるような話が聞かれないことから、2～3か月で景気が上下するとは考えにくい。
		設計事務所（経営者）	・収入の伸びが期待できず消費行動は慎重となる。
		設計事務所（経営者）	・日本の大手企業は海外進出を終えているが、政府はまだまだ大手企業優先政策を進めている。また、規制改革が最優先課題だが既得権益の保守を進めている。まだまだ地方経済に灯りは差し込まない。
		住宅販売会社（従業員）	・客、業者ともに動きはあるものの、先行きの不安感で戸惑っている状況が続く。
		住宅販売会社（販売担当）	・消費税増税や住宅ローン減税延長、贈与税の緩和等、メリットとデメリットが交錯した状況にあり、特に住宅購入の場合は贈与を含めた資金計画も多く、ここ数か月の間に購入・支出のタイミングを見極めることは難しい。
	やや悪くなる	一般小売店〔酒店〕（経営者）	・給与が上がらないなか、復興税などの増税でさらに財布のひもが固くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔紙類〕(経営者)	・地元の客の高齢化が進み来客数が減る。
		スーパー(販売担当)	・これから新生活の商戦を迎えるが、他社との競争は厳しく、それが販売価格の引き下げに繋がる傾向にある。例年と同じ事をしていても利益が上がらなくなっている。景気の上昇を実感するまでには至らない。
		スーパー(財務担当)	・所得減少による客の節約志向に伴い、競合他社の安売り競争と販売促進の激化でますます客単価が下落する。
		スーパー(営業システム担当)	・増税に伴う一時的な消費の上昇は見込めるが、その後の消費は落ち込む。予約販売商品も前年より伸びない状態が続いており、先行きは不安である。
		競艇場(職員)	・来客数の増加が見込めるレースの開催がない。
	悪くなる	スーパー(店長)	・野菜価格の高騰、生活に直結した灯油やガソリンの値上げ等の影響、また今後も円安で値上がりが見込まれ、食費の出費を抑える防衛は更に進む。
		自動車備品販売店(経営者)	・地元大手企業を始め製造業の経営状況が悪く、個人消費の落ち込みが見込まれる。
企業 動向 関連 (中国)	良くなる	—	—
	やや良くなる	木材木製品製造業(経理担当)	・住宅着工件数が伸びている。
		化学工業(経営者)	・円安基調は国内景気上昇要因となり、化学業界の業況を左右する自動車・半導体向け需要の増加が期待できる。
		化学工業(総務担当)	・今後の復興事業や公共投資により国内需要が向上する。
		鉄鋼業(総務担当)	・新政府の施策に期待感がある。
		鉄鋼業(総務担当)	・大型予算、特に公共事業の拡大が実行される。
		輸送用機械器具製造業(経営企画担当)	・取り扱っている製品は最終的に輸出されるものが多いため、極端な円高の是正は好影響をもたらす。
		建設業(総務担当)	・新政権の耐震を主目的とした国土強靱化への建設投資が期待できる。
		輸送業(業務担当)	・円安になり期待が持てる。
		通信業(営業企画担当)	・客訪問時も円安が設備投資に好影響である話題が多く、年度内は前向きな商談が期待できる。
		通信業(営業担当)	・政府の景気対策として、公共事業など具体的な予算執行が行われれば企業の設備投資などにも何らかの変化が現れるが、実際には次年度以降である。なお、時期的に例年同様に年度末に向けた駆け込み需要もある。
		金融業(自動車担当)	・為替が円安傾向を辿っており、自動車の輸出環境が良くなっている。自動車部品メーカーに対するコスト削減要請もやや和らいでおり、収益面でも増加すると期待が持てる。
		金融業(営業担当)	・政権交代後の円安・株価の回復等もあり、取引先企業の経営者との面談で、やや前向きな発言もみえてきている。現時点では具体的な動きには至っていないが、地元大手企業の生産改善が進むことで地元企業の受注回復が期待でき、ひいては地元景気がやや良くなる方向へ進む。
		不動産業(総務担当)	・賃貸物件の需要時期のため、さらに成約件数の増加が見込まれる。
		広告代理店(営業担当)	・販売促進の3～4月に入り様々な業態が活動期となって売上増が予想される。入学・卒業・入社等に伴う販売促進告知広告や募集広告の増加が予想される。
		会計事務所(職員)	・製造業では見積依頼がかなり入ってきており、忙しい思いをしている経営者も見受けられる。また、建設業でも消費税増税の影響でリフォームの見積等が前年より多くなってきている。
		コピーサービス業(管理担当)	・年度末の駆け込み特需が期待できる。
	変わらない	食料品製造業(総務担当)	・2～3月は販売実績が大きく伸びることはない。
		繊維工業(統括担当)	・厳しい経営状態が続く。
		非鉄金属製造業(経理担当)	・昨年末の衆院選を経て円高修正・株価上昇等、国内については潮目変化の気配は感じるものの国際状況は引き続き不透明な状況に変わらない。
	一般機械器具製造業(総務担当)	・受注量や販売量の動きに変化がみられない。	
	一般機械器具製造業(経理財務担当)	・国内需要に変化がみられない。	
	輸送用機械器具製造業(総務担当)	・受注量や販売量の動きに変化がみられない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	建設業（経営者）	・悪いまま推移している。産業廃棄物の量が鈍化している一方、住宅建築は消費税増税の駆け込み需要で注文が増加しており、関連の住宅メーカーやその下請の事業が潤っているが、いつまで続くか不透明である。
		農林水産業（従業者）	・平成24年の年間水揚げ数量は2万663トン、水揚げ金額は54億4,235万2,000円である。前年に比べ水揚げ数量は6,080トンの減少で前年比77.3%、水揚げ金額は64億6,820万円の減少で前年の89.4%であった。
		食料品製造業（総務担当）	・政権交代で株価上昇や円安で景気が良くなっているが、この状況がこの先続くとは考えにくい。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・鉄鋼向け・焼却炉向けとも新規引き合いが低調で、現在の生産量を下回る見込みである。
		金属製品製造業（総務担当）	・工作機械関連で得意先の中国向けの案件数が増加していることは好材料だが、鉄原材料価格の値上がりや造船業界からの値引き要請があり、厳しさは増していく。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・前年に比べ受注量が大幅に減少している。メーカーからの今後6か月見通しを勘案しても実績は悪化傾向にある。特に12月の売上減少は今後の期待感を削ぐものとなる。
		建設業（総務担当）	・地域での大型物件・公共事業の増加で資材や人手の確保が厳しくなるものの、この状況が長期間続く予測も立たず、思い切った雇用拡大も取りにくい。新規受注に向けてアクセルを踏みにくい状況にある。
悪くなる	その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	・海外からの輸入品が高くなる一方、消費税はもとよりガソリン・電気等が一斉に値上がりするため、海外輸出企業は円安の恩恵をうけるが、国内販売関係は非常に見通しが暗い。	
		輸送業（総務担当）	・客から良い情報が聞かれない。
雇用 関連 (中国)	良くなる やや良くなる	—	—
		人材派遣会社（社員）	・新政権への期待感により、適度な円安及び株価の上昇に従って景気は上向き、採用活動が増えると考えられる。
		求人情報誌製作会社（サイト運営担当）	・自動車や電気・電子などの輸出企業で業績の回復が期待される。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・雇用面で新社員入社時期を目前にしても周辺企業に目立った動きはない。ただ、新政府の施策効果から百貨店などで好転の兆しがあり、景気はやや良くなる。
	変わらない	民間職業紹介機関（人材紹介担当）	・景気対策を重視した政策を打ち出していることから、経済全体の動きが徐々に活発化すると思われる。
		人材派遣会社（営業担当）	・人材派遣の受注件数は横ばいで推移しているが、大きく需要が伸びる材料が見受けられない。
		人材派遣会社（営業担当）	・新政府の施策の影響もあり良くなると思いたい、今のところ内需を中心とした業界では変化がない。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	・今後も現状を維持していくという企業の声を多く聞くため、引き続き採用に関しては特に需要が急激に上昇するという見通しはない。
		求人情報誌製作会社（採用支援担当）	・政治の影響がどの程度新卒の求人にまであるかまだわからない状況である。
		職業安定所（雇用開発担当）	・求人が前年に比べ増加しているが、求職者の7割が希望する正社員の求人は全体の40%程度でミスマッチとなっている。求人全体からみる派遣や請負の割合は前年同期と変わらないことから今後も今の状況が続く。
		学校〔短期大学〕（学生支援担当）	・特に変化はない。
	やや悪くなる	その他雇用の動向を把握できる者〔労働機関〕（職員）	・今春の新規学卒求人は件数では前年を上回ったものの、募集人数が絞られているため低水準で推移している。新たな企業誘致の大量採用の話も複数あるが、来年以降のことであり今現在の求人には結び付かない。
			職業安定所（産業雇用情報担当）
悪くなる	職業安定所（産業雇用情報担当）	・管内の事業所で店舗閉鎖や希望退職募集を行う予定があり、今後退職者が増加する。	
		—	—

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計	良くなる	—	—

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
動向 関連 (四国)	やや良くなる	商店街（代表者）	・安定した政権による経済運営の持続を期待し、当面はこの動きに注目したい。
		一般小売店〔乾物〕（店員）	・アベノミクスがうまくいき、参議院選挙までは景気が良くなるのではないかと。しかしながら、消費税増税で、来年の今ごろはどうなっているかすごく不安である。
		百貨店（営業担当）	・客の消費が活性化し、景気は良くなると思う。今後の国の動きに注目している。
		コンビニ（店長）	・現業系の客の来店が増加しており、好循環が始まると考えている。
		家電量販店（店員）	・新生活準備需要で来客数・購入金額共に増加が見込めるため、やや良くなると予想する。
		乗用車販売店（従業員）	・エコカー補助金や新型車発売があった前年と比べて、売上は4割程度落ちているが、決算期（3月）に向けて、受注が良くなっている。
		乗用車販売店（従業員）	・消費税増税に関して何らかの減税措置が講じられそうであること、また、しばらく円安傾向が続くと自動車業界は潤うと思うため、やや良くなると予想する。
		住関連専門店（経営者）	・政権が代わり、円安に振れ、株価が上昇している状況にあるため、少し先が明るい感じがする。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・これから暖かくなると、少しずつ売上も上昇して良くなると思う。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	・引き続き、わずかながら売上増を見込んでおり、やや良くなると予想する。
		通信会社（企画）	・顧客動向からみて、少しではあるが高額商品への関心が増えているように思われる。
		競艇場（職員）	・いい流れで年明けを迎えられた。地元選手の活躍を期待し、一層の集客努力に努める。
		美容室（経営者）	・今より悪くなるとつぶれてしまう。
		設計事務所（所長）	・建設関係の人件費が値上がり始めているため、やや良くなると予想する。
	設計事務所（職員）	・大型補正予算が決定し、事業主体である行政機関が執行に向けて準備を進めていることから、やや良くなると予想する。	
	変わらない	商店街（代表者）	・春先に向けて、商店街内の空き店舗に开店計画があり、かなり明るい兆しがみえるように思う。行政の中心市街地の計画等も発表され、消費者、また経営者のマインドも前向きになっていくと思う。
		商店街（事務局長）	・今後景気が上向くと予想する人は多く、初売りも好調であった。しかし、依然として消費行動は慎重で、商品やサービスへの選択眼には厳しさが感じられる。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・特に上向いたり落ち込む要因が思い当たらない。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・行事やイベントの売上は減っているが、それにこだわらない客が増え、売上が分散している。予約をしてまで商品にこだわって購入する客が減ってきている。予約が少なく、景気が良くなるかは分からない。
		百貨店（総務担当）	・不急・不要商品や高額品の販売数量の鈍化により変わらないと予想する。
スーパー（店長）		・ゴールデンウィークが近づいてきているが、昨年と違い、期待感もなく、景気が上向いて売上が伸びるとは予想できない。	
スーパー（店長）		・景気好転の要素が見当たらない。新政権による景気対策の効果が現れるのはまだまだ先になると思われる。	
スーパー（人事）		・新政権への期待はあるが、効果が出るには1年かかる。	
スーパー（財務担当）		・しばらくは前年並みで推移するとみている。株高、円安、春闘で消費マインドがアップすることを期待している。	
コンビニ（総務）		・天候や気温に左右されるが、景気の先行きが不透明のため消費が増えない。	
衣料品専門店（経営者）		・株価が上昇し、雰囲気も少し良くなってきているが、まだ数字には表れていない。	
衣料品専門店（経営者）		・特になし。	
衣料品専門店（総務担当）		・円安とともに株価が上昇している一方で、ガソリンや野菜など様々なものが値上がりしている。所得増加が短期的に期待できない現状では、衣料品に対する購買意欲の上昇は期待できず、景気が上向くことは考えられない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（店長）	・今の状況から考えると、良くなるとは考えにくい。
		乗用車販売店（従業員）	・ガソリンが値上がりし、燃費の良いハイブリッド車を選ぶ傾向は強くなっているが、販売台数の総数増加には繋がらない。
		乗用車販売店（営業担当）	・市場全体は厳しいが、ダウンサイジングによる新型車の指名買いに助けられている。
		乗用車販売店（役員）	・新車登録は、季節要因もあるので、現在より悪くなるのは仕方ないと思う。当社は新車販売効果もあって、想像したより落ちないと思っているが、自動車業界は、昨年より2割落ち込むと言われている。政府の経済対策に期待しているが、2、3か月先の景気はおそらく悪くなっていると思う。
		その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	・儉約志向が依然続いており、外食を控えるのは当然の成り行きだと思う。
		観光型旅館（経営者）	・2～4月の予約状況は、昨年と比べて良くない状況。景気が上向くという期待感もあり、多少、気分的には変わっていると思うが、まだ旅行のほうは、それほど伸びないのではないかと予想する。旅行消費が伸びるのにはしばらく時間がかかるのではないかと感じている。
		都市型ホテル（経営者）	・新政権が打ち出している景気対策に期待感があるが、なかなか実勢が伴っていかないと思う。円安に振れているので、ガス、電気料金が上昇し、景気はやや下向きになるのではないかと予想する。
		旅行代理店（支店長）	・景気対策の効果波及に期待感はあるが、反面、円安による海外旅行の手控え、米航空機メーカーの新型機が運航停止となった問題の長期化が懸念され、先行きが見通せない。
		タクシー運転手	・タクシーチケットの利用が少なくなっている。給料が上昇したという話をする客はほとんどいない。また、新年会等を会社で実施したという話も聞かなかったため、変わらないと予想する。
		通信会社（営業担当）	・年度末は最大の商戦期であるが、携帯電話の早期取得や、若年人口の減少等により大幅な販売増はないと思われる。
		観光名所（職員）	・日経平均株価の上昇や為替相場の影響が出るのは、もう少し先の話になりそうであり、変わらないと予想する。
		ゴルフ場（従業員）	・暖かくなると若干上向くかもしれないが、全体的にみると、今の状態が続くと予想する。
		美容室（経営者）	・景気対策や税制改革などが打ち出されているが、すぐに消費意欲の向上につながるとは思えない。
		住宅販売会社（従業員）	・新規商談数に変化がないため、成約数は伸びないのではないかとと思う。
	やや悪くなる	○	○
	悪くなる	一般小売店〔酒〕（販売担当）	・政権が代わりニュース等で景気回復と謳っているが、消費者の購買意欲は全然戻らない。まだまだ厳しくなりそうである。
企業動向関連 (四国)	良くなる	食料品製造業（商品統括）	・円安の進行を日本も世界も容認すると思われる。景気は人の気持ちによるところが大きく、今後反映される。
		電気機械器具製造業（経営者）	・再生可能エネルギーの買取価格が変わることになると駆け込み需要が予想され、忙しくなると思う。また、消費税増税前に設備の更新等を行いたい会社も多く、メンテナンス等々が大変増えている。
	やや良くなる	繊維工業（経営者）	・全体的に消費マインドが上向いていると思われる。
		木材木製品製造業（経営者）	・円安株高で気分がずいぶん変わってきた。2016年問題を控え、住宅着工数が落ちると予想される。そのため、各メーカーがシェア確保のために奔走しており、価格はデフレ状態になると思う。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・受注量は、国内は若干増加の傾向。輸出は横ばいだが、為替が円安に振れている影響で収支は改善の方向に進むものと見込んでいる。
		金融業（融資担当）	・円安が進行しており、輸出関連企業の造船関連会社では売上及び収益改善が見込まれる。
		不動産業（経営者）	・消費税増税の来年実施が見込まれており、このところ駆け込み需要が顕著にみられる。今後も続く可能性がある。
広告代理店（経営者）	・現在の調子が続くようであれば、用紙価格が低いことも含めて利益を増やすことができるかもしれない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		公認会計士	・為替相場が円安へ振れていることが非常に大きいようである。資産の処分等を考えていた企業も、しばらく様子を見たいということで、取りやめている企業が多くなってきている。また、銀行からの融資もスムーズになってきているのではないかと思われるため、やや良くなると予想する。
	変わらない	パルプ・紙・紙加工品 製造業（経営者）	・期末に当たる3月には、一定のギフト関係の受注は出てくると思うが、全般的には大きく変わらないと予想する。
		建設業（経営者）	・業界内の動きをみていると、とても2、3か月では変わらない。
		建設業（総務担当）	・円安、株高で景気は回復傾向にあるが、すぐに受注価格に反映されるとは考えられず、当分の間は今の状態が続くものと判断する。
		輸送業（経営者）	・中小企業はまだ不安材料が多い。
		輸送業（支店長）	・燃料単価が上昇傾向でコスト増であるが、業務受注量は年度末に向けて増加しているため、変わらないと予想する。
		通信業（部長）	・円安、株高の傾向ではあるが、景気の先行きの不透明さが払しょくされたわけではなく、法人の携帯電話需要は変わらないと予想する。
		広告代理店（経営者）	・3月ごろに大手流通関係得意先の新規出店等による売上増を見込めるが、消費税増税対策として早くもコスト削減の検討依頼がある。流通関係で消費税増税分を転嫁できない問題が、広告費削減に影響することも予想され、全般としては変わらないか、もしくは厳しい可能性もある。
	やや悪くなる	鉄鋼業（総務部長）	・年初来の円安は将来的な受注増に繋がるが、当社の場合は早くも秋ごろの予想である。
		一般機械器具製造業 （経理担当）	・現在の円安（円高修正）の動きは期待が先行していることによるもので、今後の政策運営次第では反動も大きい。
	悪くなる	輸送業（営業）	・景気低迷による取扱物量の減少は慢性的なもので、一企業による自助努力も限界に近づいている。ここにきて適正運賃を大きく下回った荷主の値下げ要請を受け入れるか否かの選択が、経営の根幹を揺るがす大きな問題となってきている。荷主の値下げ要請を受け入れれば、経営が悪化する事は必ずである。
雇用 関連 (四国)	良くなる	—	—
	やや良くなる	人材派遣会社（営業）	・年度末決算に合わせた事務系や、小売商戦に向けたサービス系の人材雇用が発生することから、景気もやや良くなると考える。しかし、季節雇用の要素を含むため、雇用創造への努力が課題とされる。
		人材派遣会社（営業担当）	・円安による企業の投資などにより、国内需要の生産の増加などがあれば、景気回復に変化があると思われる。
		求人情報誌製作会社 （従業員）	・卒業シーズンに伴い求人数の増加が予想されるため、やや良くなると予想する。
		職業安定所（職員）	・月間有効求人倍率は先月と比較して、0.13ポイント上昇している。また、前年同月と比較しても0.16ポイント上昇している。
	変わらない	求人情報誌（営業）	・製造業、特に下請企業において、独自の路線を見つけ出しているところは不況から抜け出しつつあるが、抜け出せていない中小企業も多く、しばらく景気は横ばいと判断する。
		職業安定所（職員）	・新規学卒者の就職時期が間近になり、正社員の求人が大量に発生するなどの情報は入っていない。
		民間職業紹介機関（所長）	・求人数自体は、前年と比較すると横ばいであり、特定の業種を除けば、余剰に人を採用しようとする企業は少ない。次年度の新卒採用に関しても同様で、いまだに採用計画が決まっていない企業も多いように見受けられる。
		学校 [大学]（就職担当）	・求人は今後も横ばいで推移すると考えられる。
		やや悪くなる	新聞社 [求人広告] （担当者）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	—	—

10. 九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)	良くなる	商店街（代表者）	・新政権に代わり、金融緩和が進み、客の財布のひもが緩む。将来への不安が非常に強かったなかで、客からも多少景気が上向くという希望感が感じられる。
		家電量販店（従業員）	・卒業や入学など新生活が始まる時期であり、例年通り家電が売れる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・円安、株価上昇と明るい材料が多い。また、地場産業である海苔の生産高も好調であり、経済に活気が出ている。景気は底を脱し、今後良くなる。
		商店街（代表者）	・他社の経費が大幅にアップするので、当社の売上も上昇する。またメディアの取材やホームページ等ソフト面の強化を行っており、その結果が来月に出る。
		商店街（代表者）	・政権交代によって経済政策が期待され、今後、景気は良くなる。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・これから2、3か月先は、花屋が最も儲かる時期である。卒業式や入学式、母の日などの社会行事があるため、早め早めの準備や予約の取りつけが必要である。
		百貨店（売場主任）	・政権交代の好影響と前年3月の東日本大震災1年目の冷え込みが今年はないので、景気は緩やかに上昇する。ただ、大きなファッショントレンドがみえず、クールビズも3年目なので、メンズファッションでは他分野に比べて回復のスピードが遅くなる。
		百貨店（営業担当）	・短期で見ると、株価の状況等が実態経済に反映されていない。また、円安によるガソリン価格の高騰や生活に直結する電気料金の値上げにより家庭はひっ迫する。景気回復には時間がかかるが、マインド的には少しは良くなる。
		百貨店（販売促進担当）	・春物定価品の動きが良くなり、更に新しい客が増えることが見込まれるため、多少なりとも景気は上向き傾向になる。
		百貨店（営業政策担当）	・政府の経済政策に対する期待が高く、今後、景気は良くなる。
		スーパー（店長）	・円安、株高基調ではあるが、デフレ脱却のきっかけとなり、景気はやや良くなる。
		スーパー（総務担当）	・客の動きをみると、購買点数に若干改善の兆しがあり、目的買いだけでなく、関連商材への購買傾向もみられる。客の消費マインドが若干改善されている。また、政権交代により、為替や株にも改善の動きがみられ、景気回復の期待感が若干ながら消費に有利に影響していく。
		家電量販店（店員）	・新政権となり、アベノミクスの経済政策が非常に期待される。当社は新しいシステム等を勉強し、これから反転攻勢に打って出る時期となっている。現在の経済の上昇気流に合わせ、当店も頑張っていかなければいけない。
		乗用車販売店（従業員）	・新車が売れると中古車の在庫が増え、状況は良くなる。
		乗用車販売店（総務担当）	・株価上昇など景気回復の兆しがみえ、エコカー補助金終了による反動減も一服し、新車販売台数は前年を上回ることはできなくても計画販売台数は確保できる。
		乗用車販売店（代表）	・前年度後半がかなり悪かったため、1月から少し動き始めている。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・前年同様、12月が一番売上が上がり、1、2月は若干売上が下がり、需要が落ち込む。春先にかけて気温が暖かくなると客の入りも良くなる。今年も2、3か月先の景気はやや上向きとなる。
		その他専門店〔書籍〕（地区支配人）	・春は夏、年末に次ぐ大きな商いの時期であり、購買力が上がる月を迎える。東日本大震災から2年を迎える節目もくることで、商材にも活気がでてくる。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・景気回復策が今後、プラスに働く。ただ、電気代の値上げや消費税増税などもあり、必ずしも楽観視はできない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（広報担当）	・政府の経済対策の効果に期待する。先行きの見通しが多少でも良くなれば、消費環境に良い影響を与える。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		居酒屋（経営者）	・政府の景気対策による効果が多少は出てくる。
		都市型ホテル（副支配人）	・例年に比べて手持ちの予約状況が良い。グループや当地でのイベントが定期的であり、今後も良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・2、3月の予約状況は順調である。特に若い世代の家族旅行が増えつつある。旅行に出かけたいという意識が高まっている。
		旅行代理店（企画）	・海外旅行については4月以降、福岡からヨーロッパへの直行便が就航することにより、シニア層を中心に需要が高まる。国内旅行については、東京の有名テーマパークが30周年ということもあり、春休みからファミリー層を中心に大きな動きが想定される。
		タクシー運転手	・政権が代わり、雰囲気が変わっている。4月という新しい年度も始まり、景気は良くなる。
		通信会社（販売部）	・例年2、3月は新生活前の需要が高まる。今年も例年通り景気は良くなる。
		通信会社（営業担当）	・円安により、製造業者の景気が良くなる。また、これから公共事業等が開始され、建設業界も良くなる。
		通信会社（総務局）	・入退きの繁忙期に入り、新規契約の伸びが期待される。
		美容室（経営者）	・2、3か月先は景気が少しずつ回復してきて、今よりは良くなる。春になれば人が動き、お金も動く。政府のテコ入れも効果が現れる。中小企業まで手の届く施策が期待される。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・補正予算により、ある程度の景気に対する刺激を与えられる。また、消費税増税を控えており、駆け込み需要が発生する。
		住宅販売会社（代表）	・来客数や制約の受注率は、昨年からの流れではあるが、これから2、3か月先は少し良くなっていく。
変わらない		商店街（代表者）	・新聞等で株価の上昇、円安の影響により、デフレからの脱却が叫ばれているが、一般消費者には税金負担増の心配などもあり、購買意欲は好転しない。
		商店街（代表者）	・円高、政府の政策等客のなかでもいろいろと話はあるが、商店街が潤う政策が具体化され、小売店が元気になるような政策が必要だ。まず小売店の店主の努力が必至であるが、小売店が元気になるような政策も必要である。
		商店街（代表者）	・政府の経済対策で少しは良くなってほしいが、地方の商店街にまで効果が出るのはまだ先のことになる。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・政権が代わり、アベノミクスにより様々な政策が出されているが、現実的にプラスになったと客が実感するまでは、少し厳しい状況が続く。景気が良くなっても、当地の生産物は都心に引張られる傾向があり、そこで相場が上がるため、厳しい状況が続く。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・先行きへの不安が大きく、全く希望が持てない。手の打ちようがなく、お手上げ状態が続く。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	・株価等は上昇しているが、そのことがすぐに生鮮食品の卸小売業には影響しない。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・株価が上がって、今後の売上に期待できそうではあるが、すぐに景気が向上するわけではないので、現状を維持することが大事である。
		百貨店（営業担当）	・来客数はこの半年間、前年比2.1%減で推移している。この推移は2、3か月先も続く。特に当地は口蹄疫終息後、少し明るい兆しも出てきているので2、3か月後は上向き加減となる。この3か月間は現状のまま推移する。
		百貨店（売場担当）	・来客数は前年比1～2%減という状態がずっと続いている。来月は大きなイベントがあるため、例年通り、売上が上がる。ただ、前年が閏年であったため、前年比はマイナスとなる。また、気温によって春物や定価品がどれだけ動くかというのが鍵になる。天候要因はかなり大きい。客の mindset は冷えたような様子はないので、前年並みで推移する。
		百貨店（業務担当）	・消費税増税の報道が多くなされ、客との対話でも、消費税の話題に及ぶことが多い。実際の生活にどう影響が出るかわからない客は、相当不安のようで消費にも慎重になっている。今後もこの状況が続く。
		スーパー（店長）	・前年からの減少幅はわずかであるが、店内での客の会話は価格に対してシビアなものが多い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・乗客数は前年比2%減まで戻ってきているが、客単価が少し落ちており、前年比4%減である。1品単価をいかに上げるかが競合に勝つ手段であり、2～4月までは当店では苦戦する状況が見込まれる。客の様子をみると、以前と変わらないような状況で推移し、必要な物だけを見極めて買うという状況が見受けられる。
		スーパー（店長）	・政権が変わって景気対策や株価の上昇で期待は非常にしているが、現状ではまだまだ先が見通せない。
		スーパー（店長）	・今後も競合店が大きく影響してくる。昨年伸びていた分も含め、乗客数は大幅に減少する。
		スーパー（総務担当）	・客の価格に対する意識は相当高く、競合店との価格競争はまだまだ続く。今後も厳しい状況が続く。
		スーパー（業務担当）	・冬物最終処分が終わり、春物へと移行しつつあるが、低温傾向が続いており、衣料品の動きが極端に鈍い。食料品も青果の価格高騰も収まらず、今の状況が数か月続き、大きな変化は起こらない。
		コンビニ（経営者）	・アベノミクスがセンセーショナルな形で報道されているので、実際の客の行動にマインド的な期待感が現れている。ただ実態経済としては、それほど改善の方向に向かっていない。
		コンビニ（エリア担当）	・政権が変わり、いくらかの変化が出るが、中小企業の従業員の給与が上昇するわけではない。そのためすぐに消費が良くなるというわけにはいかない。景気もすぐには回復しない。
		コンビニ（店長）	・為替の動きが激しく、先がみえない。今後も厳しい状況が続く。
		コンビニ（販売促進担当）	・売上を一番稼いでいる量販店部門では、食パンの価格帯が70～90円、菓子パンにいたっては100円前後という低単価な状況である。その状況下で生産を増やし、販売個数を増やしたとしても、売上は上がらない。2月3日の節日もクリスマス同様、日曜日と重なるので会社関係の受注がない。今後も厳しい状況が続く。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・オープンして3年目であり、その間の売上、乗客数は少しではあるが伸びている。ただ、たばこの販売数が少しずつ頭打ちになり、前年割れの傾向にある。禁煙ブームもあるが、乗客数に反してたばこの販売が伸びていない。それが売上を少しずつ落としてしている原因となっている。
		衣料品専門店（店長）	・イベント等施策を打っても来街者が増えない。今後も厳しい状況が続く。
		衣料品専門店（店員）	・今年は消費税増税前の駆け込み需要が発生する。
		衣料品専門店（取締役）	・4月のファッション業界は気候に左右されるが、ちょうど春物が気持ち良く着られる時期である。給料を上げるためには、売上を上げないといけない。売上を上げるためには企業努力を続け、魅力的な商材で構成していく。景気が良くなる理由として、情報が先行しており、実態は何とも判断がつかない。各企業とも売上が上がらないと人件費が上がるわけではない。
		衣料品専門店（総務担当）	・強力な景気浮揚策が現在行われているが、その効果が我々末端消費者まで回ってくるには、しばらくの時間がかかる。今後3か月位では顕著な変化はみられない。やはり、現実には効果が出てくるのは給与が上がる等、具体的な動きが出てからである。
		衣料品専門店（チーフ）	・紳士服業界の今年のトレンドは、スーツというよりはジャケット、パンツのセパレート購入が中心となる。そのため、スーツの単価及び客単価がダウンし、ジャケット、パンツの購入比率が上がる。
		家電量販店（企画・IR担当）	・地上デジタル放送移行前の特需の反動で、テレビの販売量が今後2～3か月先に、前年と比べ大きく伸長するとは考えにくい。
		住関連専門店（経営者）	・インフレ誘導対策や景気回復対策等様々な施策が始まっているが、円安によりガソリン等の価格が上昇している。物価が上がり、所得が横ばいで推移する懸念があり、消費者の財布のひもはまだ固い。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・燃料油の小売価格は安定しているので、為替が極度の円安にならない限り、仕入価格の大幅な上昇はない。当面は各油種とも昨年並みに販売できる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔書籍〕(代表)	・新政権への期待はあるものの、金融円滑化法の期限切れの影響が今後、どう出るか分からない。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕(従業員)	・政権が代わり、新しい財政政策、金融政策等が打ち出されたが、その効果が地方まで浸透するには時間がかかる。
		高級レストラン(支配人)	・先の予約が埋まらない。問い合わせが少ない。
		高級レストラン(従業員)	・周りの店がセールをやっているので、客の動きが良くなるが、2、3か月先は分からない。
		観光ホテル(総務)	・売上の予測状況を見て、今後も変わらない状況が続く。
		観光型ホテル(スタッフ)	・2月は当地のイベントにより、宿泊予約が順調に推移している。昨年より多い。
		都市型ホテル(販売担当)	・政府が行おうとしている経済対策は、会社や私生活にはすぐに反映されず、数字には表れない。
		タクシー運転手	・現在はかなり株が上がっているため、それによって消費者の懐状況がいくらか良くなる。また国の経済対策も期待できる。
		タクシー運転手	・今年は何に関してもその時にならないとどうなるか分からない。人が多い日もあれば少ない日もある。このような年は初めてである。
		タクシー運転手	・予約客は2月も好調であり、よく動いているが、夜の繁華街の客の動きが今一つである。
		通信会社(管理担当)	・資金調達が難しく、すぐに資金繰りが回復する見込みがない。
		通信会社(企画担当)	・季節要因で販売量の増加は見込めるが、基調としては低迷を脱する理由が見当たらない。
		通信会社(業務担当)	・2月は、例年のようにスマートフォンの販売量が伸びることが予想されるが、他社への流出も相変わらず続いており、月間の販売数は昨年を下回る。今後もこの状況が続く。
		ゴルフ場(従業員)	・今後予想される来客数の伸びが鈍化しており、向こう3か月間、客はゴルフをする余裕がない。会社のゴルフコンペや接待ゴルフ等が入らないと個人客が増えない状況下では厳しい。2、3か月はさほど大きく変わらない。
		競輪場(職員)	・来場者数は改善していない。今後もこの状況が続く。
		理容室(経営者)	・今年も例年通り、3月後半に入ると卒業、入学と客の動きが少し良くなる。
		美容室(店長)	・景気が良くなるようにみえるが、まだ政権に対しての不安が残っており、今後は変わらない。
		設計事務所(所長)	・設計事務所では、耐震補強や消費税増税の駆け込み需要により、今年中にやっってしまうという客が増えており、やや良くなっている。
		住宅販売会社(従業員)	・当初は年明けからの消費税増税特需を見込んでいたが、増税時期が流動的になってきたのに加えて、税制改革で来年度入居からの住宅取得控除が拡充される方針が示されたため、今後2～3か月の間については変わらない。
	やや悪くなる	商店街(代表者)	・3、4月は卒業や入学、結婚等が続くので、客の出費が増える。そのため食に対しての出費が抑えられ、かなり厳しくなる。
		百貨店(営業統括)	・政権交代したものの、目の前の生活が良くなる材料が少ない。
		百貨店(店舗事業計画部)	・当店への影響は測りづらいが、電気料金値上げが始まることや九州電力の経費削減策に影響を受け、地域全体で賃金抑制傾向が進むことで、節約志向が高まる。
		スーパー(売場担当)	・12月は例年より売上、来客数共に良かった。1月は前年を下回り、厳しくなる。商品価格も値上げ傾向にある。特に輸入商品は厳しい。所得は下がっているのに、物価が上がり、2、3月は更に厳しくなる。
		家電量販店(総務担当)	・携帯電話と太陽光発電関連の販売だけでは、家電の落ち込みをカバーできない。
		高級レストラン(経営者)	・今までがずっと悪過ぎたこともあり、12月は忘年会で来客は多く、1月に入っても前年より良かった。2月も少しずつではあるが、予約が入っている。下向きであった景気も少しずつは良くなるが、実際はまだ良くなるとは言えない。
		高級レストラン(専務)	・政権交代したが、はっきりした効果がみえず、消費者はまだ不安を抱いている。今後、景気が良くなる状況ではない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		ゴルフ場（支配人）	・2～3月の降水量は平年並みと予報されているが、例年2、3月に菜種梅雨で著しく入場数を落としており、予断を許さない。また地域経済の冷え込みははまだ厳しく、不況と感じている人も多く、ショップの買物もウェアや消耗品のみである。	
		競馬場（職員）	・来客数等の数値が振るわない状況が続いている。今後もこの状況が続く。	
		住宅販売会社（従業員）	・政権交代してから期待感が高まり、株価等が上がっているが、今後ずっと続いていく景気浮揚策になるのかという不安はあるので、景気についてはあまり期待できない。	
		悪くなる	スーパー（店長）	・今後の消費税増税のことも含め、先行きへの不安感が払しょくされず、景気は上向かない。
		衣料品専門店（店長）	・政権が代わって世の中の動きがどう変わるのか、期待する反面、借金財政をどうやって立て直すのか、不安な要素もある。疑心暗鬼で皆、様子をみている。今後も厳しい状況が続く。	
		自動車備品販売店（従業員）	・カーオーディオやカーナビなどの売上をカバーできる代替商品がない。今後も厳しい。	
企業 動向 関連 (九州)	良くなる	○	○	
	やや良くなる	農林水産業（経営者）	・現実に物の動きが良くなりつつある。鶏肉の輸入は円高にも少し歯止めがかかり、国内産の評価も上がり、鶏肉相場はなんとか落ち着いている。	
		家具製造業（従業員）	・現在の商業施設向け家具見積は3、4月までの案件で、前年と比較しても10～15%程度は多くなっている。商業施設やホテル、飲食等の家具需要は上向きになっている。	
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・例年、自治体向け案件については、年度末の予算消化に向けて受注率が増える。	
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・受注関係は顕著に推移する。少し高めでも良いからという話がいくらかあり、今後、プレミアム価格の物の動きに期待する。	
		鉄鋼業（経営者）	・建築物が主たる対象としての鉄筋の出荷量が少し増加している。月別の受注量も大幅なバラつきが少なくなっている。ただし、鉄筋加工や工事現場での型枠工の不足から工事が遅れ、出荷量が伸び悩んでいる。	
		金属製品製造業（企画担当）	・先月あたりから受注量が上向いている。今後も良くなる。	
		一般機械器具製造業（経営者）	・ユーザーの輸出価格が若干上向きに動くのではないかと期待している。その場合の受注量は、単価に反映されるので期待される。	
		精密機械器具製造業（従業員）	・為替相場にもよるが、生産計画では受注量が増えつつあり、今期、黒字計画を見込んでいる。	
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・北米向け車両の生産量回復に伴い、発注量が増加する。	
		建設業（従業員）	・大型物件の受注に成功し、公共工事も増加傾向にある。しかしながら、民間工事は収益率が悪く、競争激化により、採算は取れないものの、見積案件は多くなっている。	
		建設業（社員）	・新政権になり、大型補正も決定し、2か月後には景気は良くなると期待される。市役所では、補正についてある程度の動きがあるようだが、都道府県については、今一つ動きが鈍い。地元業者が潤うような公共事業の早期発注が期待される。	
		輸送業（従業員）	・日用品や食料品等雑貨関係はそれほど変わらないが、製材の輸入が増えている。住宅建材用の木材や日曜大工用のパルプ材やポプラ材等木材関係のコンテナが増えている。	
		輸送業（総務）	・消費税増税を受け、建築資材関係の荷動きが増えている。	
		通信業（経理担当）	・アベノミクスにより、景気上昇が期待される。	
		金融業（従業員）	・アベノミクスにより円安、株高に流れが変わり、景気の先行きに明るい兆しがみえる。個人消費は、ハイブリッド車や軽自動車の売行きが上向き、スマートフォンの売行きも好調である。公共工事の増加も期待できるほか、住宅投資も回復傾向となっている。	
		金融業（営業）	・円安傾向が続くと、国内生産が回復してくる。また、公共工事など実需が増加すれば、現在、資金繰りがひっ迫している業種を含め、幅広くお金が行き渡る可能性がある。	
		金融業（営業担当）	・建設業を中心に受注高は前年比増となっている。先のみえる経営ができ始めている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（調査担当）	・企業を中心とした取引先との会話から、景気対策に向けた公共工事等に期待が集まっている。期待先行だが、2、3か月先の景気上昇の期待感の関係各所から聞こえてくる。
		不動産業（従業員）	・マンション販売の成約戸数の実績が順調に推移している。今後もこの状況が続く。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・今後の動きに関して言うと、特に建築関係において期待の声は非常に多い。また、消費税増税という問題もかかえ、駆け込みの工事がかなり増える。また太陽光関係について、3月までに工事を終わらせたいという客が多く、今後かなり動き出す。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・問い合わせ件数が増えており、また、取引先に業況を聞くと、明るい見通しであると回答する経営者が増えている。
	変わらない	農林水産業（従業者）	・生乳関係の販売は前年並みで推移している。ただ、乳牛の飼料の価格が非常に高止まりになっていることが一番の懸念材料である。
		繊維工業（営業担当）	・受注は増えるが、工場働く人が減っており、仕事をなかなか増やせない。雇用したくても、働き手を確保できない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・設備や機械部品における、見積りや引き合い等は、エネルギー関連を除けば、大きな変化はなく、前月に引き続き低調である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・市場の動きが安定するには最低でも半年はかかる。3か月先の状況は全く変わらないが、これは1年間あるいは半年位はこの状態が続くという厳しい判断を持っている。しかし、なんとかしなければならず、様々な施策を取り入れて頑張っていく以外方法はない。
		通信業（職員）	・年度内の受注量が大幅に伸びる見込みはなく、低調なまま推移する。
		新聞社（広告）（担当者）	・年度末に向けて旅行、官公庁などの出稿が増える見込みである。しかし、通信販売の広告が前年をやや下回る見込みであり、トータルでは前年並みで推移する。
		広告代理店（従業員）	・1月の新聞折込枚数は前年比2.8%減と今月も前年を超えることができなかった。相変わらず娯楽の業種であるパチンコ業界が以前のような活況がなく、受注枚数は次第に減少している。政権交代以後、不動産業が活性化しており、期待されるが、まだ変化はない。少しずつ回復しているのが、通信販売の健康関連のチラシである。
		広告代理店（従業員）	・売上は前年比3%減の低迷停滞の状態が続いている。今後もこの状況が続く。
		経営コンサルタント	・営業をしても、それに対してほとんど反応がない。もっと違う方法を考えなければいけないのか、非常に状況が悪い。今後も厳しい状況が続く。
		経営コンサルタント（社員）	・デフレ脱却の雰囲気はあるが、実際は消費者の動きにつながっていない。今後もこの状況が続く。
やや悪くなる	輸送業（総務担当）	・燃料代が上がり、電気代も値上がりする。円安になれば物価も上がる。荷物は段々少なくなっていく、厳しい状況が続く。	
	悪くなる	食料品製造業（経営者）	・昨年末の実績は、やや上向き傾向を示していたが、1月は予想に反し、昨年と比較して業績が低迷している。例年とは異なり、2月及び3月の南九州への観光客の動向を予約からは予測しがたい状況で、景気が悪化する心配が濃厚である。
		その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	・新政権により補正予算が生まれ、市町村の公共工事、特に道路建設などに予算が組まれるのではないかと土木関連の事業者は期待感が大きい。既に、ハローワークでは土木設計技術者の求人が例年と比較してかなり多く出ている。しかし、市町村の予算に組まれるには、数か月かかるため、当面現状の悪化の方向で推移する。
		雇用関連	良くなる
(九州)	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・消費税増税の特需を見込んで、営業増員を派遣で補う企業が増える。
		人材派遣会社（社員）	・年度末に向けての注文が増える時期である。また、実際に3、4月スタートの注文がある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・参議院議員選挙までは、アベノミクス効果を期待している。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新政権による経済活性化策により、地域の雇用にまで波及することが期待される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・株価の上昇等により、消費マインドが好転し、売上が増加しているデパートも見受けられ、今後、求人の増加が期待できる。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・ヒヤリングをするなかで、採用担当者は採用に対して前向きであり、採用意欲が高い。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・政権交代により、柔軟な人材活用の法律に変化する期待がある。しかし、即効性に乏しく、しばらく時間がかかりそうだ。
		人材派遣会社（営業）	・良くなると期待を込めた声を聞く機会が増えたが、実態は、前年と変わらない雇用状況となっている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・建設業の孫請けとみられるような企業の求人が動き始めている。しかし、なかなか採用には結びついていない。仕事があっても人がおらず、仕事を受注できなければ、厳しくなる一方である。
		職業安定所（所長）	・管内においては各業種とも改善の要素が見当たらない。
	やや悪くなる	職業安定所（職業相談）	・年明けから大手カメラ部品製造工場が減産体制に入っていることから、同社への派遣、下請会社において一部雇用調整が行われているが、当初の予想を下回る規模となっている。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	・求人件数は増加しているものの、厳選採用という厳しい就職環境は継続している。また、採用予定数に満たなくても選考活動を終了している企業が見受けられる。
		職業安定所（職員）	・金融円滑化法の期限切れを前に、中小企業では倒産に追い込まれた企業もあり、先行きを不安視する声が多い。
	悪くなる	民間職業紹介機関（社員）	・単発派遣が労働者派遣法の改正により減少している一方で、様子見なのか長期案件も現在出し控えをしている企業が多い。大手を中心とした派遣依頼が見込めない。
民間職業紹介機関（支店長）		・客の経営環境の改善も見込めず、人材需要が増加するはずがない。新規の需要がほとんどなく、むしろ昨年度以上に悪化している。	

11. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (沖縄)	良くなる	－	－
	やや良くなる	百貨店（営業企画）	・買上客数は前年を上回っているため、会員限定の割引祭や特典など施策を工夫し来客数を増やしたい。
		コンビニ（経営者）	・政府の景気対策で客の意識が変化し、購買意欲が高くなり財布のひもが緩みつつある。
		コンビニ（経営者）	・近隣にマンションが完成し、来客数増が期待できる。
		通信会社（店長）	・新入学シーズンを迎えるため市場は活気づき、特に今年は学生とその家族にもターゲットを広げているので販売に期待が持てる。
		観光名所（職員）	・予約状況が良い。
		その他のサービス〔レンタカー〕（営業担当）	・政権交代による期待感から、観光需要は伸びてくるものと推測される。実際に、2月、3月の予約状況も前年比105%と順調に推移している。
		住宅販売会社（総務・企画分野）	・新年度に向けて、業界としての広報、集客活動等の営業活動が活発になり、客も同様に動くことが予想される。消費税増税の件もあるが、建売棟の引き合いも増えてきており、受注や販売は、やや良くなるとみる。
		住宅販売会社（代表取締役）	・「消費税増税」を意識した住宅建築相談または建築着工が増える見込みである。また、公共工事予算の増加による工事受注の機会が増える。
	変わらない	スーパー（販売企画担当）	・円安や株高により景気が良くなっている話を報道などで聞くが、身の回りでは全く感じない。まだ将来への明るい材料とは感じない。
		コンビニ（エリア担当）	・現在と同じで安定した様子が続くと判断する。
		衣料品専門店（経営者）	・今月の前半はセール需要と成人式などの需要で少しは良い感じを受けたが、それでも以前ほどは良くない。現状、前半の反動から、後半は良くなっていない。
		その他専門店〔楽器〕（経営者）	・年明けていろいろと交付金など景気の良い話があるが、効果はずっと後からなので、当分は厳しい状況である。
その他専門店〔書籍〕（店長）		・今月は若干の下げ幅で済んだが、いまだ回復傾向にあるとは言えない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		ゴルフ場（経営者）	・特に大きな問題は無いので、希望的観測ながら、そんなに大きな変化は無く、このまま推移すると見込んでいる。
	やや悪くなる	コンビニ（エリア担当）	・競合店の出店が多数ある見込みと、道路開通で絶対客数が減る等の要因で、既存店は厳しい状況が続く。客単価は前年をやや超えているが、来客数の減少をカバーできていない状況である。
		観光型ホテル（マーケティング担当）	・今月の前年比稼働率振れ幅よりも、先3か月の予約状況から推測される予測稼働率振れ幅が、若干落ちる見込みである。3月の春休み期間に関しても、まだまだ予約の伸びが弱い状況である。
	悪くなる	商店街（代表者）	・商店街等の小売店からの話では、客の消費単価が相当落ち込んでいる。政治の影響もあるのかとみている。客の給料自体が上がれば見通しは良くなるはずだが、なかなか上がらない。小売店等は厳しい状況下に置かれている。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・食べ飲み放題、一律低価格がエスカレートし、その上テレビの影響もあり、客はより高品質、より高いサービスを求める。人件費の高騰、原価の上昇傾向で利益を圧迫している。
企業 動向 関連 (沖縄)	良くなる	○	○
	やや良くなる	窯業・土石製品製造業（経営者）	・民間工事向けは横ばい、公共工事は年度末に向けやや増の見込みである。
		建設業（経営者）	・引き合い件数が増加している。
		輸送業（代表者）	・競争相手の一部に、東日本震災復興関係で多忙のところがあるとの情報がある。
		輸送業（本社事業本部）	・春の入学シーズン需要による商品が増加する可能盛が大で、事務用品、学習デスク、更には引越しによる家具購入などが期待できる。更に通信販売の受注量も増加予測のため、取扱量の増加が見込める。
		通信業（営業担当）	・契約案件の要員確保の為に協力会社へ派遣依頼をするも、「既に他の会社等に派遣しているので要員がいない。」との回答がほとんどである。契約案件の単価が高い安いは別として、沖縄県内の同業者は全体的に仕事の確保には不自由していないように見受けられる。
		広告代理店（営業担当）	・国内景気が上向き傾向にあることで、県民の消費行動も多少なりとも活発化することや、域外消費を拡大する動きも高まることが想定されていることから、県内企業の販促投資に期待している。
		会計事務所（所長）	・震災の影響も無くなり、金融緩和が少しは良い方向に影響すると見込んでいる。
	変わらない	食料品生産業（総務）	・短期的には、現在の状況がまだまだ続くとみる。新たな政策の効果が雇用、消費などで顕著にならないと良くなったとは感じにくいのではないかと。
	やや悪くなる	—	—
悪くなる	—	—	
雇用 関連 (沖縄)	良くなる	—	—
	やや良くなる	人材派遣会社（経営者）	・現在の依頼状況を見ると、もうしばらく同じように人材の募集は出てくる感じはする。周りが少し活発に動き出したようにも感じる。ただし、依頼があっても人材がなかなか無く、契約までに時間がかかったり見つからずに、その依頼を見送ったりすることもあるので、数字にどこまで結び付くかよく分からない。
		人材派遣会社（総務担当）	・年度末に向けて決算業務や、それに伴うデータ入力などの案件が増えてきている。ここに来て、円安、株高といった景況感もあり、新年度営業体制への求人増が期待できる。
	変わらない	求人情報誌製作会社（総務担当）	・引き続き、高い水準で求人件数が推移している。今が上限か。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・新政権に対して景気回復を期待しているが、実際には痛みを伴う仕組みが浮き彫りになってきているようにみられ、そう簡単に財布のひもは緩まないと予測する。
	やや悪くなる	—	—
悪くなる	—	—	